

福祉に関するアンケート調査 報告書

令和3年1月
阪南市

目次

I 調査の概要	1
1 調査目的.....	1
2 実施概要.....	1
3 報告書の見方.....	2
II 調査結果	3
II-1 障がい者調査	3
1 対象者及び家族の状況について.....	3
2 障がいの状況について.....	10
3 住まいや暮らしについて.....	17
4 日中活動や就労について.....	19
5 障がい福祉サービスなどの利用について.....	31
6 相談や情報入手などについて.....	39
7 人権擁護について.....	45
8 災害時の避難などについて.....	54
9 地域の活動等について.....	58
10 福祉全般について.....	62
11 自由意見.....	65
II-2 障がい児調査	67
1 対象者及び家族の状況について.....	67
2 障がいの状況について.....	74
3 住まいや暮らしについて.....	81
4 日中活動について.....	83
5 障がい福祉サービスなどの利用について.....	88
6 相談や情報入手などについて.....	93
7 人権擁護について.....	97
8 災害時の避難などについて.....	103
9 福祉全般について.....	106
10 自由意見.....	108
II-3 事業所アンケート	109
資料編	
1 障がい者調査票（18歳以上～65歳未満）見本	
2 障がい児調査票（18歳未満）見本	
3 事業所調査票見本	

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、令和3年度を初年度とする第4次障がい者基本計画などの策定にあたり、本市にお住まいの18歳以上～65歳未満で障がい者手帳を所持している方、18歳未満で障がい者手帳を所持している方、および特別な支援を必要とする方の、福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てるため、また、障がい福祉サービス事業所を対象に、今後の障がい福祉サービス・地域生活支援事業に関する意向を把握し、阪南市のサービス見込み量算出の基礎資料として活用することを目的とする。

2 実施概要

	調査区分		
	障がい者調査	障がい児調査	事業所アンケート
(1) 調査対象	市内在住の 18歳以上～65歳未満の 障がい者手帳所持者	市内在住の18歳未満の 障がい者手帳所持者、 および特別な支援を 必要とする方	阪南市民が利用して いる大阪府内の障がい 福祉サービス事業所
(2) 配布数	1,200件	222件 (手帳所持者150件) (非所持者72件)	48件
(3) 有効回収数 [有効回収率]	477件 [39.8%]	85件 [38.3%] (手帳所持者51件[34.0%]) (非所持者34件[47.2%])	35件 [72.9%]
(4) 調査方法	郵送配布・郵送回収	郵送配布・郵送回収 (手帳所持者) 郵送及び窓口配布・郵送回 収(非所持者) 特別児童扶養手当対象者 に窓口で配布	郵送配布・郵送回収
(5) 調査期間	令和2年8月3日～8月21日 (障がい児調査の手帳非所持者は9月18日)		

3 報告書の見方

- (1) 図表中の「n (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表している。
- (2) 回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものである。そのため、単一回答であっても合計値が100.0%にならない場合がある。また、図のコメントにおいて、複数の項目を合算した数値を記載する際は、各項目の回答数を合算した上で割合を算出しているため、図の数値（割合）を合算した値と異なる場合がある。
- (3) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示している。そのため、合計が100.0%を超える場合がある。
- (4) 図表中に以下の表示がある場合は、複数回答を依頼した質問を示している。
- ・ MA % (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・ 3 LA% (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
 - ・ 2 LA% (2 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを2つ以内で選択する場合
- ※特に断りがない限り、単一回答（回答選択肢の中からあてはまるものを1つだけ選択する）形式の設問である。
- (5) 一部設問について、前回調査（平成29年度調査）の結果を掲載し、比較を行っている。

II 調查結果

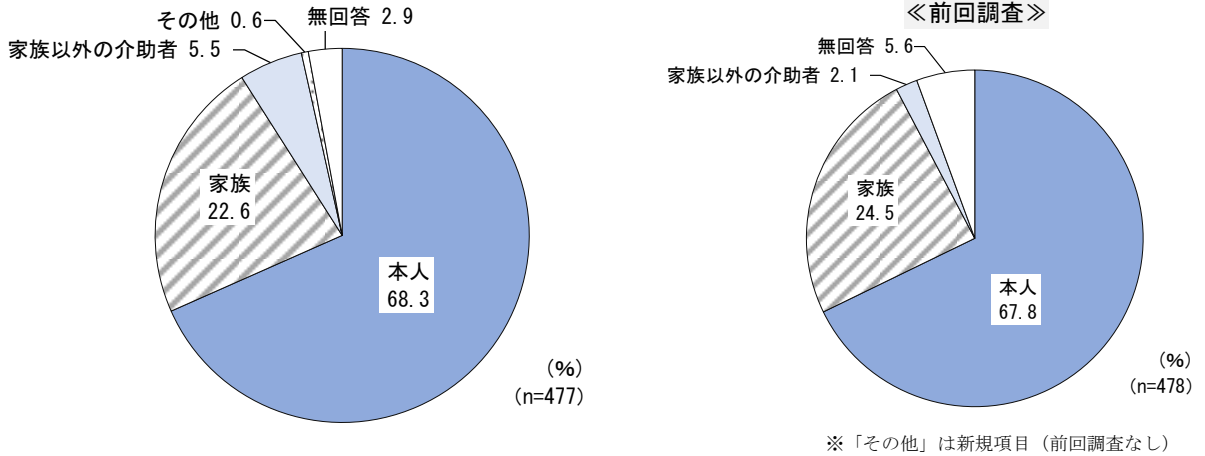
Ⅱ - 1 障がい者調査

1 対象者及び家族の状況について

(1) 回答者

問1 お答えいただくのは、どなたですか。(〇は1つだけ)

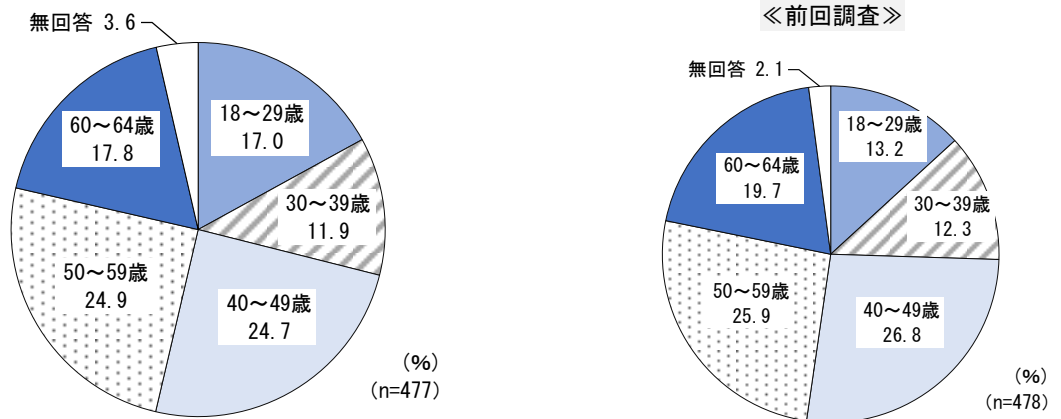
回答者として、「家族」が22.6%、「家族以外の介助者」が5.5%みられる。



(2) 年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。(令和2年7月1日現在)

回答者の年齢は、「50～59歳」が24.9%、「40～49歳」が24.7%と多く、合わせると、40～50歳代が約半数(49.6%)を占めている。



【障がい種別 年齢】

障がい種別にみると、身体では「60～64歳」が30.1%、療育では「18～29歳」が33.1%、精神では「40～49歳」が30.4%と、それぞれ最も多くなっている。

障がい種別	調査数(人)	年齢					
		18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	無回答
身体	239	6.7	9.6	20.9	29.3	30.1	3.3
療育	151	33.1	17.9	22.5	19.2	2.0	5.3
精神	148	16.9	12.8	30.4	28.4	8.1	3.4

【障がい種別】

身体：身体障害者手帳所持者

療育：療育手帳所持者

精神：精神障害者保健福祉手帳所持者

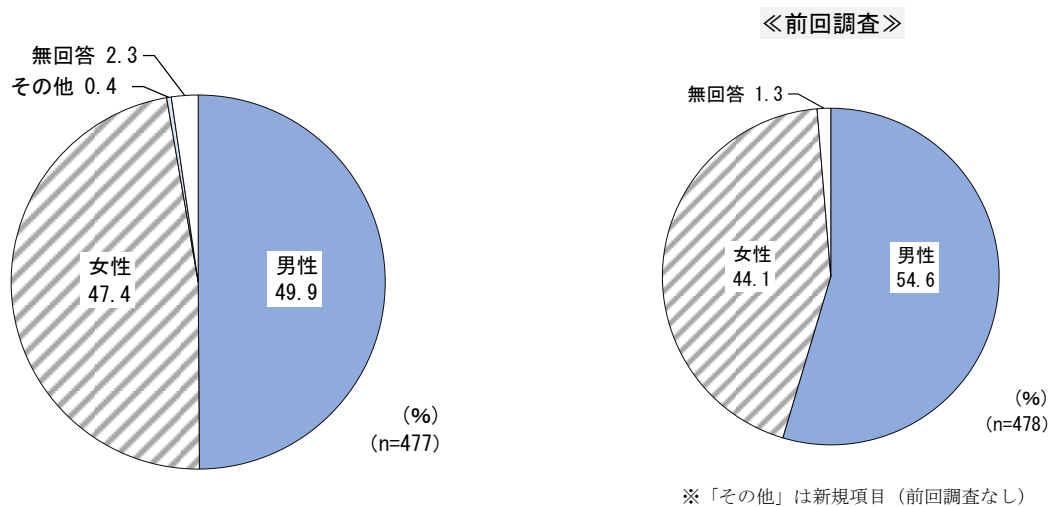
※手帳を複数所持している場合を含む

(以降、同様)

(3) 性別

問3 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

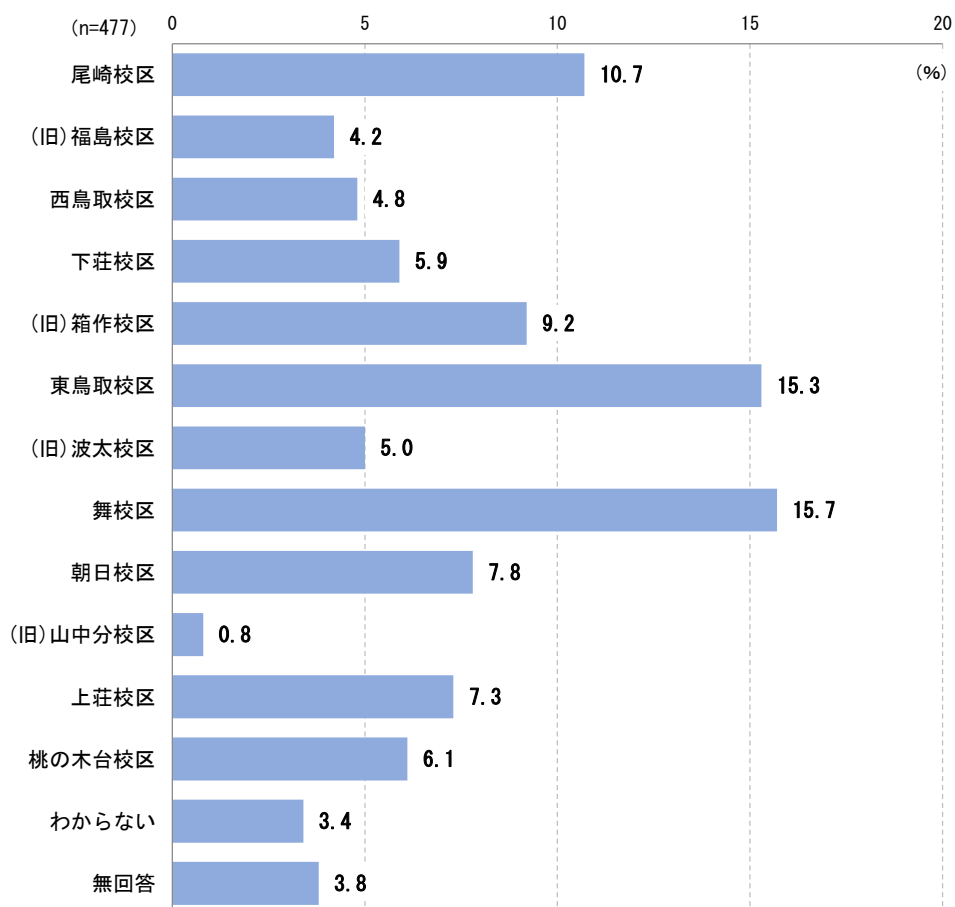
回答者の性別は、「男性」が49.9%、「女性」が47.4%となっている。



(4) 居住地域（小学校区）

問4 あなたがお住まいの地域（小学校区）はどこですか。(○は1つだけ)

居住地域（小学校区）としては、「舞校区」が15.7%、「東鳥取校区」が15.3%と多く、次いで「尾崎校区」が10.7%、「(旧)籍作校区」が9.2%となっている。

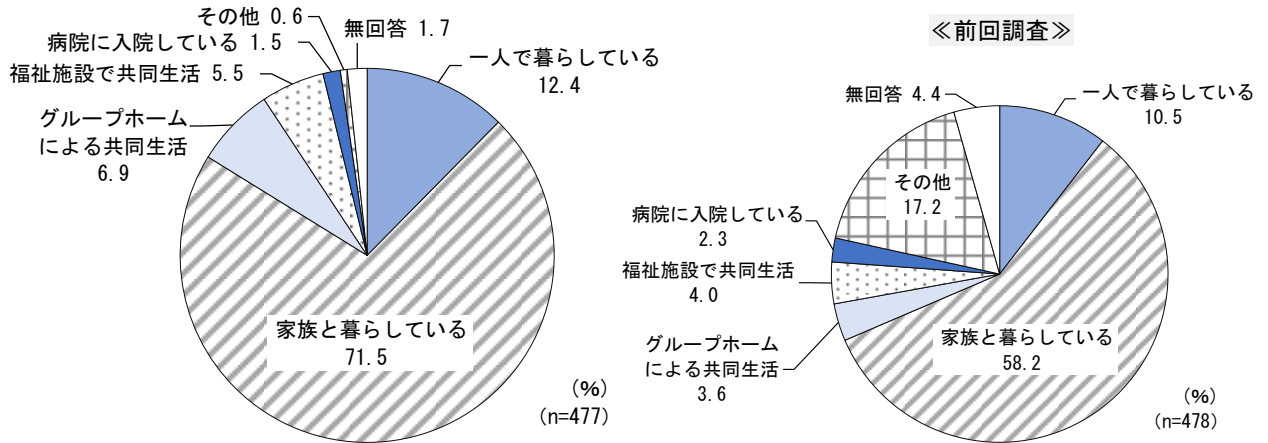


(5) 生活状況

①現在の暮らし方

問5 あなたは現在、どのように暮らしていますか。(〇は1つだけ)

現在の暮らし方としては、「家族と暮らしている」が7割台(71.5%)を占めており、次いで「一人で暮らしている」が12.4%、「グループホームによる共同生活」が6.9%となっている。



【障がい種別 現在の暮らし方】

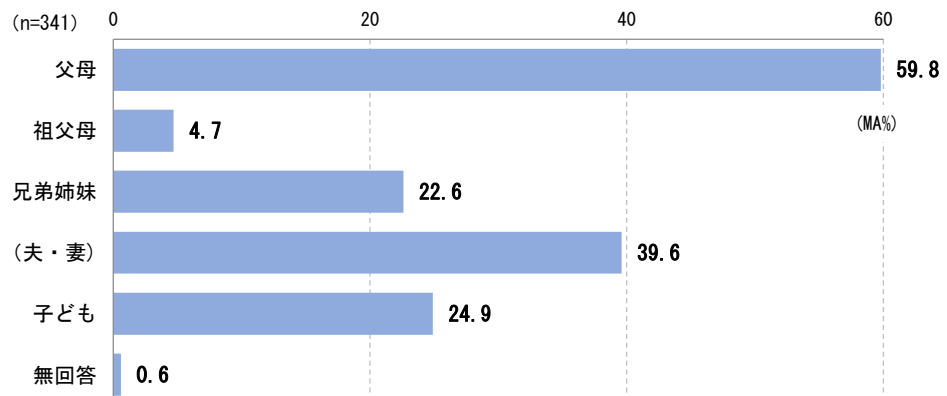
障がい種別にみると、いずれも「家族と暮らしている」が6～7割台を占めている。また、療育において、「グループホームによる共同生活」が17.9%、「福祉施設で共同生活」が12.6%と高い。

	調査数(人)	一人で暮らしている (%)	家族と暮らしている (%)	グループホームによる共同生活 (%)	福祉施設で共同生活 (%)	病院に入院している (%)	その他 (%)	無回答 (%)
身体	239	14.6	72.8	3.8	5.0	1.7	0.8	1.3
療育	151	4.6	60.9	17.9	12.6	0.7	0.0	3.3
精神	148	18.2	73.6	5.4	0.7	2.0	0.0	0.0

②同居家族

[付問] 誰と暮らしていますか。(あてはまるものすべてに〇)

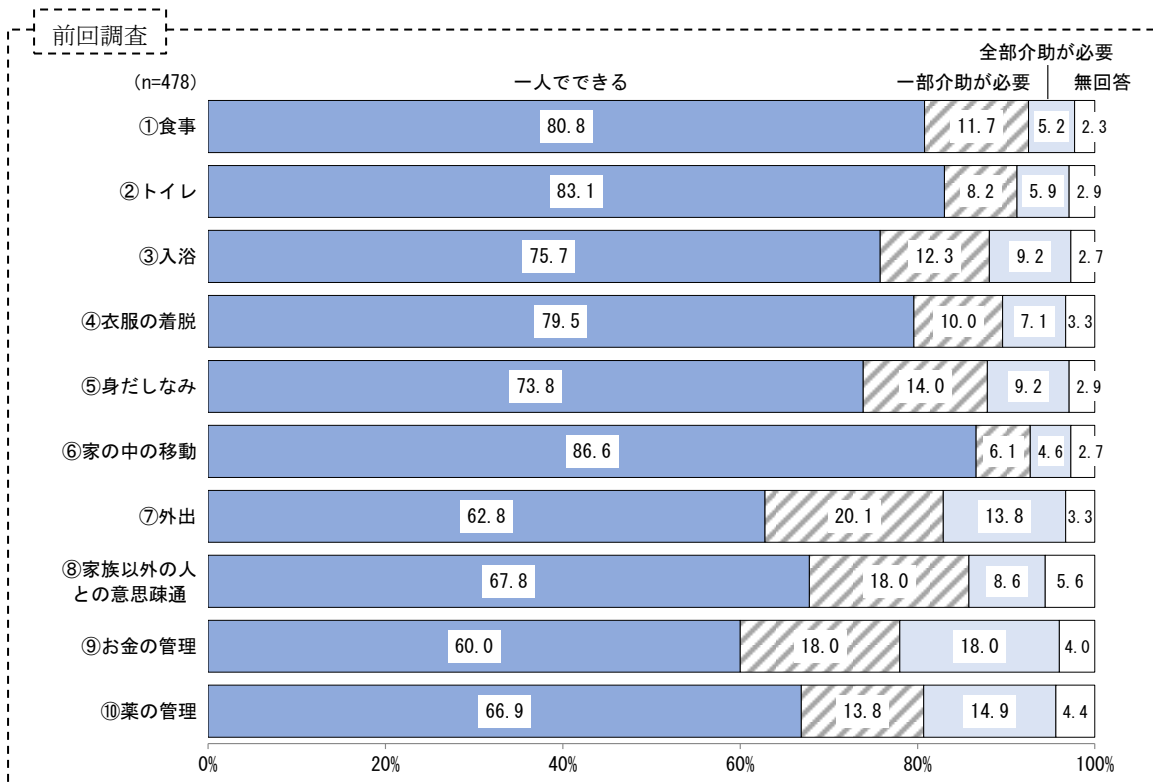
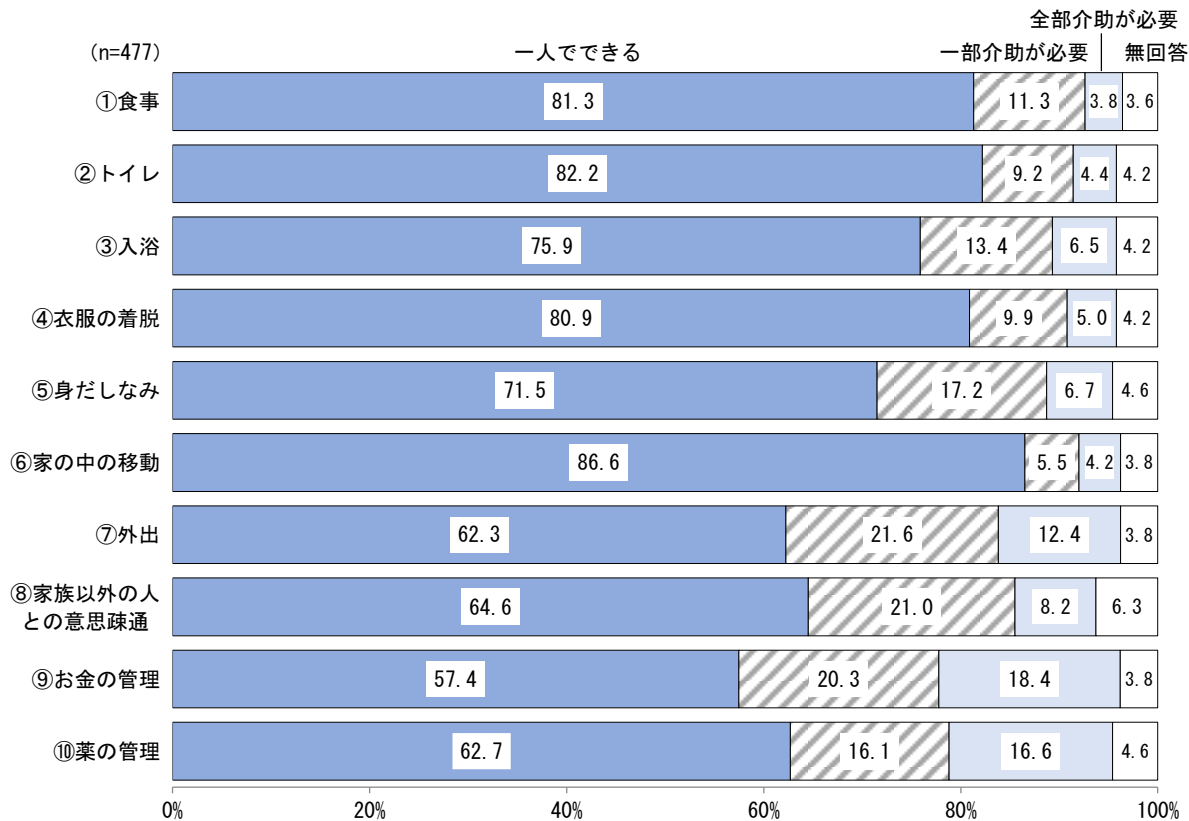
現在、家族と暮らしていると回答した人の同居家族としては、「父母」が59.8%と最も多く、次いで「配偶者(夫・妻)」が39.6%、「子ども」が24.9%となっている。



(6) 日常生活における介助の必要性

問6 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。(①から⑩それぞれに○を1つ)

日常生活における介助の必要性について、10項目についてたずねたところ、介助が必要という割合（「一部介助が必要」「全部介助が必要」）が、“⑨お金の管理”で38.7%と最も高く、次いで“⑦外出”で34.0%、“⑩薬の管理”で32.7%となっており、前回調査と同じ傾向である。



【障がい種別 日常生活における介助の必要性「介助が必要」】

介助が必要な割合について、障がい種別にみると、身体では『⑦外出』で35.6%、精神では『⑨お金の管理』で33.1%と、それぞれ最も多くなっている。療育では『⑨お金の管理』で74.8%、『⑩薬の管理』で66.2%と多く、他の項目も含めていずれも身体・精神より高い割合となっている。

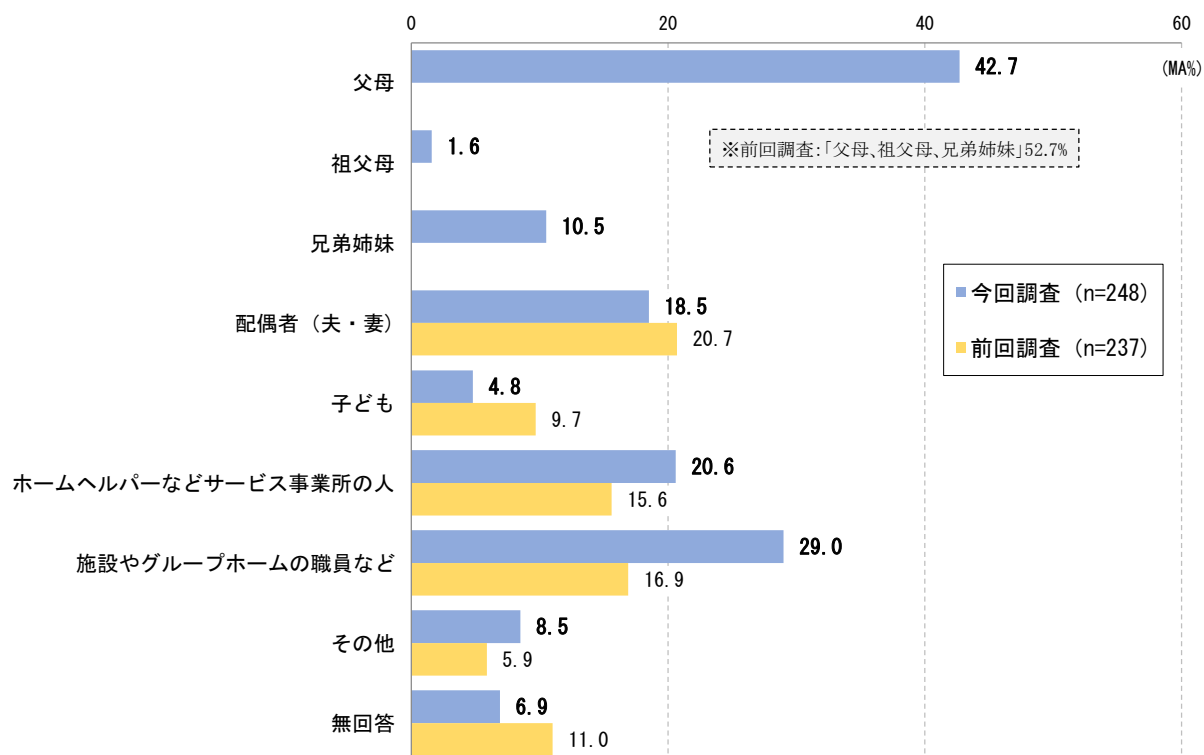
		① 食事	② トイレ	③ 入浴	④ 衣服の着脱	⑤ 身だしなみ	⑥ 家の中の移動	⑦ 外出	⑧ 意思疎通 家族以外の 人との	⑨ お金の管理	⑩ 薬の管理
身体	239	17.2	15.9	22.6	19.2	22.6	15.5	35.6	23.8	30.1	25.5
療育	151	27.8	29.1	38.4	28.5	49.0	15.9	54.3	54.3	74.8	66.2
精神	148	9.5	4.1	5.4	4.1	11.5	2.0	20.3	25.7	33.1	25.0

(7) 介助者

【問6①～⑩のいずれかで「一部介助が必要」または「全部介助が必要」と回答の方】

問7 あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

日常生活において介助が必要と回答した人の具体的な介助者としては、「父母」が42.7%と最も多くなっている。また、これに続くのが、「施設やグループホームの職員など」で29.0%となっており、前回調査(16.9%)から12.1ポイント増えている。



(8) 主な介助者の属性

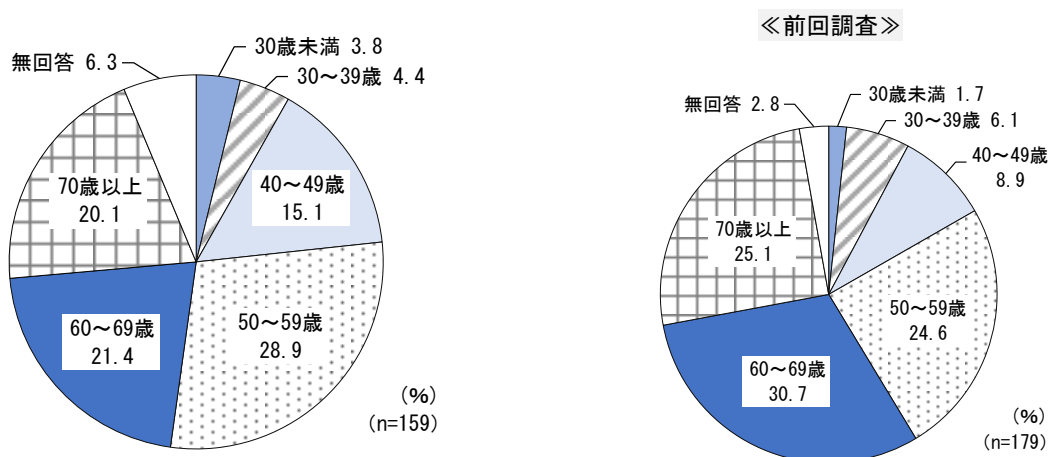
① 主な介助者の年齢

【問7で「父母」～「子ども」のいずれか（家族の介助を受けている）と回答の方】

問8 あなたを介助してくれるご家族で、特に中心となっている方の年齢、性別、健康状態をお答えください。

① 年齢（令和2年7月1日現在）

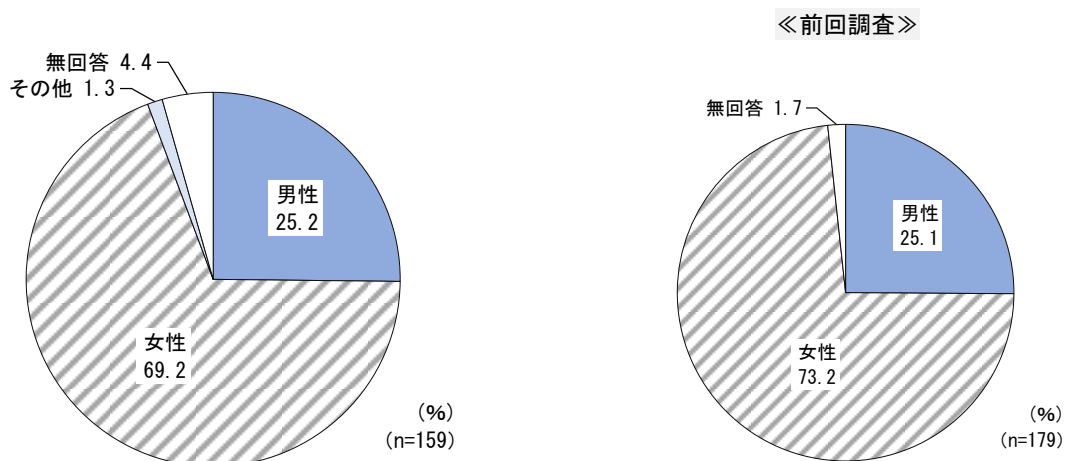
（日常生活において家族からの介助を受けている場合）中心となって介助している家族の年齢としては、50～59歳が28.9%と最も多くなっている。また、60歳以上の割合が4割台（41.5%）みられるものの、前回調査（55.8%）からは14.3ポイント減っている。



② 主な介助者の性別

② 性別（○は1つだけ）

主な介助者（家族）の性別としては、「男性」が25.2%に対し、「女性」が69.2%となっており、前回調査と同様に女性が多くを占めている。

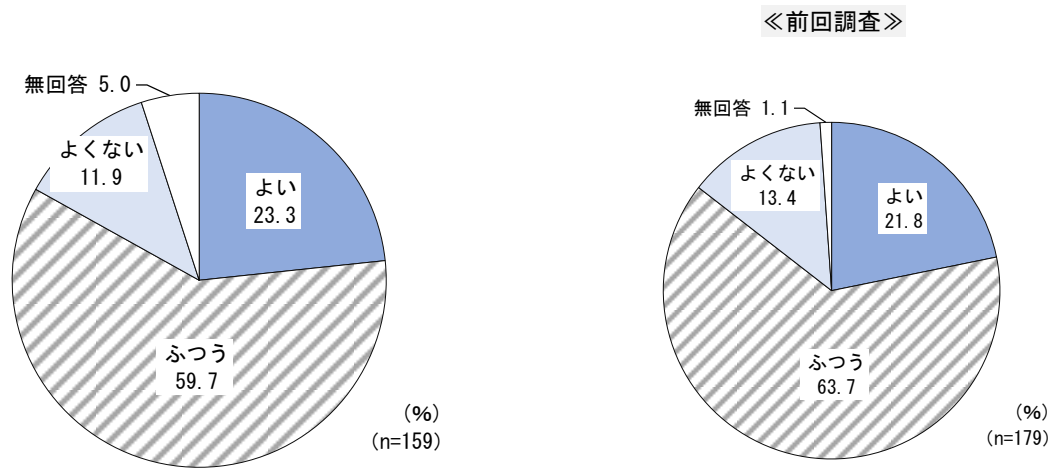


※「その他」は新規項目（前回調査なし）

③主な介助者の健康状態

③健康状態（○は1つだけ）

主な介助者（家族）の健康状態としては、「ふつう」が約6割（59.7%）を占めており、「よい」が23.3%となっている。一方、「よくない」が11.9%みられ、前回調査（13.4%）から1.5ポイント減っている。



※「その他」は新規項目（前回調査なし）

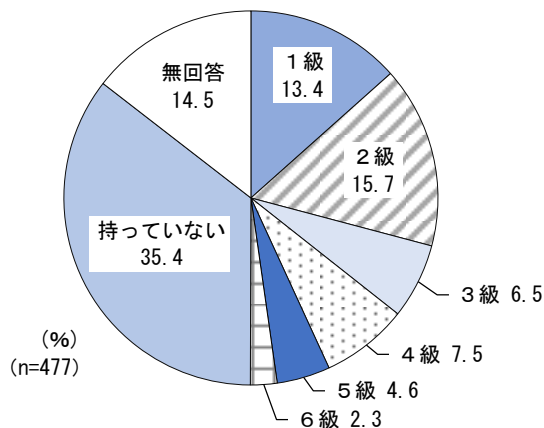
2 障がいの状況について

(1) 障害者手帳の所持状況

①身体障害者手帳の所持状況

問9 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

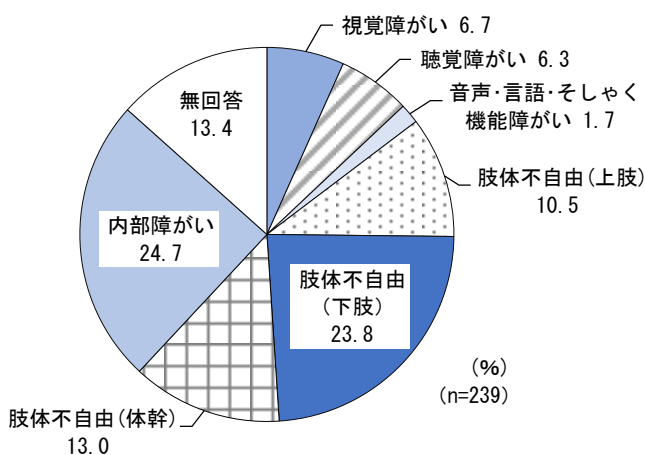
身体障害者手帳を所持している割合(「1級」～「6級」のいずれかと回答)は、全体の約5割(50.0%)となっており、「2級」が15.7%、「1級」が13.4%と多い。



②主たる障がい(身体障がい)

問10 身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障がいをお答えください。(○は1つだけ)

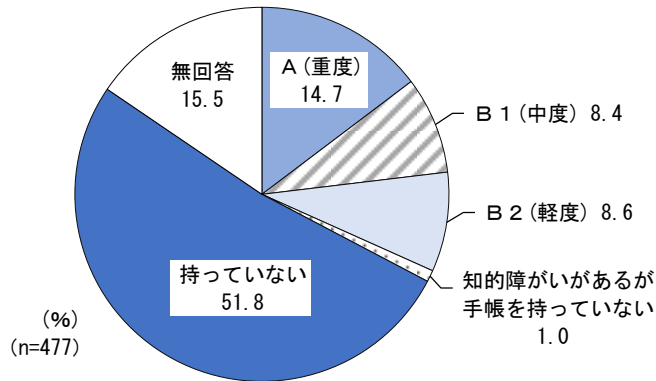
身体障害者手帳を所持している人の主たる障がいとしては、「内部障がい」が24.7%と最も多く、次いで「肢体不自由(下肢)」が23.8%、「肢体不自由(体幹)」が13.0%となっている。



③療育手帳の所持状況

問 11 あなたは療育手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

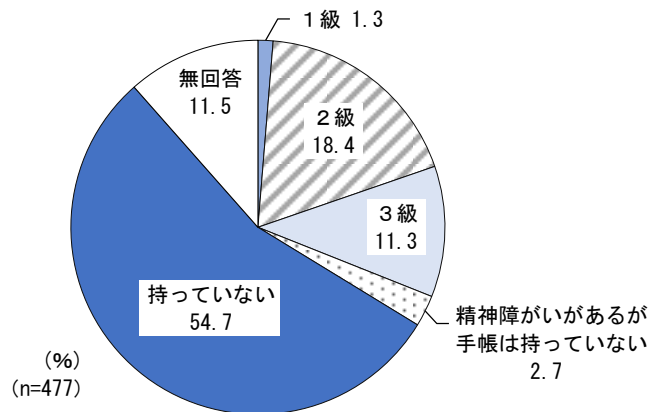
療育手帳を所持している割合(「A」「B1」「B2」のいずれかと回答)は、全体の3割台(31.7%)となっており、「A(重度)」が14.7%と多い。



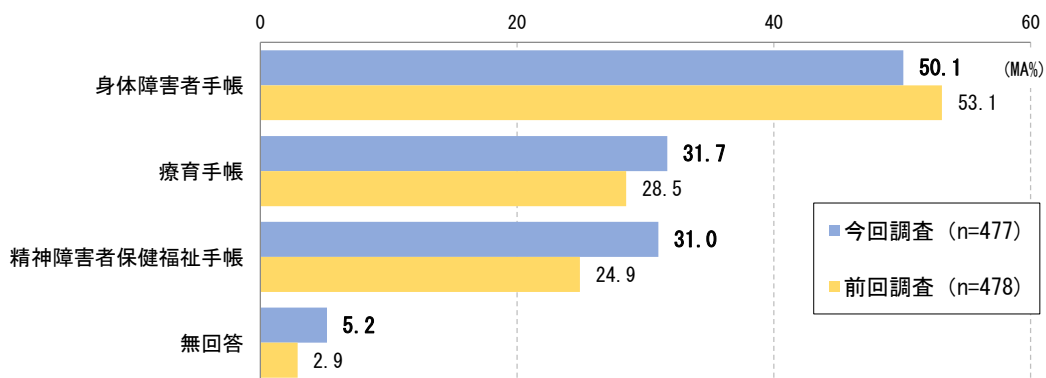
④精神障害者保健福祉手帳の所持状況

問 12 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

精神障害者保健福祉手帳を所持している割合(「1級」「2級」「3級」のいずれかと回答)は、全体の3割台(31.0%)となっており、「2級」が18.4%と多い。



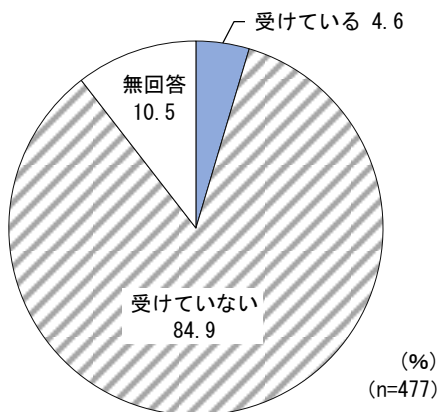
《参考》 障害者手帳の所持状況 (前回との比較)



(2) 重症心身障がいの認定有無

問 13 あなたは重症心身障がいの認定を受けていますか。(○は1つだけ)

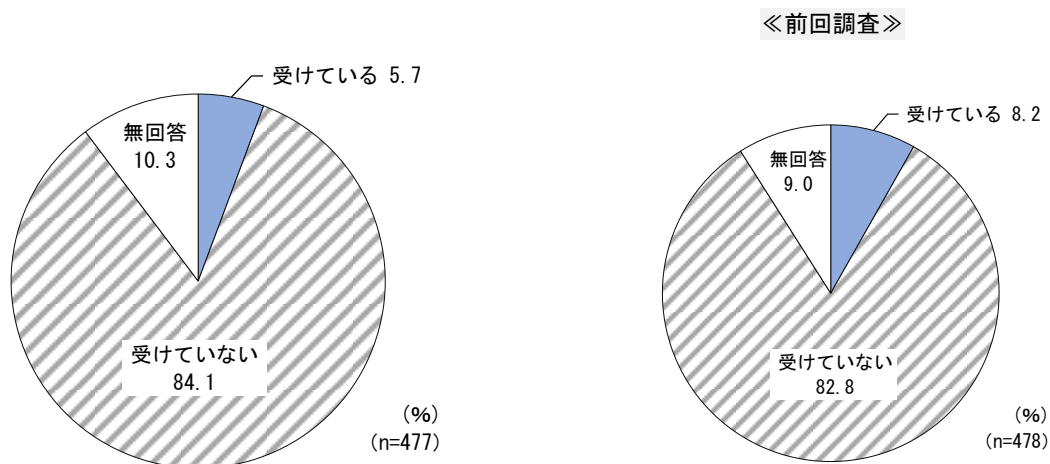
重症心身障がいの認定を「受けている」は、全体の4.6%となっている。



(3) 指定難病の認定有無

問 14 あなたは難病（指定難病）の認定を受けていますか。(○は1つだけ)

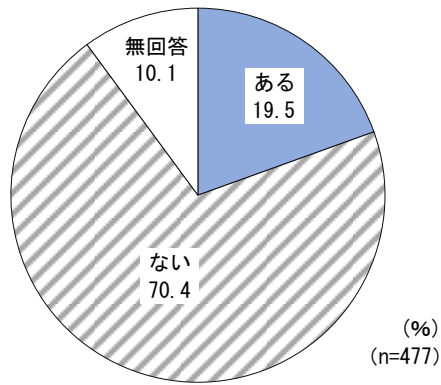
難病（指定難病）の認定を「受けている」は、全体の5.7%となっており、前回調査(8.2%)から2.5ポイント減っている。



(4) 発達障がいの診断有無

問 15 あなたは発達障がいとして診断されたことがありますか。(○は1つだけ)

発達障がいとして診断されたことが「ある」は、全体の約2割(19.5%)となっている。

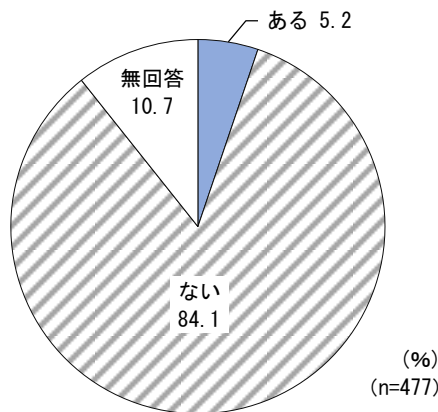


(5) 高次脳機能障がいの診断状況

①高次脳機能障がいの診断有無

問 16 あなたは高次脳機能障がいとして診断されたことがありますか。(○は1つだけ)

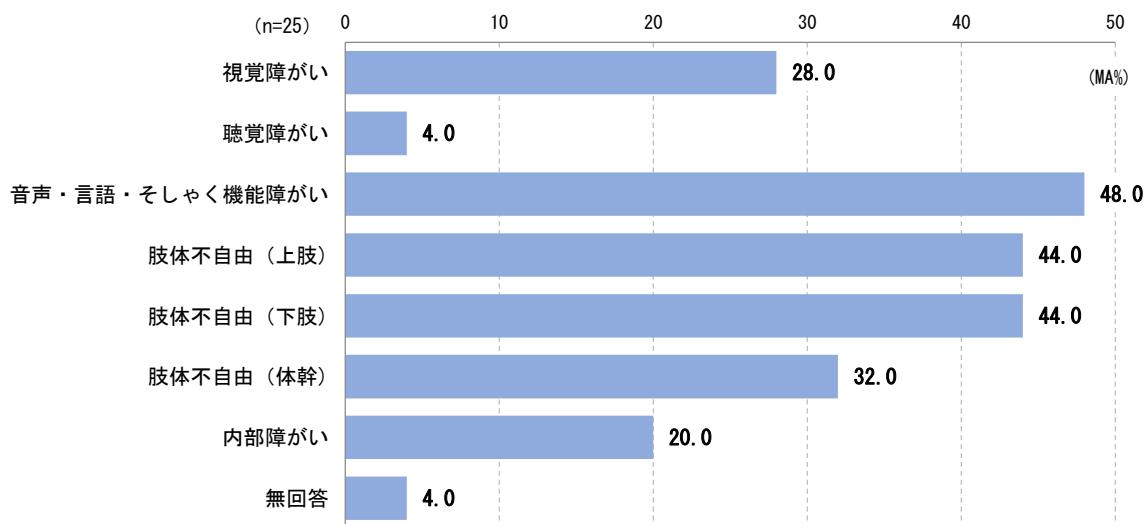
高次脳機能障がいとして診断されたことが「ある」は、全体の5.2%となっている。



②高次脳機能障がいの関連障がい

【問 16 で「ある」と回答の方】
問 17 その関連障がいをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

高次脳機能障がいと診断された人 (25 人) の関連障がいとしては、「音声・言語・そしゃく機能障がい」が 48.0% (12 人) などとなっている。

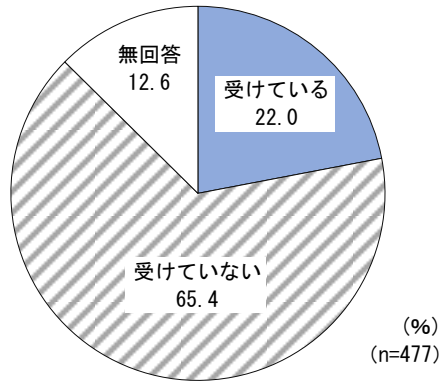


(6) 医療的ケアの状況

①医療的ケアの必要性

問 18 あなたは現在医療的ケアを受けていますか。(○は1つだけ)

現在、医療的ケアを「受けている」は、全体の2割台(22.0%)となっている。



【障がい種別 医療的ケアの必要性】

障がい種別にみると、「受けている」は、身体で25.5%、精神で24.3%に対し、療育では14.6%と低くなっている。

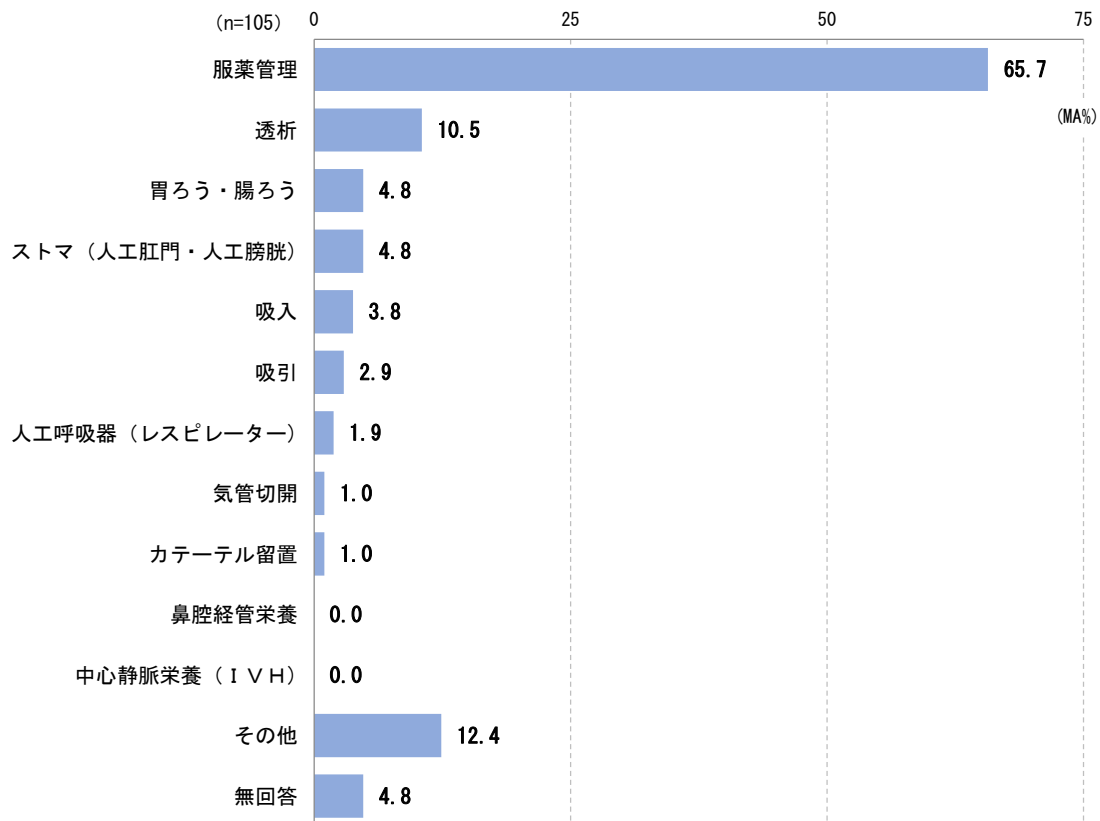
障がい種別	調査数(人)	受けている (%)	受けていない (%)	無回答 (%)
身体	239	25.5	61.1	13.4
療育	151	14.6	71.5	13.9
精神	148	24.3	64.9	10.8

②医療的ケアの内容

【問 18 で「受けている」と回答の方】

問 19 あなたが現在受けている医療ケアをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

医療的ケアを受けていると回答した人の具体的な内容としては、「服薬管理」が 65.7%と最も多く、次いで「透析」が 10.5%となっている。



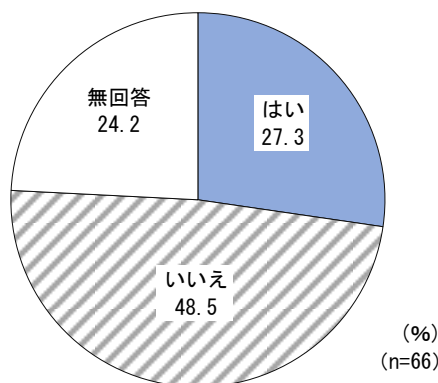
3 住まいや暮らしについて

※ここでは、問5（現在の暮らし方）で「グループホームによる共同生活」「福祉施設で共同生活」「病院に入院している」のいずれかと回答された方を回答対象としている。

（1）地域移行の希望有無

問 20 あなたは施設を退所、あるいは病院を退院して地域で暮らしたいと思いますか。（〇は1つだけ）

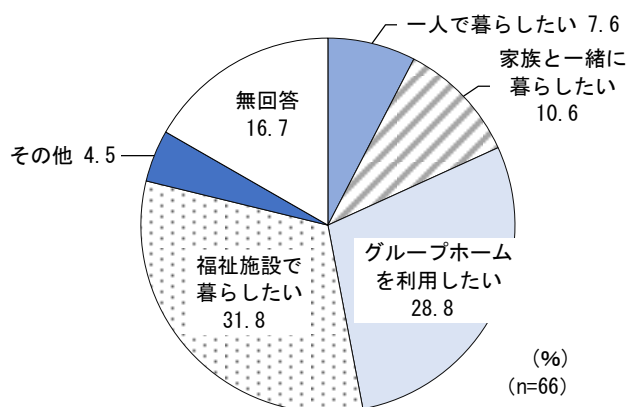
現在、施設や病院に入所（入院）している人のうち、退所（退院）して地域で暮らしたいと思うという割合（「はい」）は27.3%となっている。



（2）今後の暮らし方の希望

問 21 あなたは今後3年以内にどのように暮らしたいと思いますか。（〇は1つだけ）

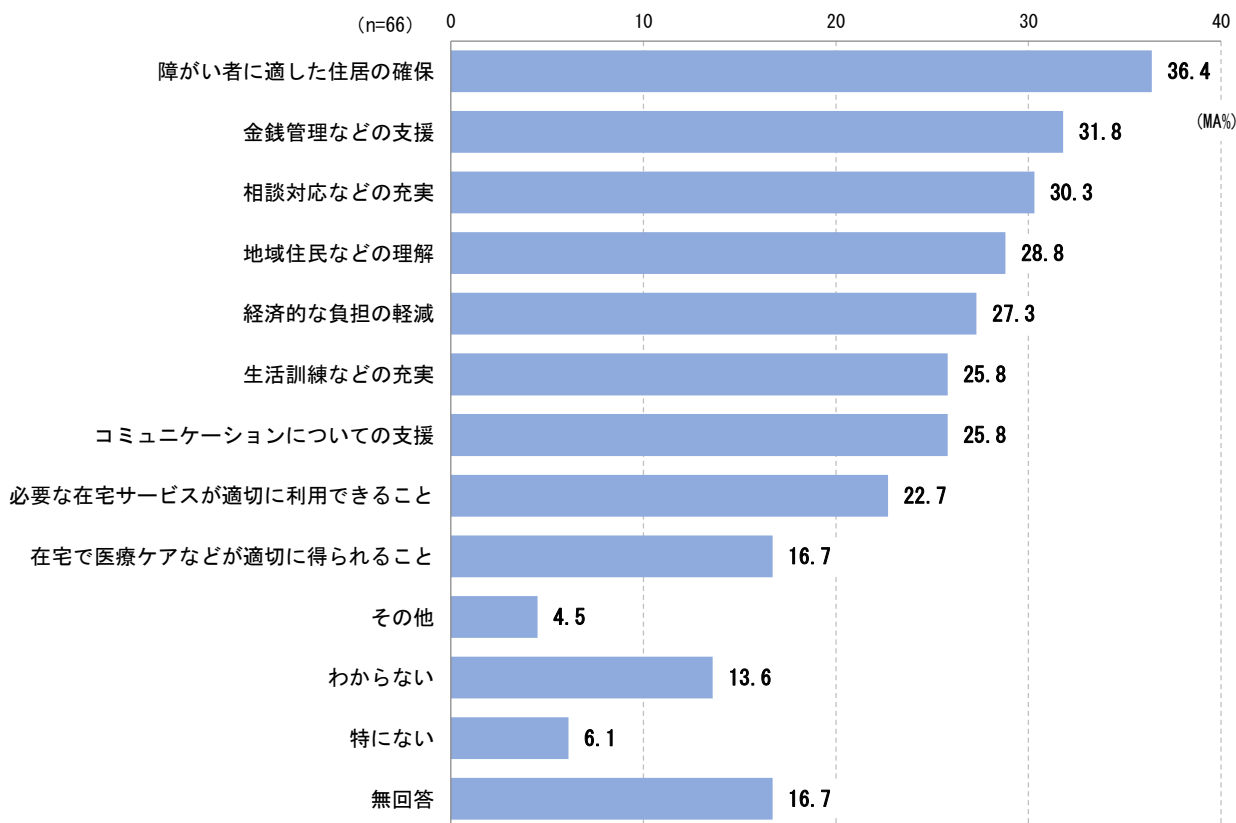
現在入所（入院）している人が今後3年以内に希望する暮らし方として、「福祉施設で暮らしたい」が31.8%、「グループホームを利用したい」が28.8%と多く、「一人で暮らしたい」は7.6%、「家族と一緒に暮らしたい」は10.6%となっている。



(3) 地域移行のために必要な支援

問 22 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)

現在入所(入院)している人に対し、地域で生活するためにどのような支援があればよいと思うかたずねたところ、「障がい者に適した住居の確保」が36.4%と最も多く、次いで「金銭管理などの支援」が31.8%、「相談対応などの充実」が30.3%となっている。

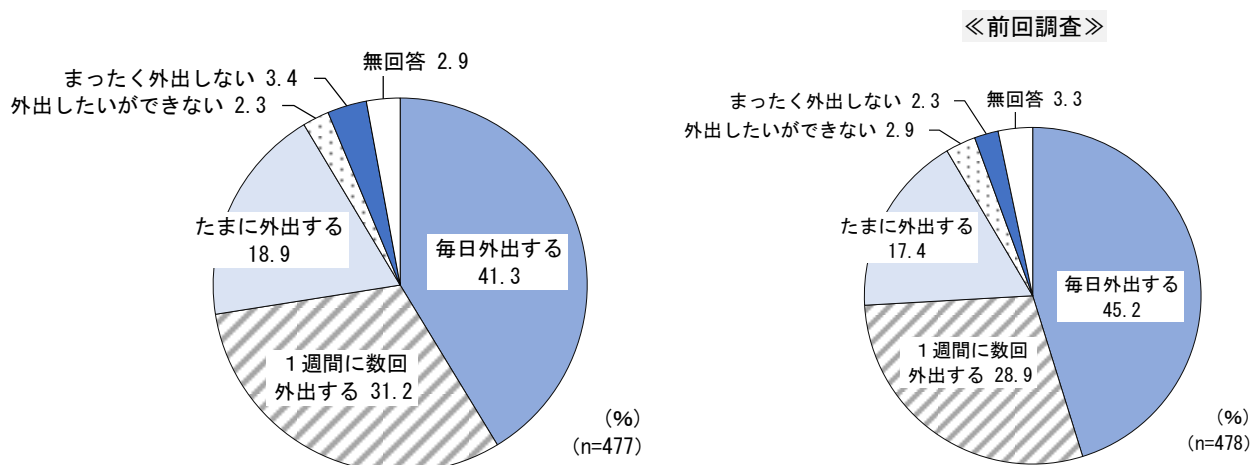


4 日中活動や就労について

(1) 外出頻度

問 23 あなたは、1週間にどの程度外出しますか。(○は1つだけ)

1週間の外出の頻度としては、「毎日外出する」が41.3%と最も多いものの、前回調査(45.2%)からは3.9ポイント減っている。また、「1週間に数回外出する」が31.2%と次いで多く、合わせると、週に数回以上外出している人の割合は、7割台(72.5%)となっている。



【障がい種別 外出頻度】

障がい種別にみると、いずれも「毎日外出する」が最も多いものの、身体で43.5%、療育で41.1%に対し、精神では37.8%とやや低くなっている。

	調査数(人)	毎日外出する (%)	1週間に数回外出する (%)	たまに外出する (%)	外出したいができない (%)	まったく外出しない (%)	無回答 (%)
身体	239	43.5	31.8	14.2	3.3	3.8	3.3
療育	151	41.1	29.1	19.9	2.6	2.0	5.3
精神	148	37.8	34.5	21.6	1.4	2.7	2.0

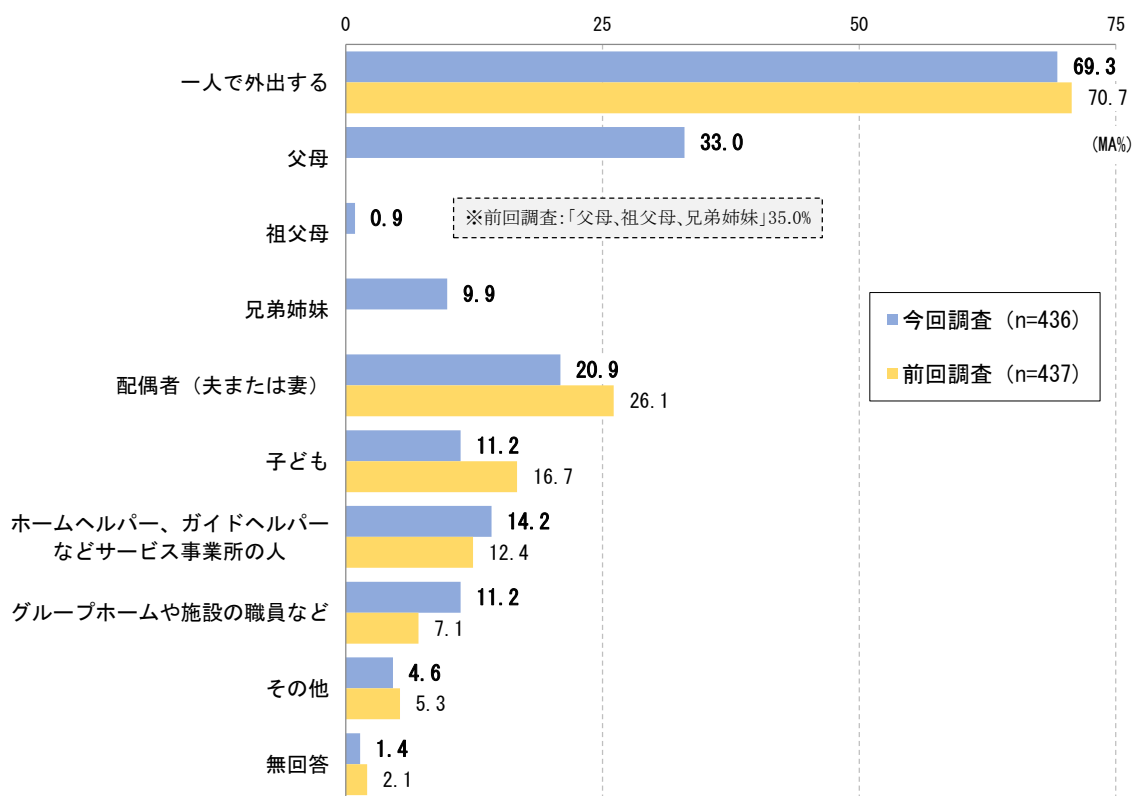
(2) 外出時の状況

①同行者

【問 23 で「毎日外出する」「1 週間に数回外出する」「たまに外出する」のいずれかと回答の方】

問 24 あなたは、外出する際に誰と外出しますか。(あてはまるものすべてに○)

外出する際の同行者としては、「一人で外出する」が 69.3%と最も多く、前回調査 (70.7%) と同程度となっている。同行者がいる場合でみると、「父母」が 33.0%と多く、次いで「配偶者 (夫または妻)」が 20.9%、「ホームヘルパー、ガイドヘルパーなどサービス事業所の人」が 14.2%となっている。

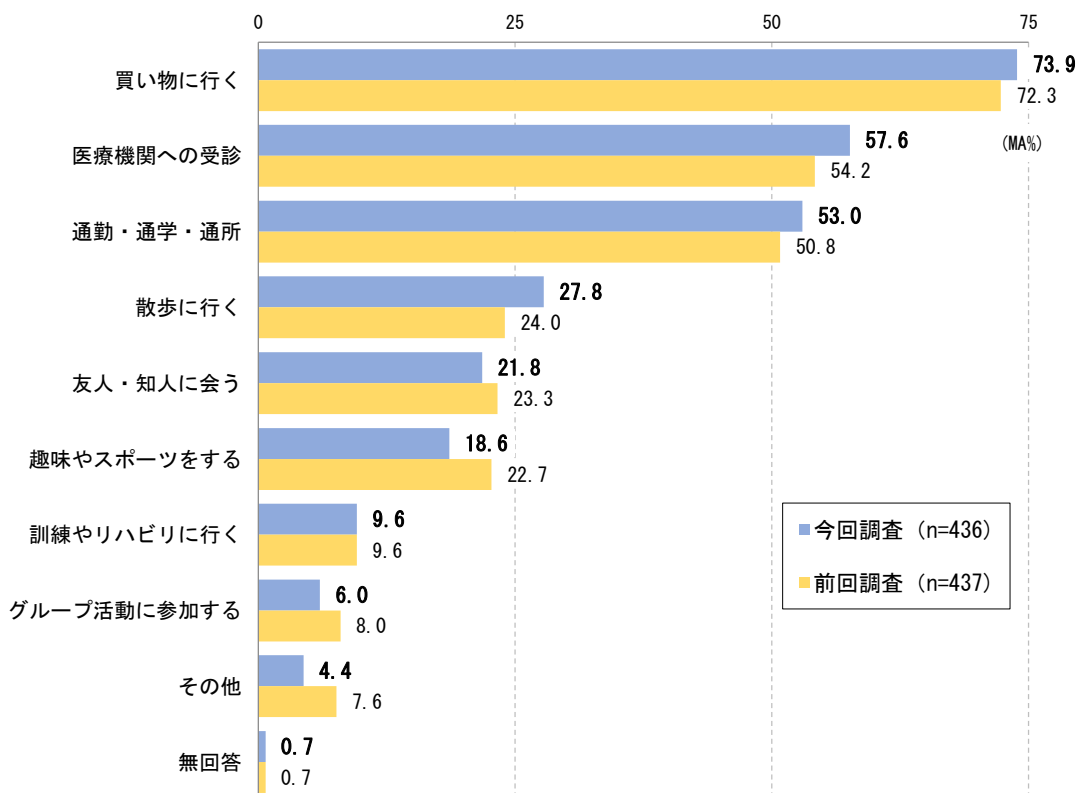


②外出目的

【問 23 で「毎日外出する」「1 週間に数回外出する」「たまに外出する」のいずれかと回答の方】

問 25 どのような目的で外出することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

外出する際の目的としては、「買い物に行く」が 73.9%と最も多く、次いで「医療機関への受診」が 57.6%、「通勤・通学・通所」が 53.0%となっており、前回調査と同じ傾向である。



【障がい種別 外出目的】

障がい種別にみると、「買い物に行く」が身体で 75.2%、精神で 76.3%と、ともに最も多いのに対し、療育では「通勤・通学・通所」が 69.1%と最も多くなっている。

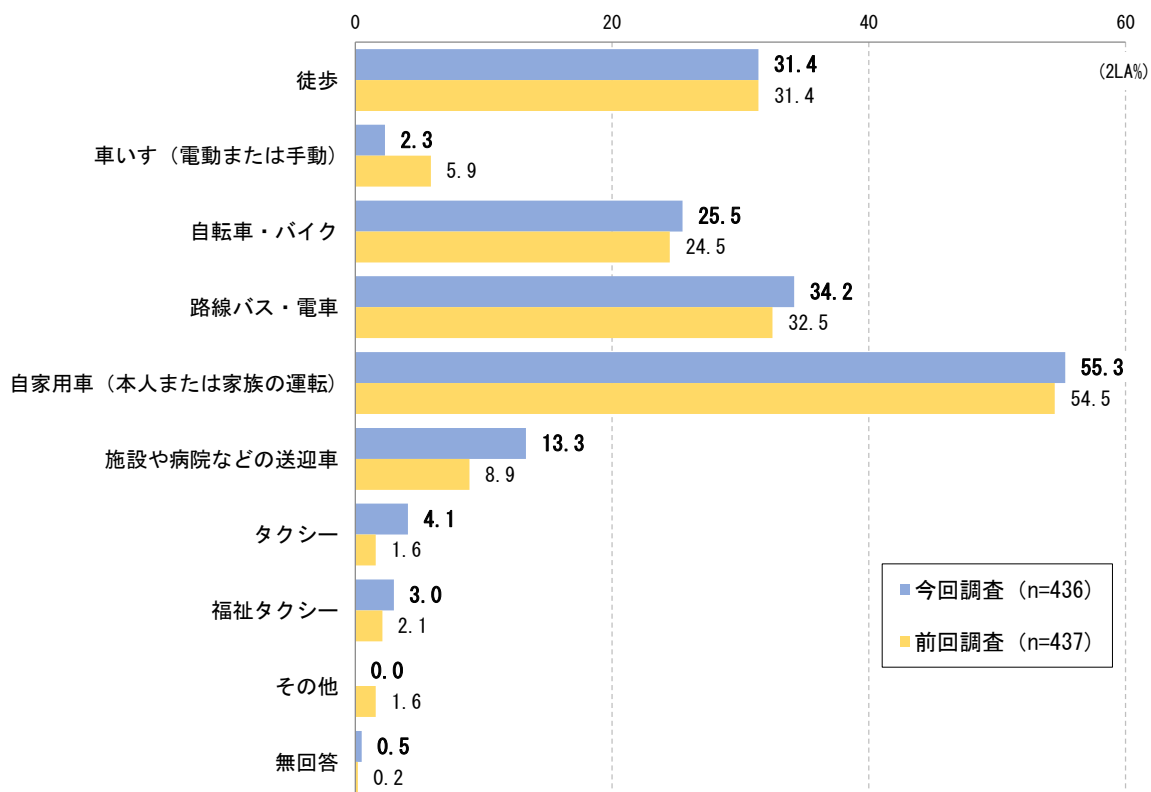
	調査数(人)	買い物に行く	医療機関への受診	通勤・通学・通所	散歩に行く	友人・知人に会う	趣味やスポーツをする	訓練やリハビリに行く	グループ活動に参加する	その他	無回答
身体	214	75.2	57.5	46.3	23.4	21.5	16.8	12.1	3.3	5.1	0.0
療育	136	64.7	50.0	69.1	32.4	15.4	18.4	10.3	8.1	5.1	0.0
精神	139	76.3	64.7	49.6	28.8	28.1	18.7	7.9	7.9	2.9	1.4

③主な交通手段

【問 23 で「毎日外出する」「1 週間に数回外出する」「たまに外出する」のいずれかと回答の方】

問 26 あなたが外出するときの主な交通手段は、何ですか。(○は2つまで)

外出するときの主な交通手段としては、「自家用車（本人または家族の運転）」が 55.3%と最も多く、次いで「路線バス・電車」が 34.2%となっている。前回調査と比べると、「施設や病院などの送迎車」（今回 13.3%、前回 8.9%）が 4.4 ポイント増えている。



【障がい種別 主な交通手段】

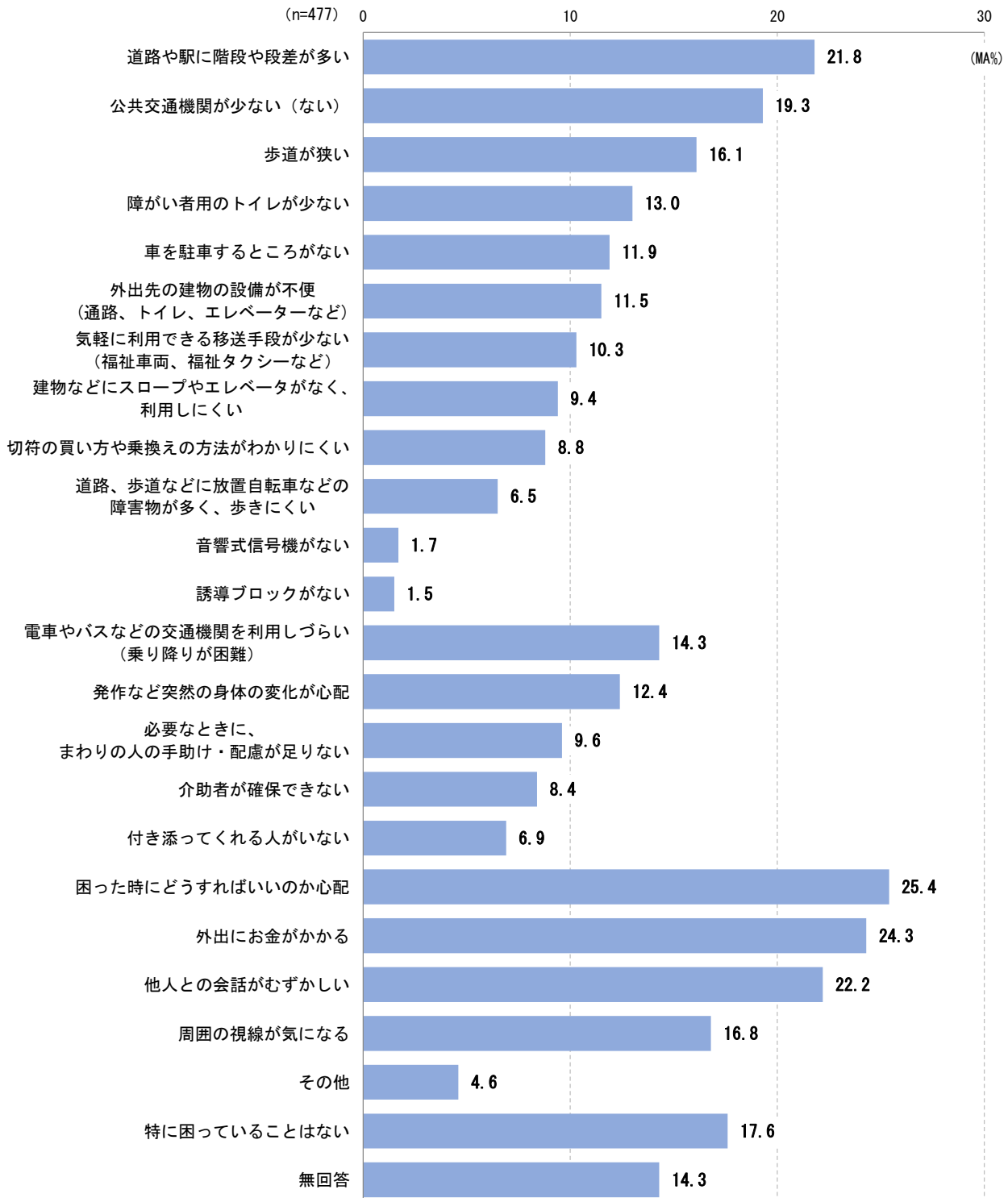
障がい種別にみると、いずれも「自家用車（本人または家族の運転）」が多く、特に身体で6割台（66.4%）と高い。一方、「路線バス・電車」は、療育（40.4%）、精神（41.0%）で4割台と、身体（28.0%）に比べて高くなっている。

障がい種別	調査数（人）	(2LA%)									
		徒歩	車いす（電動または手動）	自転車・バイク	路線バス・電車	自家用車（本人または家族の運転）	施設や病院などの送迎車	タクシー	福祉タクシー	その他	無回答
身体	214	23.8	4.7	18.7	28.0	66.4	13.6	3.3	3.7	0.0	0.0
療育	136	38.2	2.9	26.5	40.4	41.2	27.9	2.2	2.9	0.0	0.0
精神	139	37.4	0.0	37.4	41.0	41.0	4.3	6.5	0.7	0.0	0.7

(3) 外出に関する困りごと

問 27 外出について困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

外出について困ることとしては、「困ったときにどうすればいいのか心配」が 25.4%と最も多く、次いで「外出にお金がかかる」が 24.3%、「他人との会話がむずかしい」が 22.2%、「道路や駅に階段や段差が多い」が 21.8%、「公共交通機関が少ない(ない)」が 19.3%となっている。



【障がい種別 外出に関する困りごと】

障がい種別にみると、身体では「道路や駅に階段や段差が多い」が 29.7%、療育では「困った時にどうすればいいの心配」、「他人との会話がむずかしい」がともに 33.8%、精神では「外出にお金がかかる」が 35.1%と、それぞれ最も多くなっている。

(MA%)

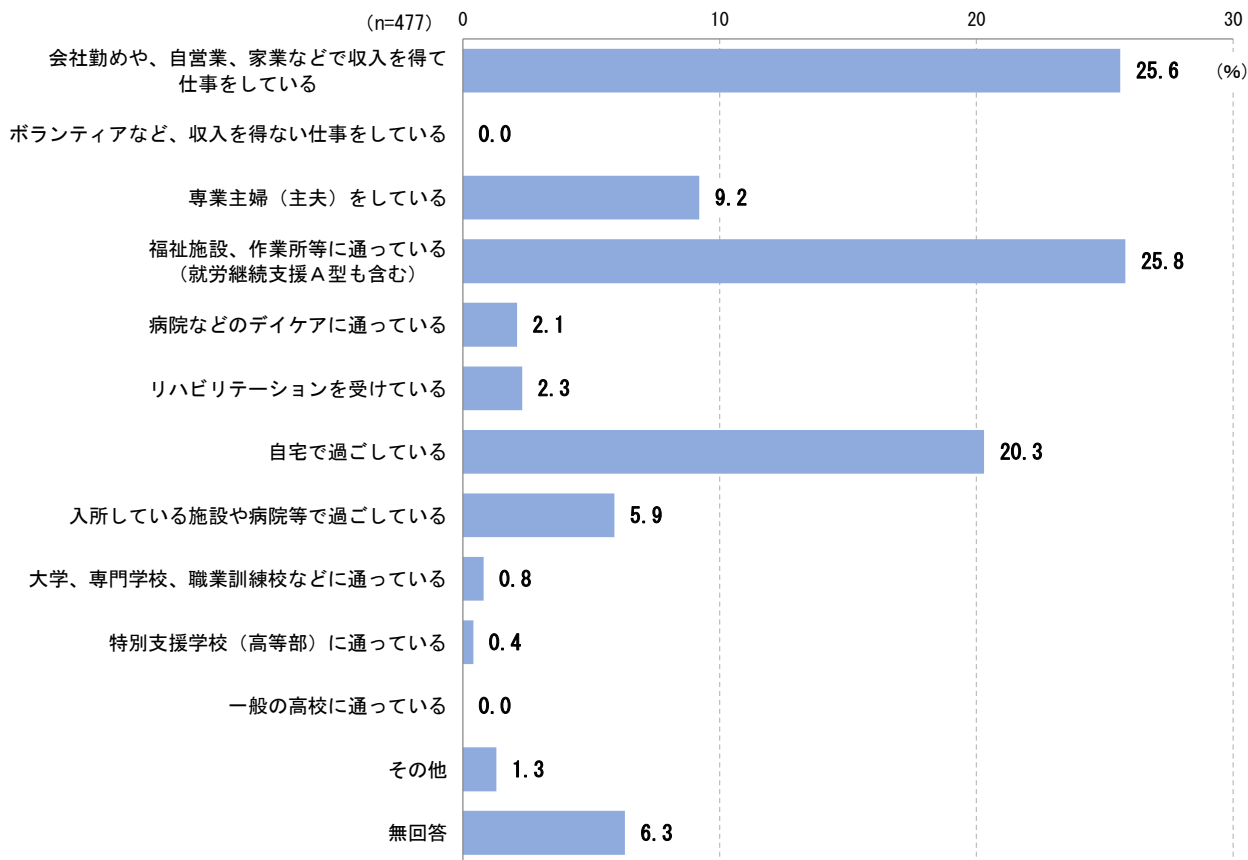
	調査数（人）	＜ハード面＞													
		多 道 路 や 駅 に 階 段 や 段 差 が	公 共 交 通 機 関 が 少 な い （ な い ）	歩 道 が 狭 い	障 が い 者 用 の ト イ レ が 少 な い	車 を 駐 車 す る と こ ろ が な い	便 所 （ 通 路 、 ト イ レ 、 エ レ ベ イ タ ー な ど ）	外 出 先 の 建 物 の 設 備 が 不 足 （ 福 祉 車 両 、 手 車 等 ）	段 差 が 少 な い （ 福 祉 車 両 、 手 車 等 ）	気 軽 に 利 用 で き る 移 送 手 段 が な い （ 福 祉 車 両 、 手 車 等 ）	建 物 な ど に ス ロ ー プ や エ レ ベ イ タ ー が な く 、 利 用 し や え な い	方 法 が わ か り 方 や 乗 換 え の 方 法 が わ か り 方 に く い	切 符 の 買 い 方 や 乗 換 え の 方 法 が わ か り 方 に く い	く 、 歩 き に く い 障 害 物 が 多 く 、 放 置 自 ら に お き に お く	道 路 、 歩 道
身体	239	29.7	19.2	16.3	18.8	15.9	16.7	9.6	14.2	6.3	7.9	1.3	2.1		
療育	151	16.6	19.9	17.2	15.9	9.9	11.3	15.9	7.3	17.9	6.6	2.6	2.6		
精神	148	14.9	23.6	13.5	4.1	8.8	8.1	8.1	7.4	7.4	4.1	1.4	0.7		

	＜身体面＞		＜人的支援＞			＜その他＞					特 に 困 っ て い る こ と は な い	無 回 答
	降 り が 困 難 （ 電 車 や バ ス な ど の 交 通 機 関 を 利 用 し づ ら い ）	化 が 心 配 な い （ 突 然 の 身 体 の 変 化 ）	な い （ 手 助 け ・ 配 慮 が 足 り な い ）	必 要 な と き に 、 ま わ り の 人 が い ない	介 助 者 が 確 保 で き な い	付 き 添 っ て く れ る 人 が い ない	困 っ た 時 に ど う す れ ば い い の 心 配	外 出 に お 金 が か か る	い た り の 会 話 が む ず か し い	周 圍 の 視 線 が 気 に な る		
身体	21.3	13.8	6.7	7.5	6.3	16.7	20.1	15.5	12.1	5.0	16.7	15.1
療育	16.6	11.9	15.2	17.2	13.2	33.8	21.9	33.8	16.6	5.3	17.2	10.6
精神	10.1	17.6	8.8	4.7	5.4	33.8	35.1	27.0	27.0	4.1	16.9	16.2

(4) 平日の日中の主な過ごし方

問 28 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つだけ)

平日の日中の主な過ごし方としては、「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」が25.8%、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が25.6%と多くなっており、「自宅で過ごしている」が20.3%と、次いで多い。



【障がい種別 平日の日中の主な過ごし方】

障がい種別にみると、身体では「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が27.6%、療育では「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」が54.3%、精神では「自宅で過ごしている」が28.4%と、それぞれ最も多くなっている。

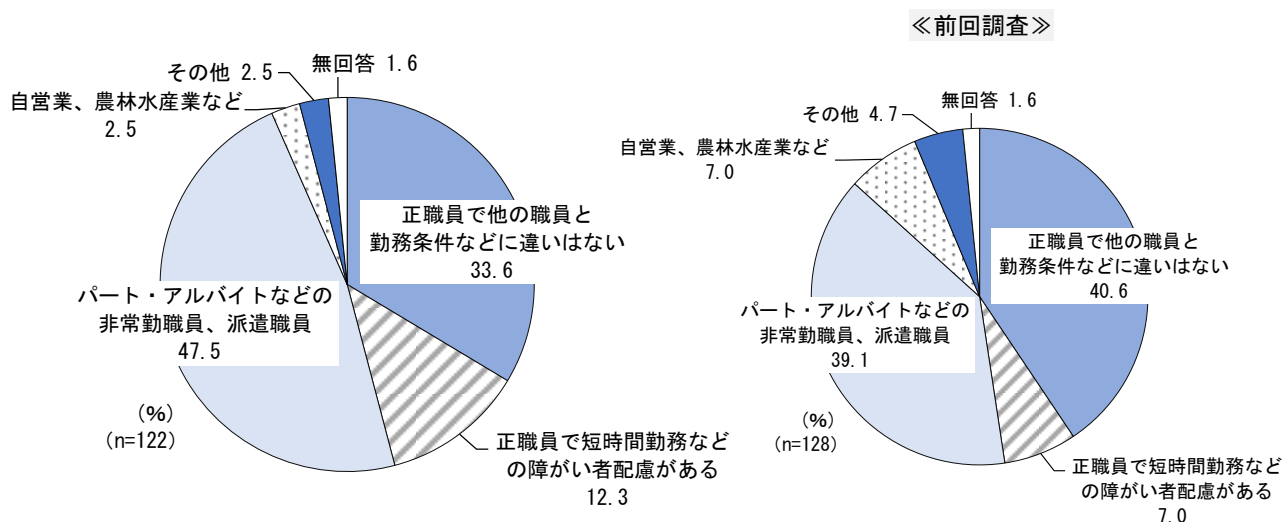
	調査数（人）	会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている (%)	ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている (%)	専業主婦（主夫）をしている (%)	就労継続支援A型も含む（福祉施設、作業所等に通っている） (%)	病院などのデイケアに通っている (%)	リハビリテーションを受けている (%)	自宅で過ごしている (%)	入所している施設や病院等で過ごしている (%)	大学、専門学校、職業訓練校などに通っている (%)	特別支援学校（高等部）に通っている (%)	一般の高校に通っている (%)	その他 (%)	無回答 (%)
身体	239	27.6	0.0	12.1	17.2	3.3	3.8	20.1	5.0	0.8	0.4	0.0	1.3	8.4
療育	151	13.2	0.0	0.0	54.3	1.3	1.3	8.6	11.3	0.7	0.0	0.0	1.3	7.9
精神	148	25.7	0.0	9.5	22.3	1.4	2.0	28.4	3.4	0.7	0.0	0.0	1.4	5.4

(5) 勤務形態

【問 28 で「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」と回答の方】

問 29 どのような勤務形態で働いていますか。(○は1つだけ)

現在就労している人の勤務形態としては、「正職員で他の職員と勤務条件などに違いはない」が 33.6%、「正職員で短時間勤務などの障がい者配慮がある」が 12.3%となっており、合わせると、正社員として働いている割合は4割台（45.9%）となっている。一方、「パート・アルバイトなどの非常勤職員、派遣職員」が 47.5%みられ、前回調査（39.1%）から 8.4ポイント増えている。



【障がい種別 勤務形態】

障がい種別にみると、正社員として働いている割合が、身体では5割台みられるのに対し、精神では3割台と低く、「パート・アルバイトなどの非常勤職員、派遣職員」が6割台を占めている。

	調査数 (人)	正職員で他の職員と勤務条件などに違いはない (%)	正職員で短時間勤務などの障がい者配慮がある (%)	パート・アルバイト、派遣職員など (%)	自営業、農林水産業など (%)	その他 (%)	無回答 (%)
身体	66	48.5	6.1	39.4	3.0	1.5	1.5
療育	20	25.0	15.0	50.0	0.0	5.0	5.0
精神	38	10.5	21.1	65.8	0.0	2.6	0.0

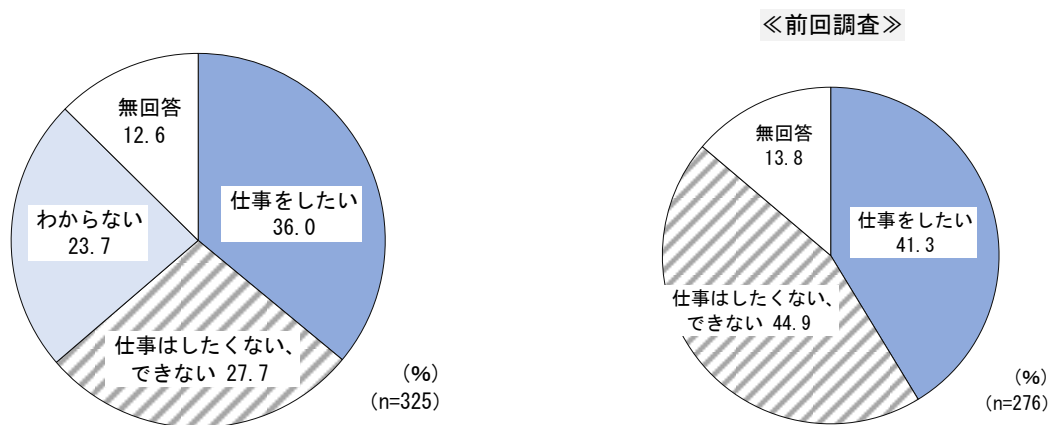
(6) 就労に向けた希望

①就労意向

【問 28 で「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」以外のいずれかと回答の方】

問 30 あなたは今後 3 年以内に、収入を得る仕事をしたいと思いますか。(○は 1 つだけ)

現在就労していない人のうち、今後 3 年以内の就労意向としては、「仕事をしたい」が 36.0%に対し、「仕事はしたくない、できない」が 27.7%となっている。



※「わからない」は新規項目（前回調査なし）

【障がい種別 就労意向】

障がい種別にみると、「仕事をしたい」が、身体 (30.7%)、療育 (29.4%) でともに約 3 割に対し、精神では 47.1%と高くなっている。

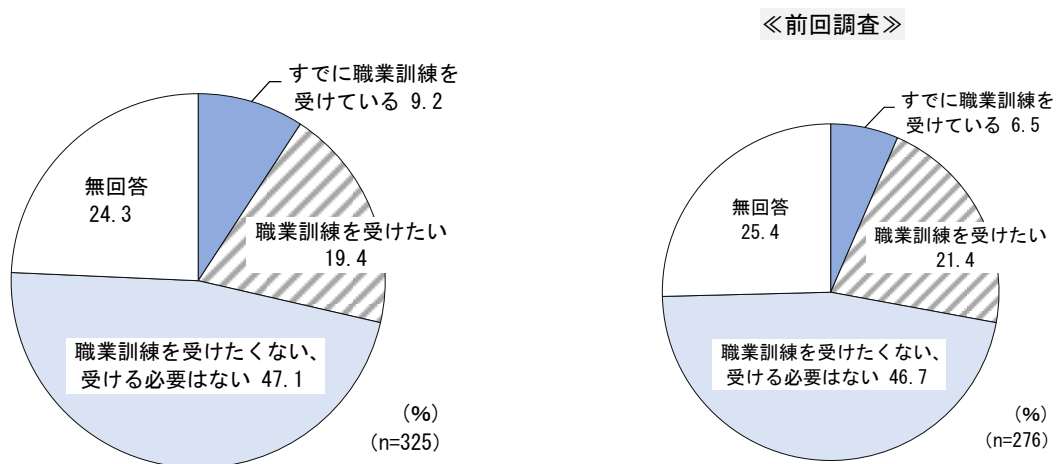
	調査数 (人)	仕事をしたい (%)	仕事はしたくない、できない (%)	わからない (%)	無回答 (%)
身体	153	30.7	37.3	19.6	12.4
療育	119	29.4	21.8	32.8	16.0
精神	102	47.1	23.5	19.6	9.8

②職業訓練等の受講意向

【問 28 で「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」以外のいずれかと回答の方】

問 31 収入を得る仕事をするために、職業訓練などを受けたいと思いますか。(○は1つだけ)

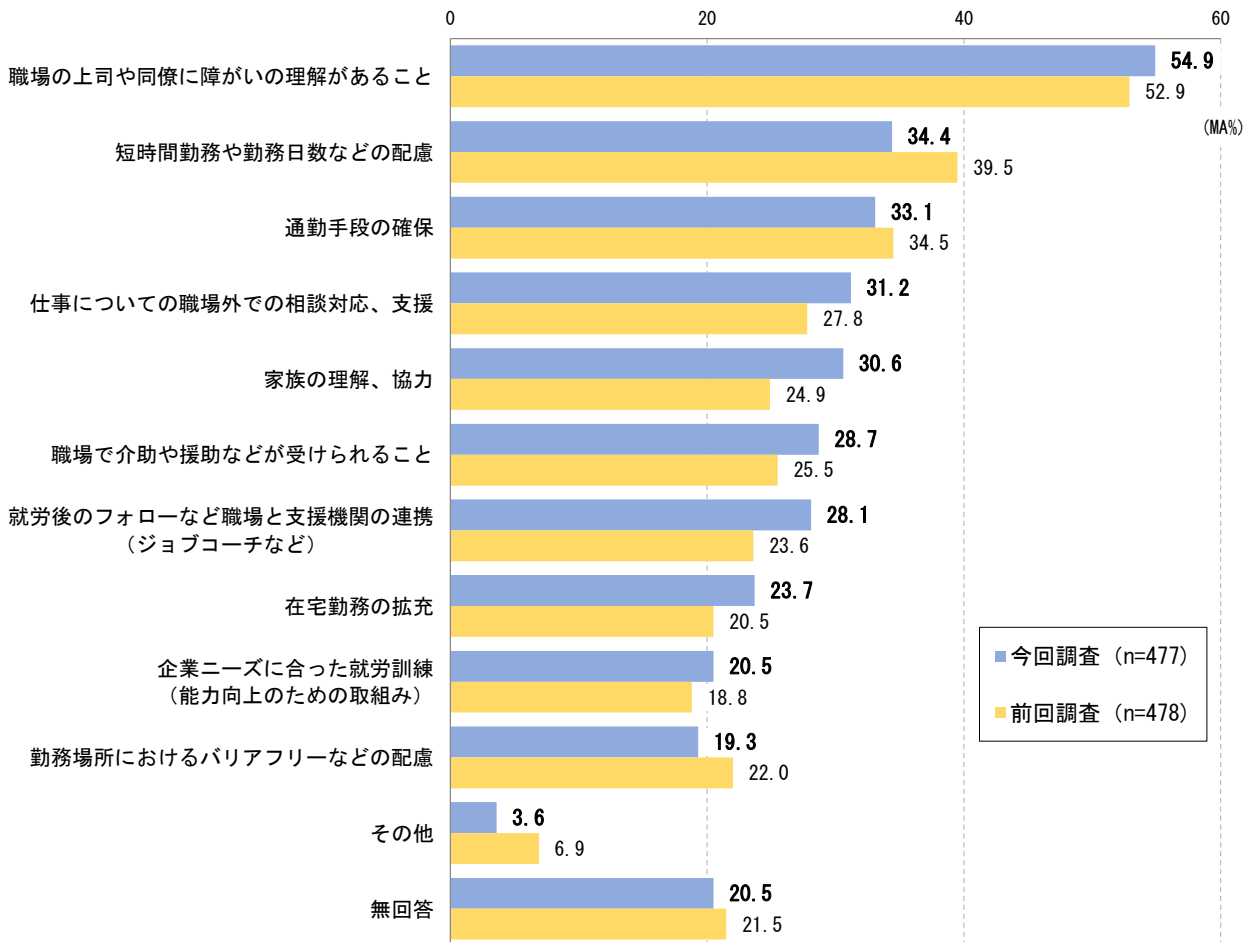
現在就労していない人のうち、就労に向けた職業訓練などの受講意向がある人（「すでに職業訓練を受けている」「職業訓練を受けたい」の計）は、3割程度（28.6%）となっている。前回調査と比べると、「すでに職業訓練を受けている」（今回9.2%、前回6.5%）が2.7ポイント増えている。



(7) 障がい者の就労支援として必要なこと

問 32 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

障がい者の就労支援として必要と思うこととしては、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が 54.9%と最も多く、次いで「短時間勤務や勤務日数などの配慮」が 34.4%、「通勤手段の確保」が 33.1%となっている。前回調査と比べると、多くの項目で割合は増えており、特に「家族の理解、協力」(今回 30.6%、前回 24.9%)では 5.7ポイント増えている。



【障がい種別 障がい者の就労支援として必要なこと】

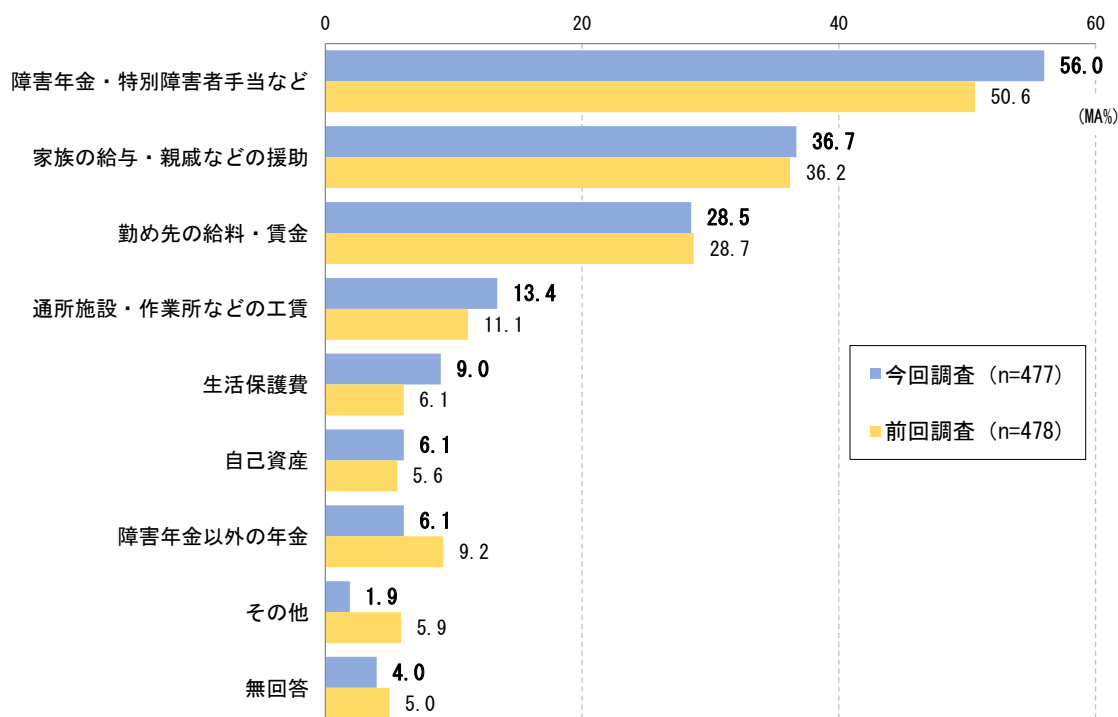
障がい種別にみると、いずれも「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が5割台と最も多くなっている。これに続くのが、身体では「通勤手段の確保」(32.6%)、療育では「職場で介助や援助などが受けられること」(43.7%)、精神では「短時間勤務や勤務日数などの配慮」(42.6%)となっている。

	調査数(人)	(MA%)											
		職場の上司や同僚に障がいの理解があること	短時間勤務や勤務日数などの配慮	通勤手段の確保	仕事についての支援(職場外)	家族の理解、協力	職場で介助や援助などが受けられること	就労後のフォローなど(ジョブコーチなど)	在宅勤務の拡充	企業ニーズに合った就業訓練(能力向上のため)	勤務場所における配慮	その他	無回答
身体	239	51.0	31.0	32.6	24.3	30.1	27.2	18.4	27.2	17.2	26.8	2.5	21.3
療育	151	55.6	31.8	34.4	35.8	25.8	43.7	39.1	11.9	22.5	15.2	3.3	21.2
精神	148	57.4	42.6	35.8	37.2	32.4	20.9	33.8	28.4	20.9	11.5	5.4	18.2

(8) 生活を支える収入源

問 33 あなたの生活を支えている収入は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

生活を支えている収入としては、「障害年金・特別障害者手当など」が56.0%と最も多く、前回調査(50.6%)からも5.4ポイント増えている。これに続くのが、「家族の給与・親戚などの援助」で36.7%、「勤め先の給料・賃金」で28.5%となっている。

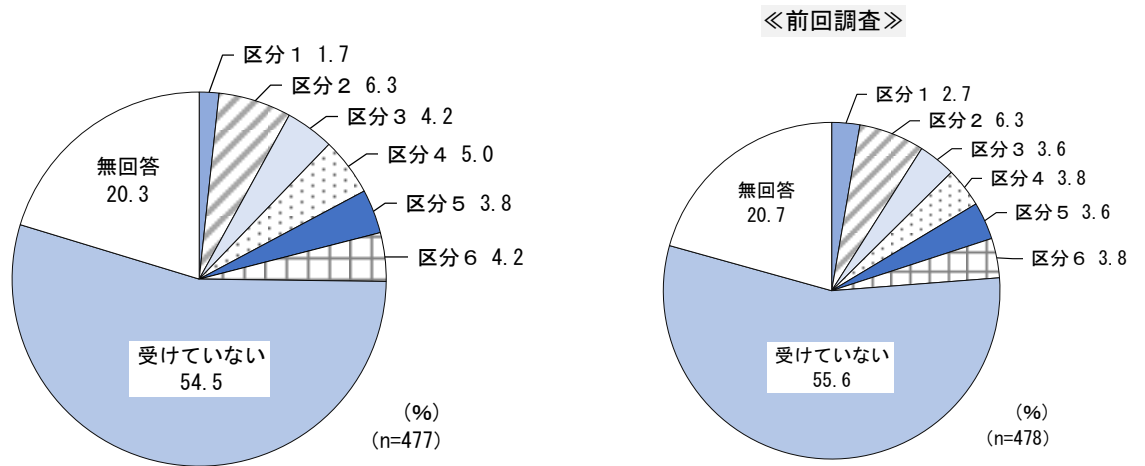


5 障がい福祉サービスなどの利用について

(1) 障害支援区分

問 34 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(○は1つだけ)

障害支援区分の認定を受けている割合は、全体の2割台(25.2%)となっており、前回調査(23.6%)から1.6ポイント増えている。



(2) 障がい福祉サービスの利用状況及び利用意向

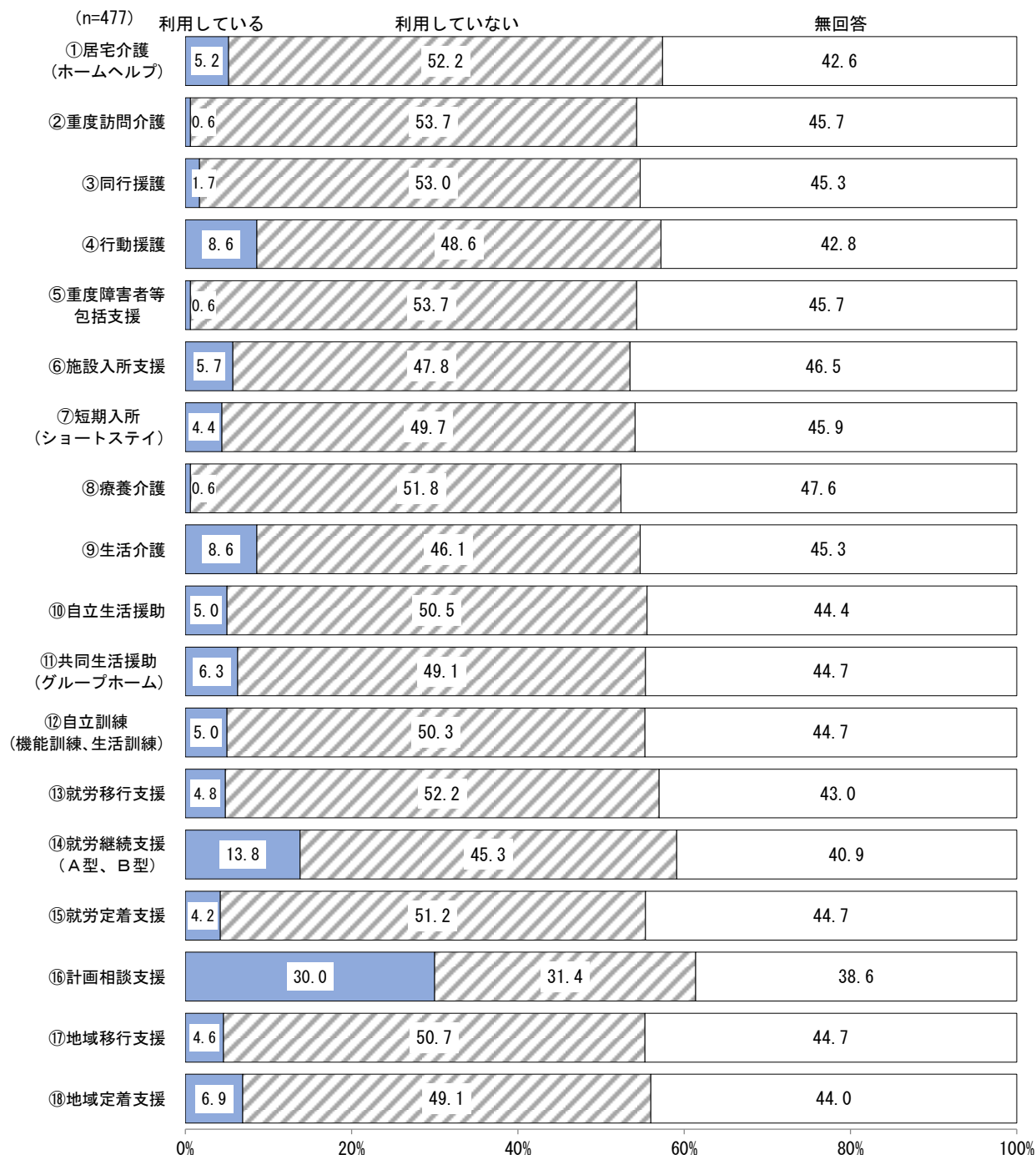
①現在の利用有無

問 35-A あなたは次のサービスを利用していますか。

①から⑱のサービスごとに、現在の利用をお答えください。

また、「利用していない」と答えた場合、その理由をお答えください。

障がい福祉サービスについて、現在利用している割合で見ると、「⑱計画相談支援」が30.0%と最も多く、次いで「⑭就労継続支援（A型、B型）」が13.8%、「⑨生活介護」、「④行動援護」がともに8.6%、「⑱地域定着支援」が6.9%、「⑪共同生活援助（グループホーム）」が6.3%となっている。



【障がい種別 障がい福祉サービスの現在の利用有無「利用している」】

障がい種別にみると、いずれも『⑩計画相談支援』が最も多くなっており、身体・精神で2～3割台に対し、療育では54.3%と高い。また、多くの項目で療育で最も高い割合となっている。

(%)

	調査数(人)	① 居宅介護 (ホームヘルプ)	② 重度訪問介護	③ 同行援護	④ 行動援護	⑤ 重度障害者等包括支援	⑥ 施設入所支援	⑦ 短期入所 (シヨートステイ)	⑧ 療養介護	⑨ 生活介護
身体	239	8.8	0.4	2.5	5.9	0.8	5.0	5.4	1.3	10.0
療育	151	4.6	1.3	0.7	21.2	0.7	14.6	11.3	0.7	21.2
精神	148	5.4	1.4	2.0	6.8	1.4	0.7	0.0	0.0	2.0

	⑩ 自立生活援助	⑪ 共同生活援助 (グループホーム)	⑫ 自立訓練 (機能訓練、生活訓練)	⑬ 就労移行支援	⑭ 就労継続支援 (A型、B型)	⑮ 就労定着支援	⑯ 計画相談支援	⑰ 地域移行支援	⑱ 地域定着支援
身体	6.7	3.8	4.2	2.9	7.5	2.9	23.8	5.0	7.5
療育	4.0	14.6	9.3	6.6	25.2	6.6	54.3	7.9	8.6
精神	7.4	5.4	5.4	8.1	16.2	6.1	31.1	3.4	7.4

②現在利用していない理由

現在利用していないと回答したサービスについて、それぞれ理由をたずねたところ、いずれのサービスも「サービスを受ける必要がないため」が4～6割台と最も多くなっている。また、「サービスの対象者に含まれないため」が『③同行援護』で11.5%、『⑤重度障害者等包括支援』で10.9%と1割台みられる。

(MA%)

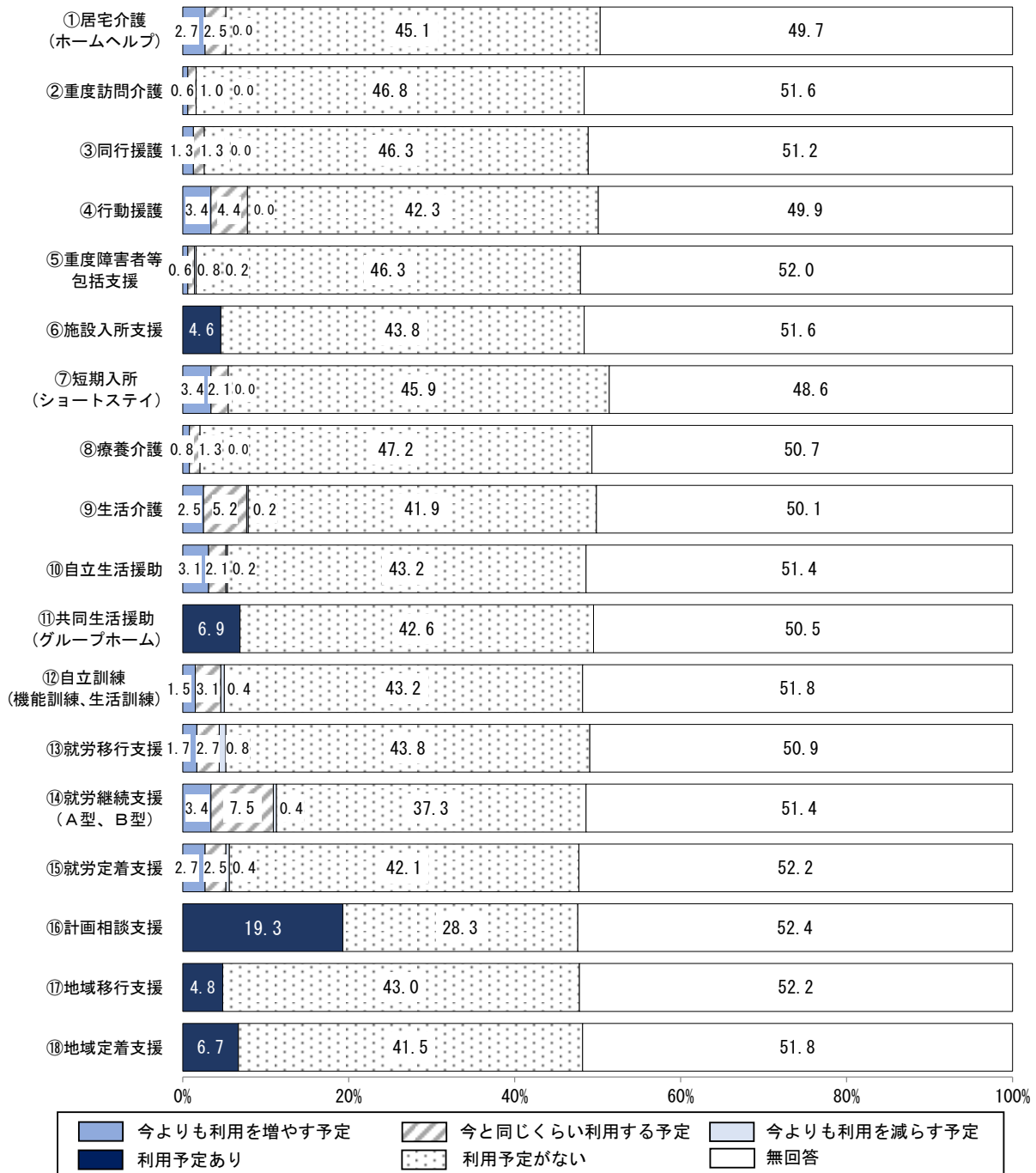
	調査数 (人)	サービスを受ける必要がないため	サービスの対象者に含まれないため	既に別のサービスの提供を受けているため	サービス利用時間の都合が合わないため	地域にサービス提供場所がないため	利用料金がかかるため	サービスがあることを知らなかったため	その他	無回答
① 居宅介護（ホームヘルプ）	249	64.7	6.0	3.2	0.0	0.0	0.8	0.4	4.8	21.3
② 重度訪問介護	256	62.5	9.4	2.7	0.0	0.0	0.8	1.2	3.5	21.1
③ 同行援護	253	60.9	11.5	1.6	0.0	0.0	0.8	1.6	4.0	20.9
④ 行動援護	232	61.6	7.3	2.2	0.0	0.0	1.3	1.3	5.2	21.1
⑤ 重度障害者等包括支援	256	60.9	10.9	2.3	0.0	0.4	0.8	1.2	3.5	21.1
⑥ 施設入所支援	228	64.5	8.8	1.3	0.0	0.0	1.8	0.0	3.1	22.4
⑦ 短期入所（ショートステイ）	237	64.1	7.2	3.8	0.4	0.4	1.7	0.0	3.4	20.7
⑧ 療養介護	247	65.2	9.3	1.6	0.0	0.0	1.6	0.4	2.0	21.5
⑨ 生活介護	220	65.9	8.6	0.9	0.0	0.0	1.8	0.0	2.3	22.3
⑩ 自立生活援助	241	61.4	5.8	2.5	0.0	0.4	0.8	2.9	5.4	20.7
⑪ 共同生活援助（グループホーム）	234	59.4	5.6	3.0	0.4	1.3	2.1	1.3	6.0	21.8
⑫ 自立訓練（機能訓練、生活訓練）	240	55.4	5.8	3.8	0.4	0.8	0.4	5.8	5.8	22.1
⑬ 就労移行支援	249	49.0	8.0	5.6	1.2	0.4	0.8	4.8	7.6	22.9
⑭ 就労継続支援（A型、B型）	216	51.9	7.9	5.1	1.4	0.5	0.9	4.6	6.5	21.8
⑮ 就労定着支援	244	52.0	7.4	4.1	1.2	0.4	0.4	5.7	6.6	22.5
⑯ 計画相談支援	150	68.7	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	5.3	18.7
⑰ 地域移行支援	242	57.4	4.1	1.7	0.0	0.0	1.2	7.9	5.0	23.6
⑱ 地域定着支援	234	56.0	4.3	2.1	0.0	0.4	0.4	9.0	4.7	23.9

③今後3年以内の利用予定

問 35-B あなたは次のサービスをこれから利用する予定はありますか。

①から⑱のサービスごとに、今後3年以内の利用をお答えください。
また、「利用予定がない」と答えた場合、その理由をお答えください。

今後3年以内のサービスの利用予定についてたずねたところ、「今よりも利用を増やす予定」が『④行動援護』、『⑦短期入所（ショートステイ）』、『⑭就労継続支援（A型、B型）』でいずれも3.4%などとなっている。一方、利用予定がある割合（「今よりも利用を増やす予定」「今と同じくらい利用する予定」「今よりも利用を減らす予定」の計、または「利用予定あり」）でみると、『⑱計画相談支援』で19.3%と高く、次いで『⑭就労継続支援（A型、B型）』で11.3%、『⑨生活介護』で7.9%、『④行動援護』で7.8%となっている。



※⑥施設入所支援、⑪共同生活援助(グループホーム)、⑯計画相談支援、⑰地域移行支援、⑱地域定着支援の白抜きは「利用予定あり」の割合

④利用予定がない理由

今後3年以内の利用予定がないと回答したサービスについて、それぞれ理由をたずねたところ、いずれのサービスも「サービスを受ける必要がないため」が5～7割台と最も多くなっている。また、「サービスの対象者に含まれないため」が『③同行援護』で14.0%、「既に別のサービスの提供を受けているため」が『⑬就労移行支援』で6.2%と、それぞれ他のサービスに比べて最も高い割合となっている。

(MA%)

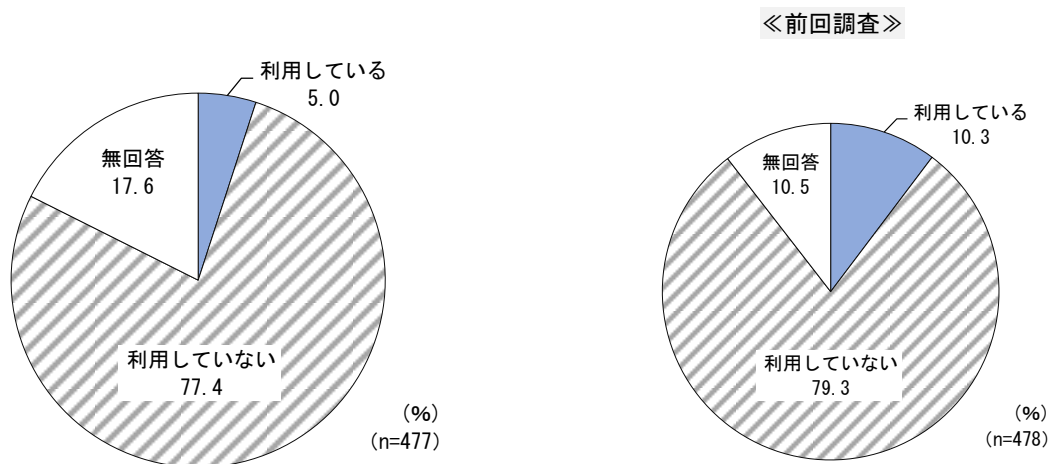
	調査数(人)	サービスを受ける必要がないため	サービスの対象者に含まれないため	既に別のサービスの提供を受けているため	サービス利用時間の都合が合わないため	地域にサービス提供場所がないため	利用料金がかかるため	サービスがあることを知らなかったため	その他	無回答
①居宅介護(ホームヘルプ)	215	74.0	7.9	3.7	0.5	0.0	1.4	0.0	4.7	8.8
②重度訪問介護	223	71.3	11.7	3.1	0.4	0.0	1.3	0.4	4.0	8.5
③同行援護	221	70.1	14.0	1.4	0.5	0.0	1.8	0.5	4.5	8.1
④行動援護	202	71.8	8.4	2.0	0.5	0.0	2.0	1.0	5.9	8.4
⑤重度障害者等包括支援	221	71.0	12.2	2.7	0.5	0.0	1.8	0.5	4.1	8.1
⑥施設入所支援	209	75.1	8.6	1.0	0.0	0.0	2.9	0.0	2.9	11.5
⑦短期入所(ショートステイ)	219	72.1	8.7	3.2	0.5	0.0	2.3	0.0	4.6	10.5
⑧療養介護	225	73.8	10.2	1.8	0.0	0.4	2.2	0.0	3.6	9.8
⑨生活介護	200	75.5	9.5	0.5	0.0	0.0	2.0	0.5	3.0	11.0
⑩自立生活援助	206	72.8	5.8	1.9	0.0	1.0	1.0	1.9	6.8	8.7
⑪共同生活援助(グループホーム)	203	69.0	6.4	2.0	0.0	1.0	2.0	2.0	6.9	11.8
⑫自立訓練(機能訓練、生活訓練)	206	64.6	7.3	4.4	0.5	1.0	0.5	3.9	6.8	11.7
⑬就労移行支援	209	57.4	11.5	6.2	1.0	1.0	1.0	3.3	9.1	10.0
⑭就労継続支援(A型、B型)	178	61.8	9.0	4.5	0.6	0.6	1.1	3.9	8.4	10.7
⑮就労定着支援	201	63.2	10.0	4.0	1.0	0.5	0.5	4.0	8.5	9.0
⑯計画相談支援	135	74.8	3.0	0.0	0.7	0.0	0.0	4.4	6.7	10.4
⑰地域移行支援	205	68.3	2.9	2.0	0.5	0.0	1.0	6.8	8.3	10.7
⑱地域定着支援	198	66.2	4.0	2.0	0.5	0.0	1.0	7.1	9.1	10.6

(3) 介護保険サービスの利用状況

①介護保険サービスの利用有無

問 36 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。(○は1つだけ)

介護保険サービスを「利用している」は、全体の5.0%となっており、前回調査(10.3%)から5.3ポイント減っている。

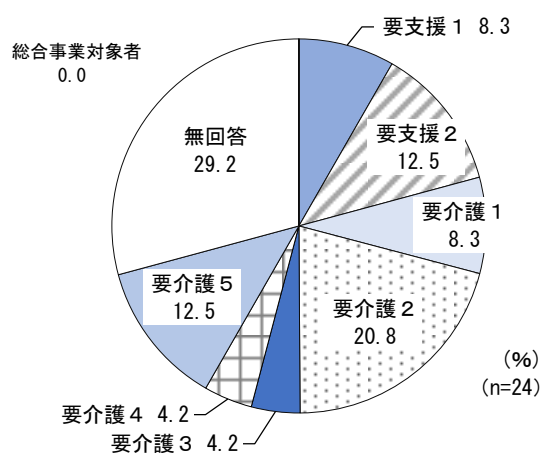


②要介護度

【問 36 で「利用している」と回答の方】

問 37 該当する要介護度はどれですか。(○は1つだけ)

介護保険サービスを利用している人(24人)の要介護度としては、「要介護2」が20.8%(5人)などとなっている。

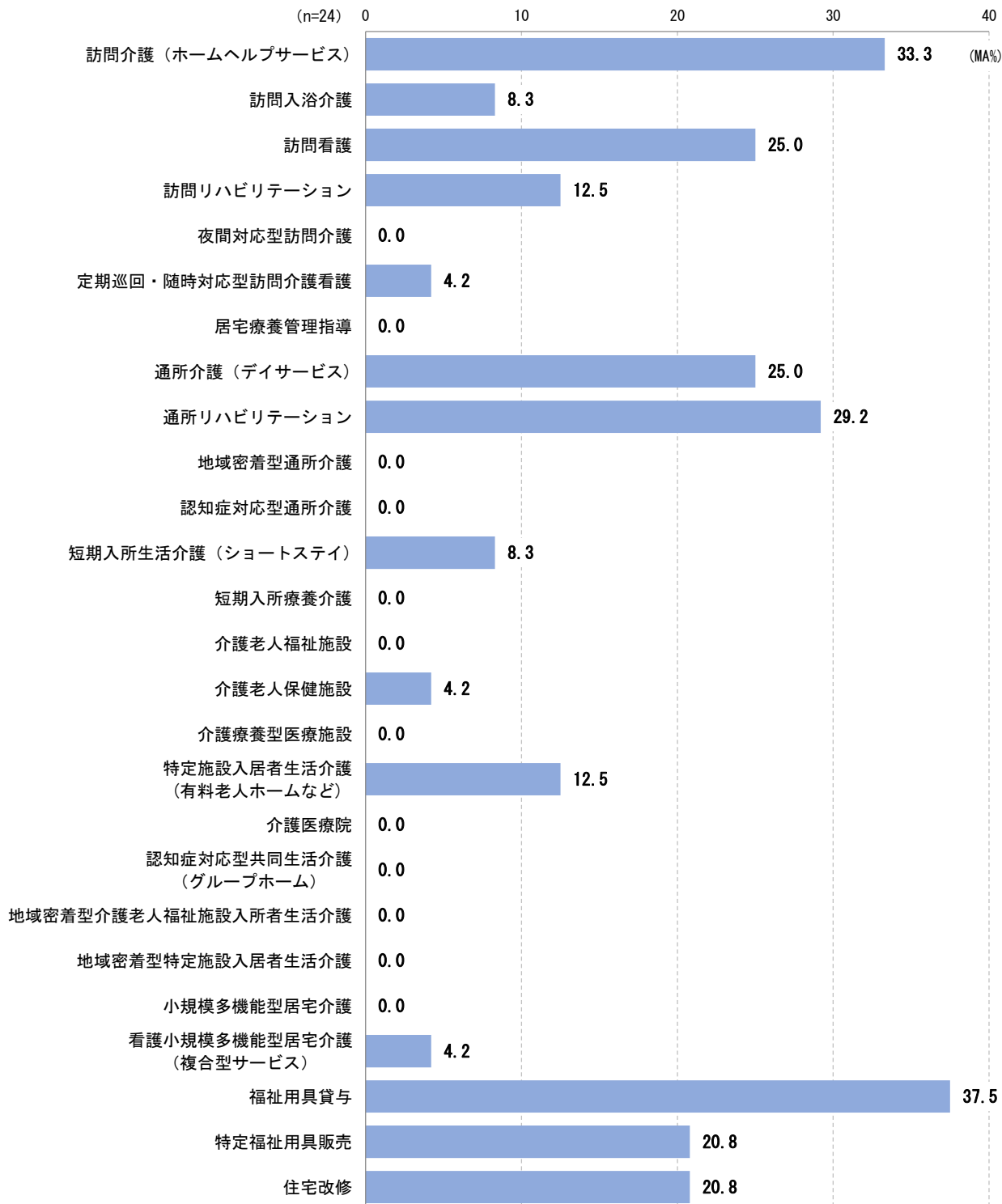


③利用している介護保険サービス

【問 36 で「利用している」と回答の方】

問 38 利用している介護保険サービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

介護保険サービスを利用している人（24人）が具体的に利用しているサービスとしては、「福祉用具貸与」が37.5%（9人）、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が33.3%（8人）、「通所リハビリテーション」が29.2%（7人）などとなっている。

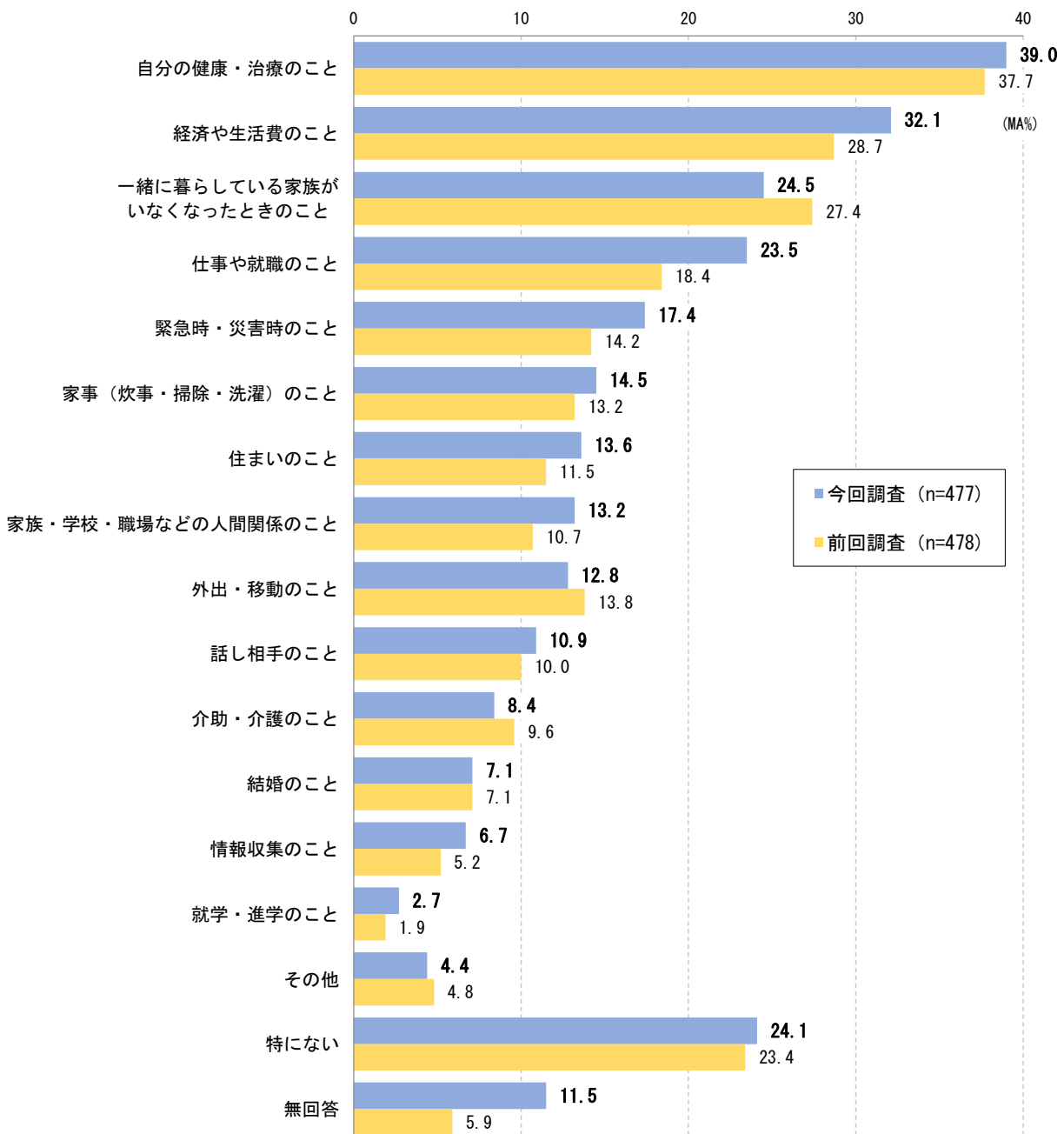


6 相談や情報入手などについて

(1) 悩みごとや相談したいこと

問 39 現在、あなたは、悩んでいることや、誰かに相談したいことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

現在の悩みごとや誰かに相談したいこととしては、「自分の健康・治療のこと」が39.0%と最も多く、次いで「経済や生活費のこと」が32.1%、「一緒に暮らしている家族がいなくなった時のこと」が24.5%となっている。また、これに続くのが、「仕事や就職のこと」で23.5%となっており、前回調査(18.4%)から5.1ポイント増えている。



【障がい種別 悩みごとや相談したいこと】

障がい種別にみると、いずれも「自分の健康・治療のこと」が最も多く、精神で 47.3%と高い。また、多くの項目について精神で最も高い割合となっており、特に、「経済や生活費のこと」が 45.3%、「仕事や就職のこと」が 37.2%と、身体・療育に比べて高い。

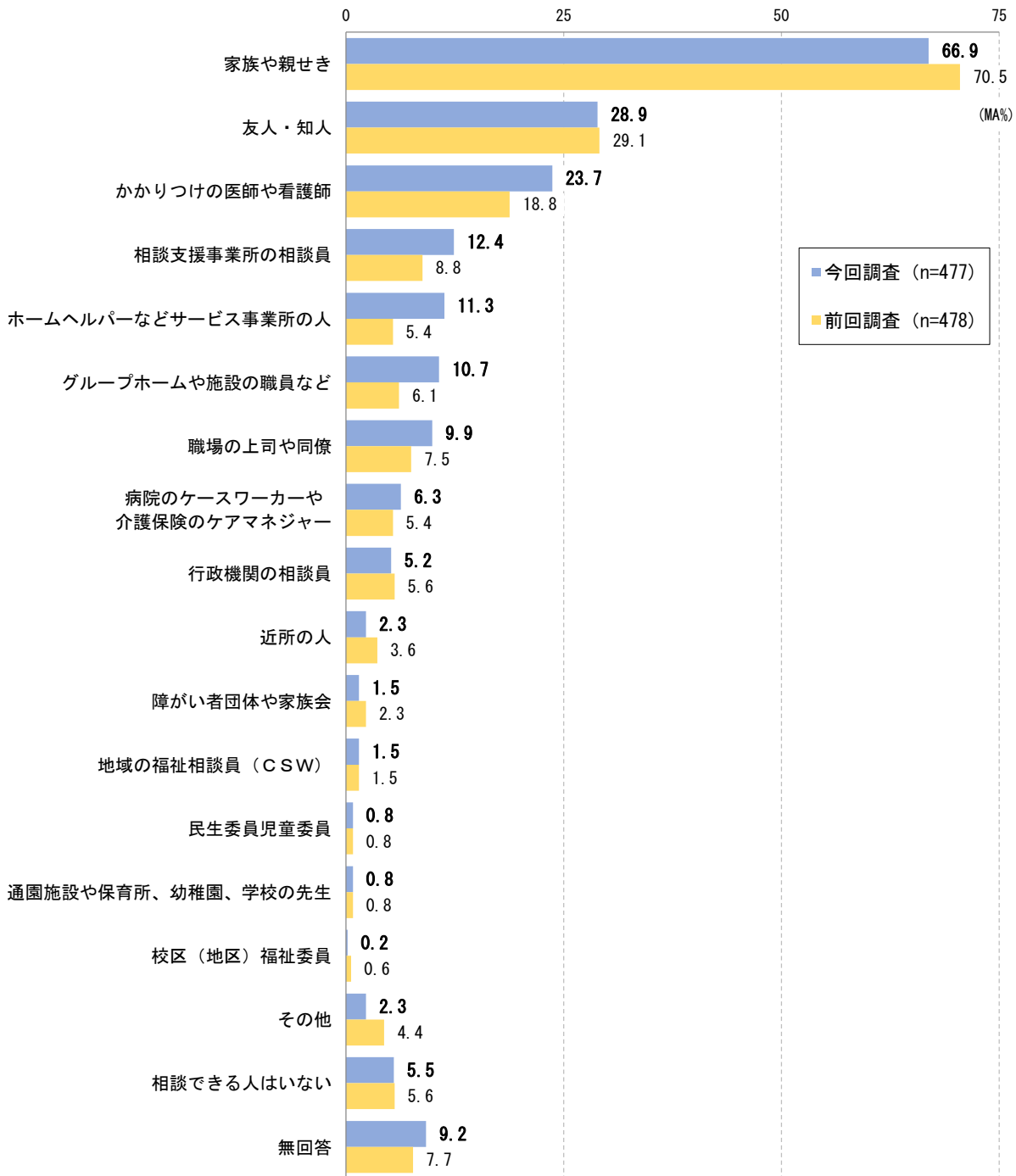
		(MA%)								
	調査数（人）	自分の健康・治療のこと	経済や生活費のこと	一緒に暮らしている家族がいなくなつたときのこと	仕事や就職のこと	緊急時・災害時のこと	家事（炊事・掃除・洗濯）のこと	住まいのこと	家族・学校・職場などの人間関係のこと	外出・移動のこと
身体	239	41.0	28.9	22.2	18.8	18.0	10.5	11.7	9.2	9.6
療育	151	28.5	21.9	24.5	18.5	19.2	13.2	15.9	12.6	19.2
精神	148	47.3	45.3	32.4	37.2	15.5	20.3	18.9	22.3	15.5

	話し相手のこと	介助・介護のこと	結婚のこと	情報収集のこと	就学・進学のこと	その他	特にない	無回答
身体	8.8	7.5	3.3	4.2	0.8	3.3	26.8	12.1
療育	11.3	14.6	6.0	7.3	2.6	2.6	25.2	17.2
精神	17.6	6.1	12.2	10.1	6.8	7.4	12.8	9.5

(2) 悩みごとなどの相談先

問 40 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

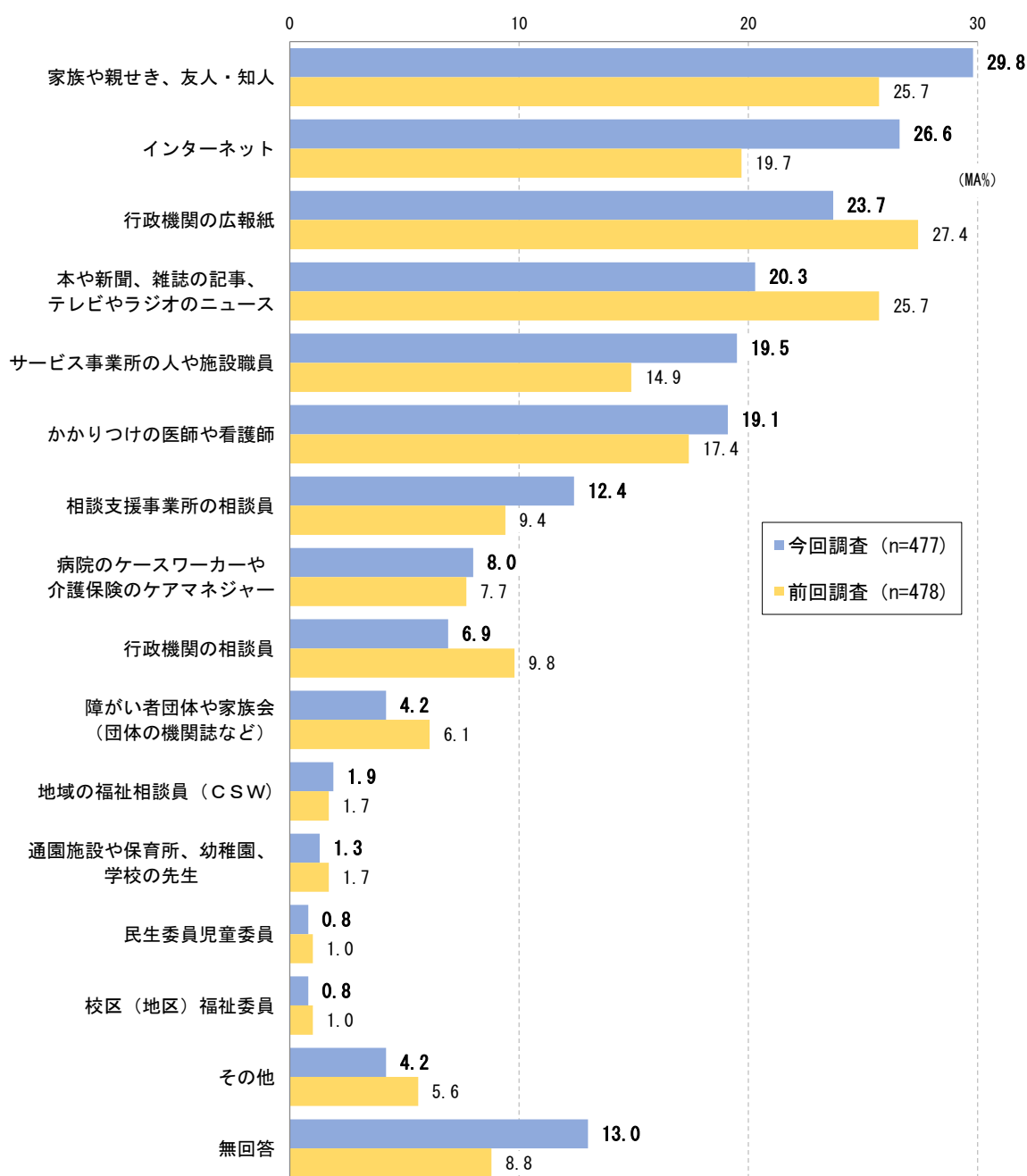
悩みや困ったことの相談先としては、「家族や親せき」が66.9%と最も多く、次いで「友人・知人」が28.9%となっている。これに続くのが、「かかりつけの医師や看護師」で23.7%となっており、前回調査(18.8%)から4.9ポイント増えている。一方、「相談できる人はいない」は5.5%となっている。



(3) 福祉サービスなどに関する情報の入手先

問 41 あなたは障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

障がいのことや福祉サービスなどに関する情報をどこから知ることが多いかたずねたところ、「家族や親せき、友人・知人」が29.8%と最も多くなっている。また、「インターネット」が26.6%と次いで多くなっており、前回調査(19.7%)から6.9ポイント増えている。一方、「行政機関の広報紙」(23.7%)、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」(20.3%)については、ともに前回調査から減っている。



【障がい種別 福祉サービスなどに関する情報の入手先】

障がい種別にみると、身体では「行政機関の広報紙」が29.7%、療育では「家族や親せき、友人・知人」が31.8%、精神では「インターネット」が35.8%と、それぞれ最も多くなっている。

(MA%)

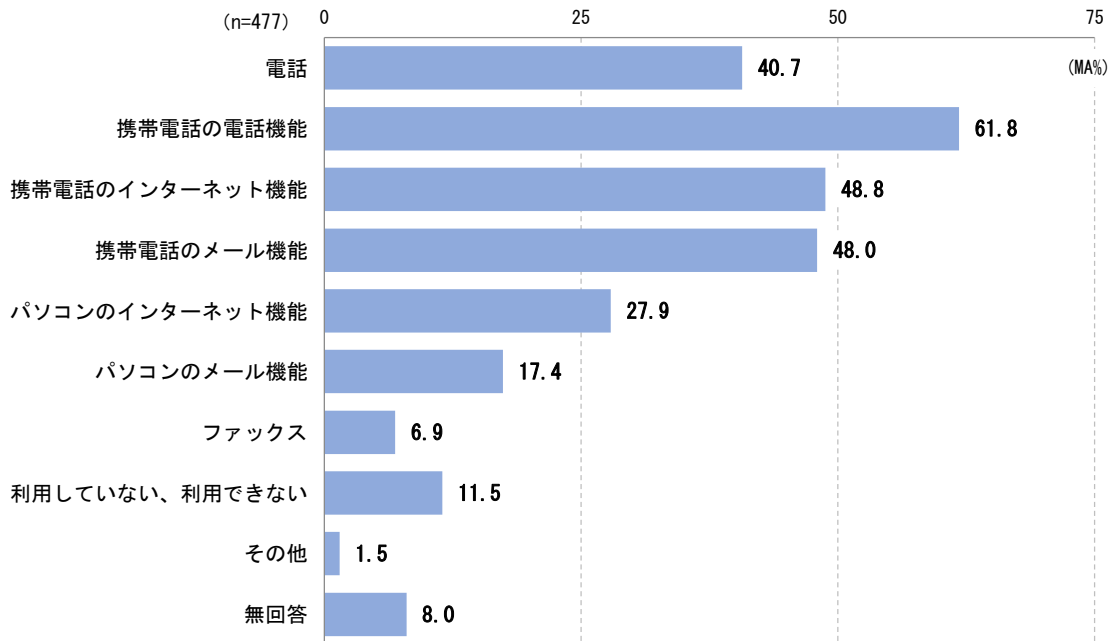
	調査数(人)	家族や親せき、友人・知人	インターネット	行政機関の広報紙	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース	サービス事業所の人や施設職員	かかりつけの医師や看護師	相談支援事業所の相談員	病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー	行政機関の相談員
身体	239	27.6	28.0	29.7	24.3	15.1	20.9	9.6	7.5	5.9
療育	151	31.8	11.3	11.9	11.9	29.8	8.6	21.9	5.3	7.3
精神	148	33.1	35.8	18.9	18.9	20.9	25.7	11.5	12.2	9.5

	障がい者団体や家族会(団体機関誌など)	地域の福祉相談員(CS)	通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生	民生委員児童委員	校区(地区)福祉委員	その他	無回答
身体	2.9	1.3	0.8	0.0	0.8	4.2	11.7
療育	8.6	2.0	2.6	1.3	2.6	6.6	19.9
精神	3.4	3.4	1.4	2.0	1.4	2.7	9.5

(4) 利用している通信機器

問 42 あなたはどのような通信機器を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

利用している通信機器としては、「携帯電話の電話機能」が 61.8%と最も多く、次いで「携帯電話のインターネット機能」が 48.8%、「携帯電話のメール機能」が 48.0%となっている。一方、「利用していない、利用できない」は 1 割台 (11.5%) みられる。

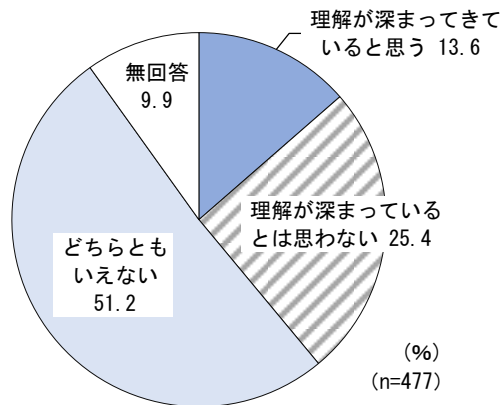


7 人権擁護について

(1) 地域活動や社会参加に対する理解深度

問 43 あなたは、障がいのある人の地域活動や就職などの社会参加について、一般の理解が深まってきたと思いますか。(〇は1つだけ)

障がいのある人の地域活動や就職などの社会参加について、「理解が深まってきたと思う」が13.6%に対し、「理解が深まっているとは思わない」が25.4%となっている。



【障がい種別 地域活動や社会参加に対する理解深度】

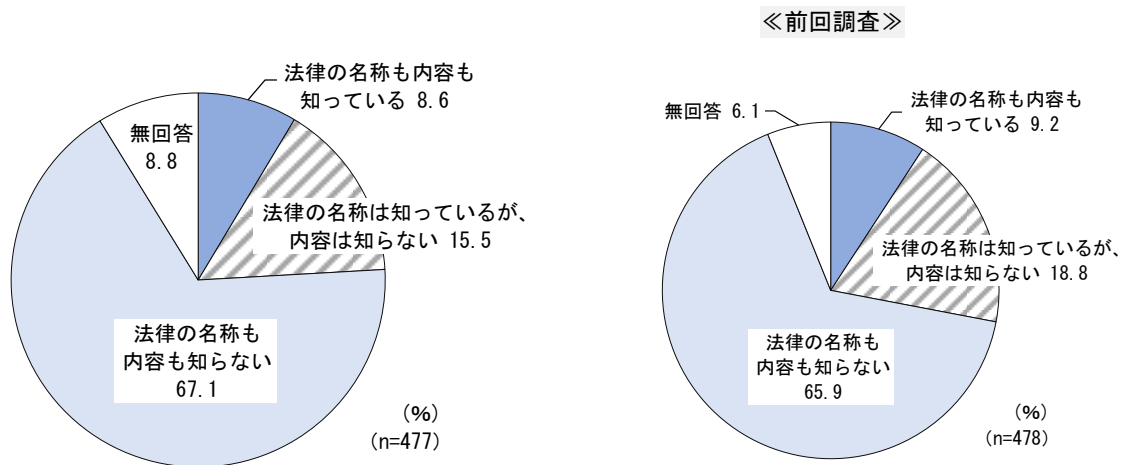
障がい種別にみると、「理解が深まっているとは思わない」が、身体で24.3%、療育で19.2%に対し、精神では35.8%と高くなっている。

		(%)			
	調査数 (人)	理解が深まってきたと思う	理解が深まっているとは思わない	どちらともいえない	無回答
身体	239	16.3	24.3	51.0	8.4
療育	151	13.2	19.2	52.3	15.2
精神	148	14.9	35.8	44.6	4.7

(2) 障害者差別解消法の認知度

問 44 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(○は1つだけ)

障害者差別解消法について、「法律の名称も内容も知っている」は 8.6%となっており、前回調査(9.2%)と同様に1割未満にとどまっている。

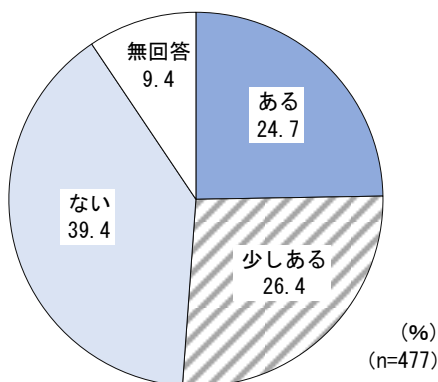


(3) 障がいを理由に差別や嫌な思いをした状況

①差別や嫌な思いをした経験

問 45 あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをする(した)ことがありますか。(○は1つだけ)

障がいがあることで差別や嫌な思いをしたことがあるという割合(「ある」「少しある」の計)は、全体の5割台(51.1%)となっている。



【障がい種別 差別や嫌な思いをした経験】

障がい種別にみると、差別や嫌な思いをしたことがあるという割合が、精神で23.0%と最も高く、次いで療育で28.5%、身体で24.3%となっている。

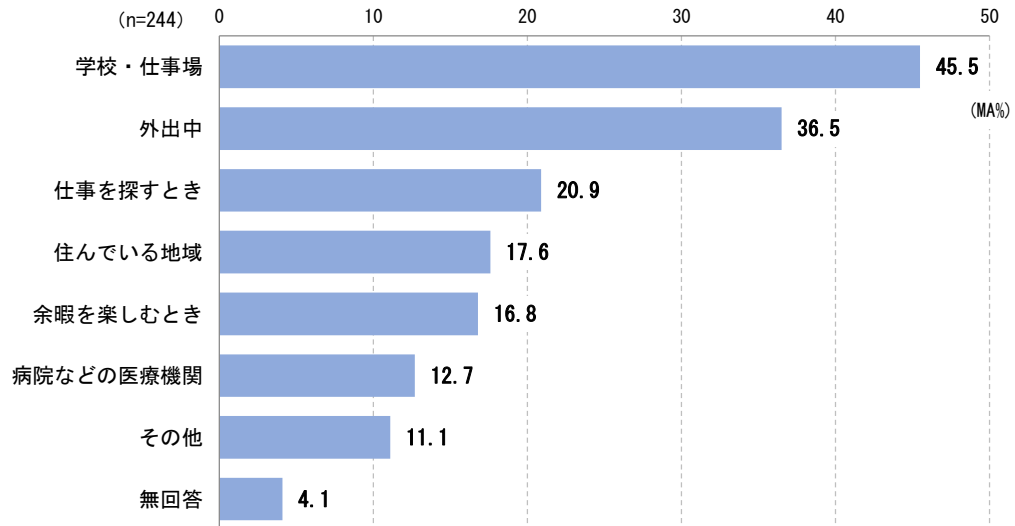
		(%)			
	調査数 (人)	ある	少しある	ない	無回答
身体	239	23.0	21.3	46.0	9.6
療育	151	28.5	25.2	29.8	16.6
精神	148	24.3	37.8	32.4	5.4

②差別や嫌な思いをした場所

【問45で「ある」または「少しある」と回答の方】

問46 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

障がいがあることで差別や嫌な思いをしたことがあると回答した人に、具体的なその場所(場面)についてたずねたところ、「学校・仕事場」が45.5%と最も多く、次いで「外出中」が36.5%となっている。



③差別や嫌な思いをした際の状況

【問 45 で「ある」または「少しある」と回答の方】

それはどのような状況だったか、具体的にご記入ください。

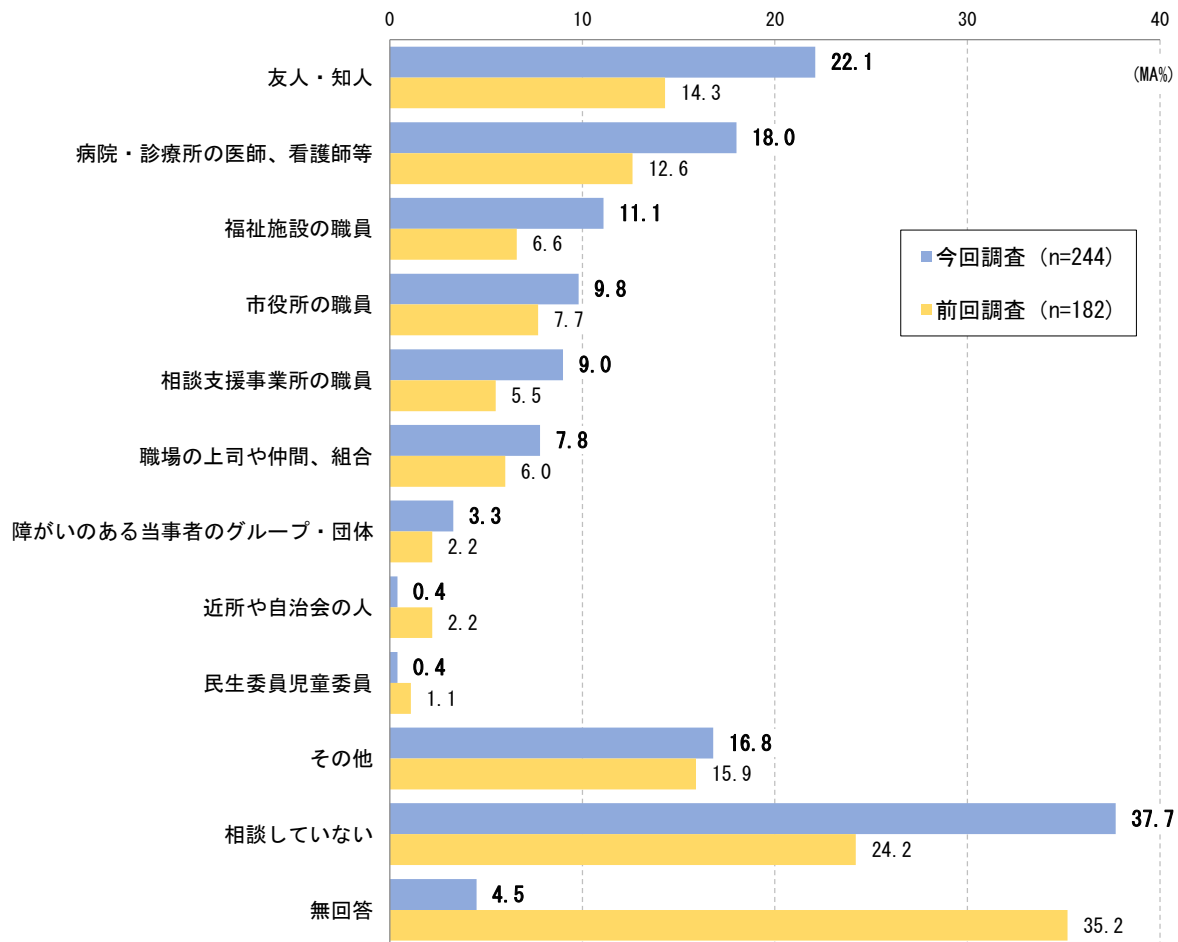
主な意見
目に見えない障がいのため行動に対する理解不足で差別用語を浴びせられた。
面接時、病名を言うと難色を示された。
病院で病名を言ったら笑われた。
電車に乗った時、座席に座ったらいやな顔をされて、席を立って他の席に移動された。
仲間はずれや1人ぼっちになることが、学生の時にあった。
知人に事業所に通っていると知られた時に笑われた事がある。
怠け者扱いされた。
精神病だと言うと、変な目で見られることが多い。
職場で理解してもらえない。「仕事が遅い」と叱られる。
職種が限られていたり、時給が一般の人より安かったりすることで差別されていると感じる。
障がいを理由に就職の体験業務の授業を受けることができない。
障がいの等級を聞かれたり、電話の対応で聞き間違いを指摘されたこと。
公共の乗り物や施設でジロジロと見られる。
周りの人々の無理解
仕事の仕方がわからないので何度も聞いたら露骨に嫌われる。求人が少ない、条件も悪い。
飲食店で車イスだということで後回しにされ、満席になり入れなかった。
右手の上腕がないため、高校生にこわいと言われた。
見た目で判断されてしまい、誰かに声をかけにくい。また、難しい話が理解できないので、聞き直すと面倒そうな態度をされる。
学校でのいじめ、仲間外れ
バカにされるか同情の目で見られるか極端。また、障がいがあってもがんばっている人がいると言われる。
上司によるパワハラ、精神障がいを理由とした人格否定
他者への悪口による風評被害（障がい＝頭がおかしいといった発言）
電車での優先座席。ラッシュ時には健常者が寝たふりをして席をゆずってくれない。

④差別や嫌な思いをした際の相談先

【問 45 で「ある」または「少しある」と回答の方】

問 47 あなたは、障がいがあることで差別を受けたり、嫌な思いをしたりした際にどなたに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

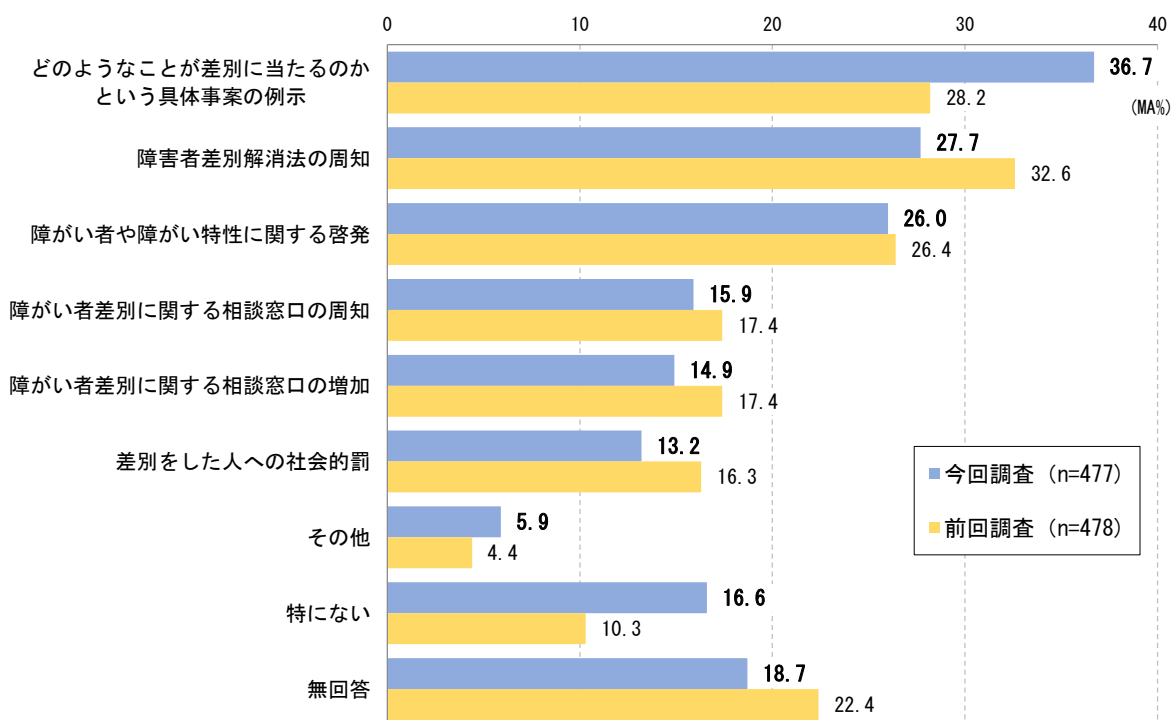
差別を受けたり、嫌な思いをしたりした際の相談先としては、「友人・知人」が 22.1%と多く、次いで「病院・診療所の医師、看護師等」が 18.0%となっている。一方、「相談していない」が4割近く(37.7%)みられる。



(4) 差別がなくなるために必要と思う配慮や取組

問 48 あなたは、差別がなくなるために、こういった配慮や取組が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

差別がなくなるためにこういった配慮や取組が必要と思うかたずねたところ、「どのようなことが差別に当たるのかという具体事案の例示」が 36.7%と最も多く、前回調査 (28.2%) から 8.5 ポイント増えている。また、これに続くのが、「障害者差別解消法の周知」で 27.7%、「障がい者や障がい特性に関する啓発」で 26.0%となっている。



【障がい種別 差別がなくなるために必要と思う配慮や取組】

障がい種別にみると、いずれも「どのようなことが差別に当たるのかという具体事案の例示」が最も多くなっており、特に精神で 39.2%と高い。

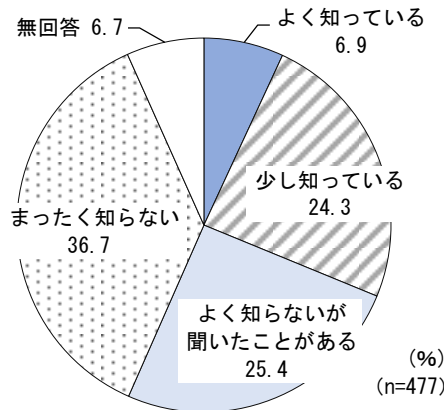
	調査数 (人)	どのよう な事案の 例示が 多いか	周知 の割合	啓発 の割合	障 害者 の 周 知 に 関 する	障 害者 の 別 増 加 に 関 する	社 会 的 罰 を し た 人 へ の 社 会 的 罰	そ の 他	特 に な い	無 回 答
身体	239	35.6	27.2	23.8	17.2	15.1	10.9	4.2	17.6	19.2
療育	151	35.1	24.5	27.8	14.6	13.9	13.9	6.6	16.6	24.5
精神	148	39.2	28.4	27.7	17.6	19.6	18.2	10.1	11.5	12.8

(5) 成年後見制度の認知状況

①成年後見制度の認知度

問 49 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つだけ)

成年後見制度について知っているという割合(「よく知っている」「少し知っている」の計)は、全体の3割台(31.2%)となっている。

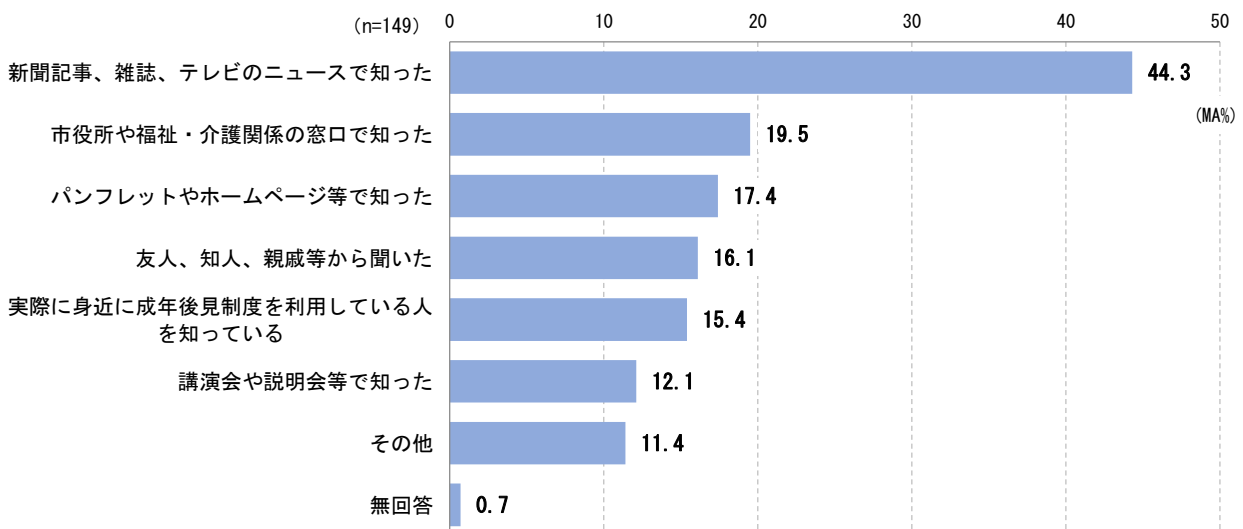


②成年後見制度について知ったきっかけ

【問 49 で「よく知っている」または「少し知っている」と回答の方】

問 50 どこで「成年後見制度」を知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

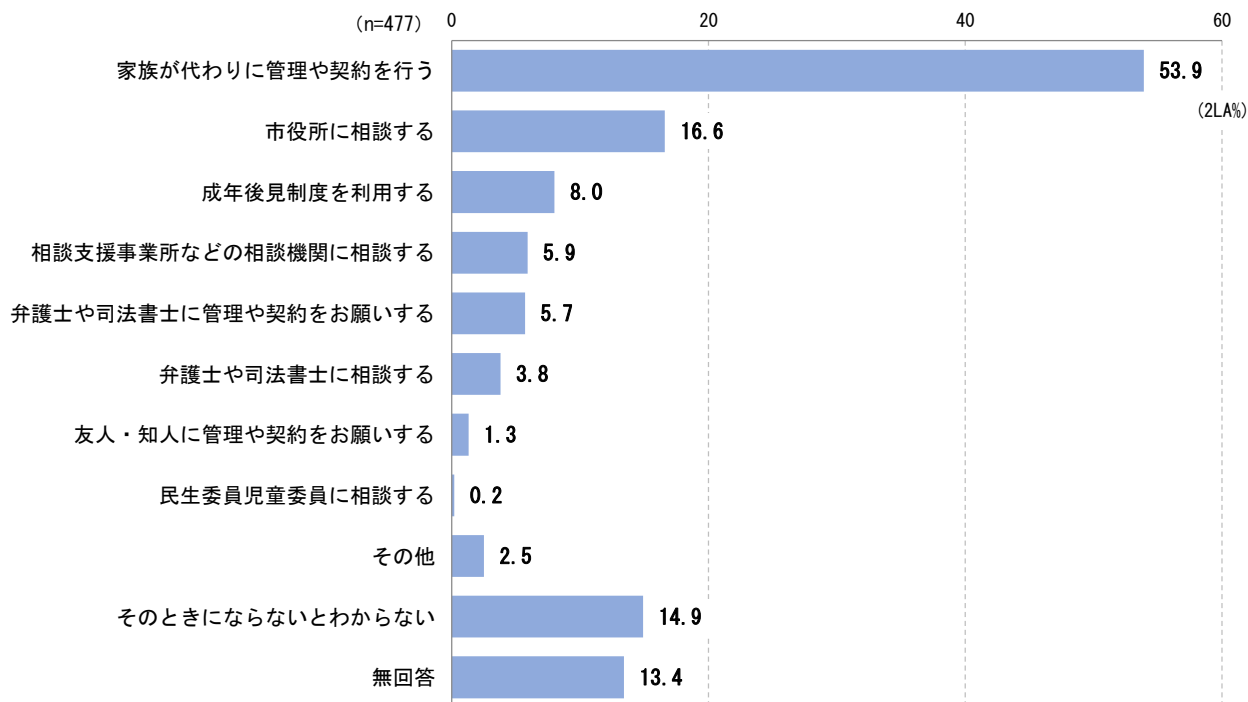
成年後見制度を知っていると回答した人の制度を知ったきっかけとしては、「新聞記事、雑誌、テレビのニュースで知った」が44.3%と最も多くなっている。



(6) お金の管理や契約が難しい場合の対処

問 51 あなたは、お金の管理や契約が難しい場合、どのようにしたいとお考えですか。(〇は2つまで)

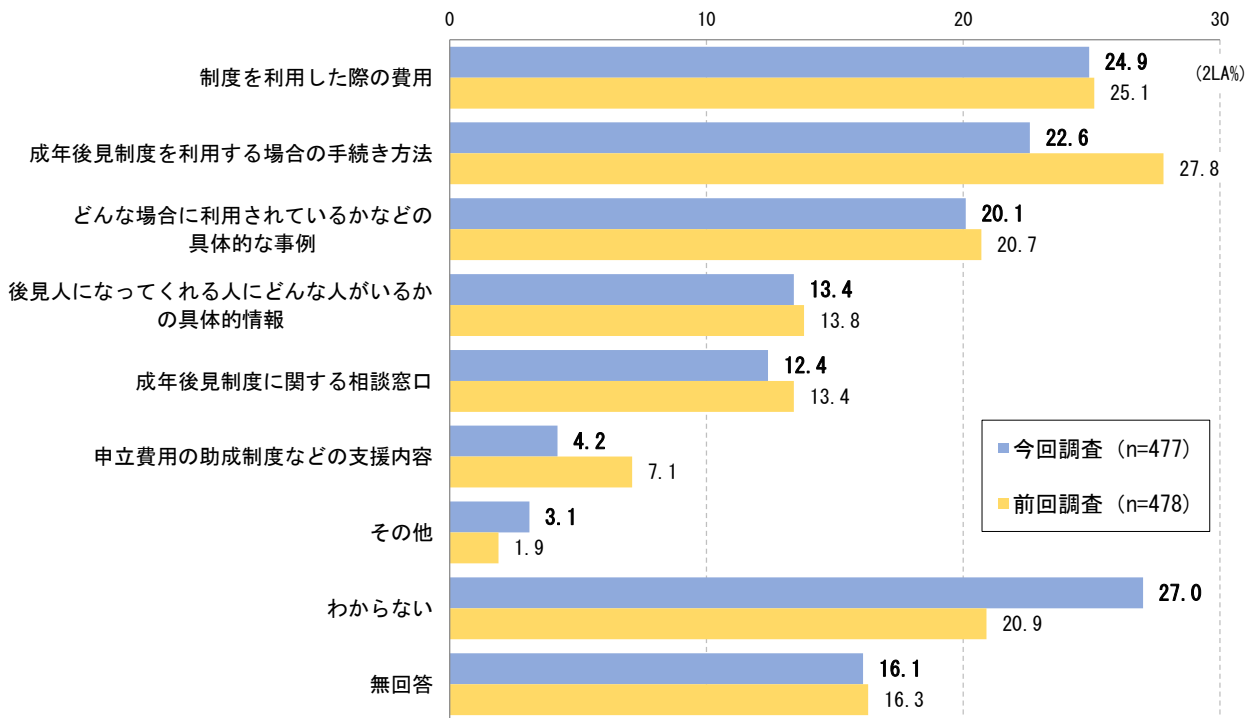
お金の管理や契約が難しい場合の対処方法としては、「家族が代わりに管理や契約を行う」が 53.9%と最も多く、次いで「市役所に相談する」が 16.6%となっている。



(7) 成年後見制度に関する情報の希望

問 52 成年後見制度に関して、どのような情報が提供されればよいと思いますか。(○は2つまで)

成年後見制度に関して、特にどのような情報が提供されればよいと思うかたずねたところ、「制度を利用した際の費用」が24.9%と最も多くなっている。これに続くのが、「成年後見制度を利用する場合の手続き方法」で22.6%となっているものの、前回調査(27.8%)から5.2ポイント減っている。

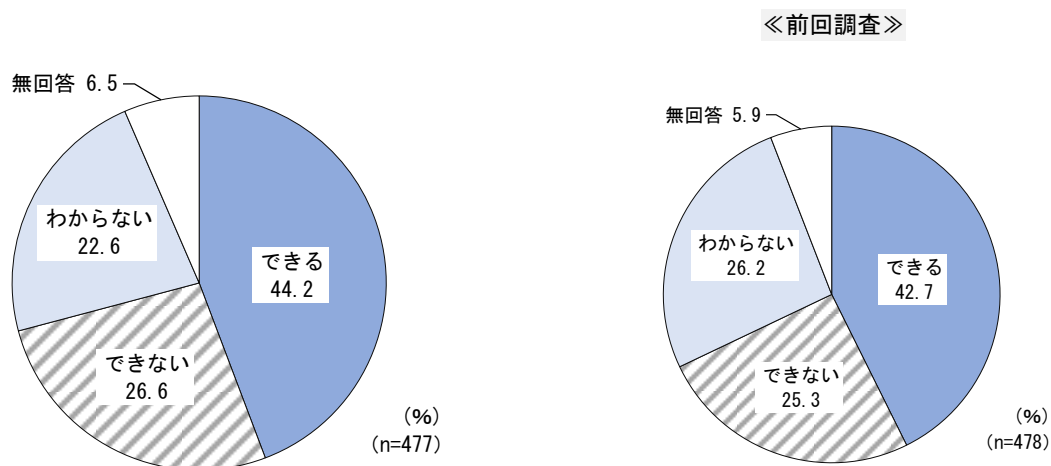


8 災害時の避難などについて

(1) 災害時の避難の可否

問 53 あなたは、火事や地震などの災害時に一人で避難できますか。(○は1つだけ)

火事や地震などの災害時に一人で避難が「できる」が44.2%に対し、「できない」が26.6%となっており、ともに前回調査と同程度となっている。



【障がい種別 災害時の避難の可否】

障がい種別にみると、避難が「できない」が療育で半数近く（47.0%）を占めており、身体では28.9%、精神では11.5%となっている。

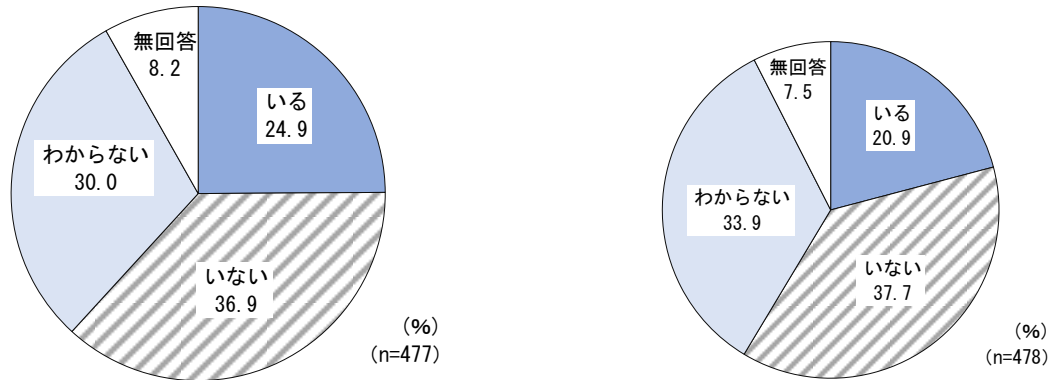
	調査数 (人)	割合 (%)			
		できる	できない	わからない	無回答
身体	239	45.6	28.9	18.4	7.1
療育	151	24.5	47.0	17.9	10.6
精神	148	54.1	11.5	29.1	5.4

(2) 災害時に助けを頼める人の有無

問 54 ご家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。
(○は1つだけ)

災害時に近所に助けを頼める人が「いる」が 24.9%となっており、前回調査 (20.9%) から4ポイント増えている。一方、「いない」は 36.9%と、前回調査 (37.7%) と同程度となっている。

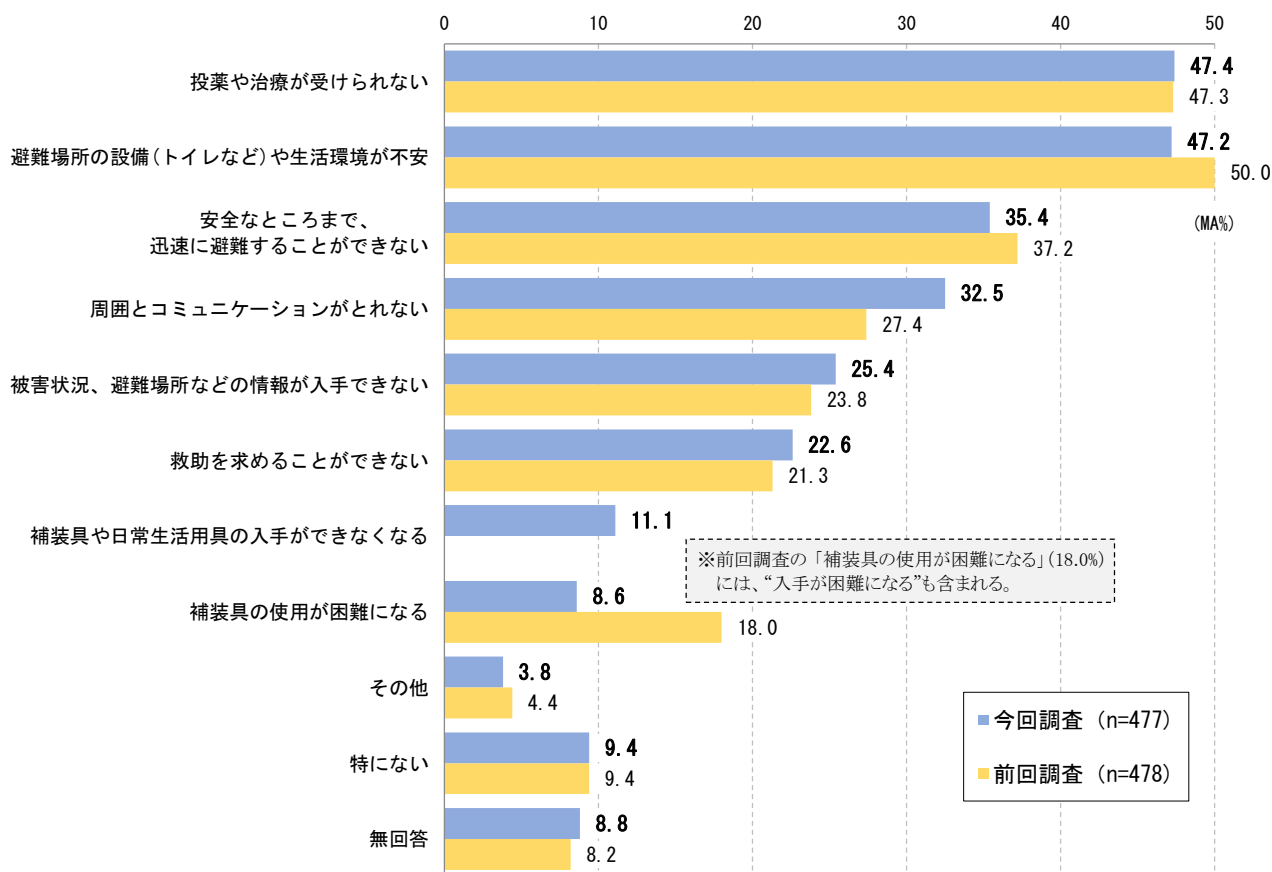
《前回調査》



(3) 災害時に関する困りごと

問 55 火事や地震などの災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

災害時に困ることとしては、「投薬や治療が受けられない」が 47.4%、「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」が 47.2%と多く、次いで、「安全なところまで、迅速に避難することができない」で 35.4%となっている。前回調査と比べると、「周囲とコミュニケーションがとれない」（今回 32.5%、前回 27.4%）が 5.1 ポイント増えている。



【障がい種別 災害時に関する困りごと】

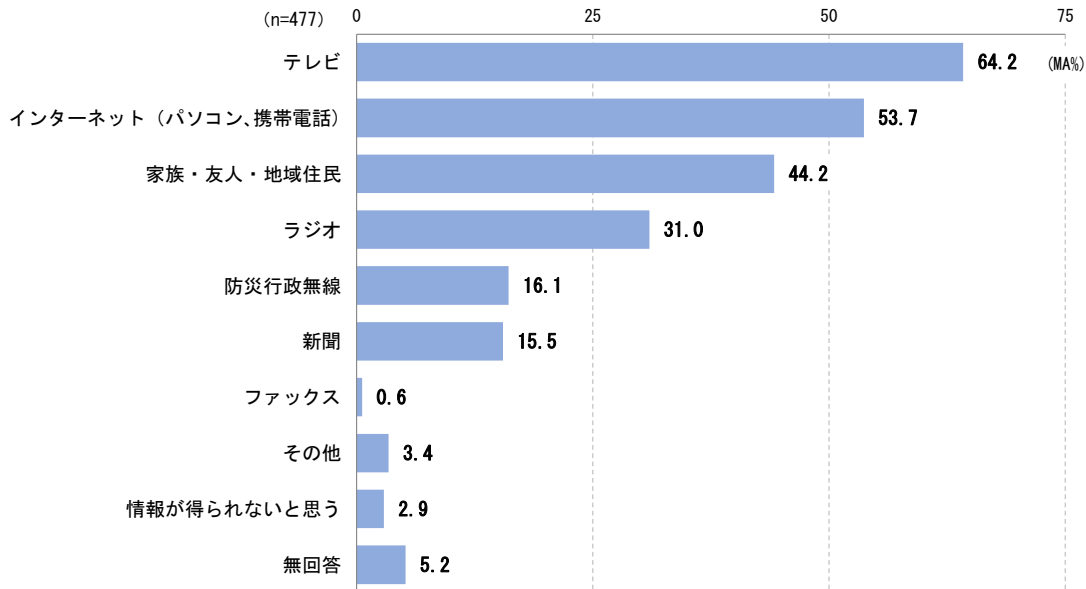
障がい種別にみると、身体では「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」が 50.6%、療育では「周囲とコミュニケーションがとれない」が 57.0%、精神では「投薬や治療が受けられない」が 61.5%と、それぞれ最も多くなっている。

障がい種別	調査数 (人)	(MA%)										
		投薬や治療が受けられない	環境が不安	避難場所の設備(トイレなど)や生活環境	安全なところまで、迅速に避難することができない	周囲とコミュニケーションがとれない	被害状況、情報が避難場所	救助を求めることができない	補装具の入手が日常生活用具	補装具の使用が困難になる	その他	特にない
身体	239	49.0	50.6	40.2	24.3	20.9	18.4	15.5	14.2	2.1	10.0	8.4
療育	151	30.5	45.0	44.4	57.0	37.1	39.7	7.3	8.6	2.6	7.9	13.2
精神	148	61.5	43.2	23.0	28.4	23.6	14.9	6.8	1.4	6.8	8.1	8.1

(4) 災害に関する情報の入手先

問 56 災害が発生したとき、災害の情報を何から得ますか。(あてはまるものすべてに○)

災害が発生したときの情報の入手先としては、「テレビ」が 64.2%と最も多く、次いで「インターネット（パソコン、携帯電話）」が 53.7%、「家族・友人・地域住民」が 44.2%となっている。

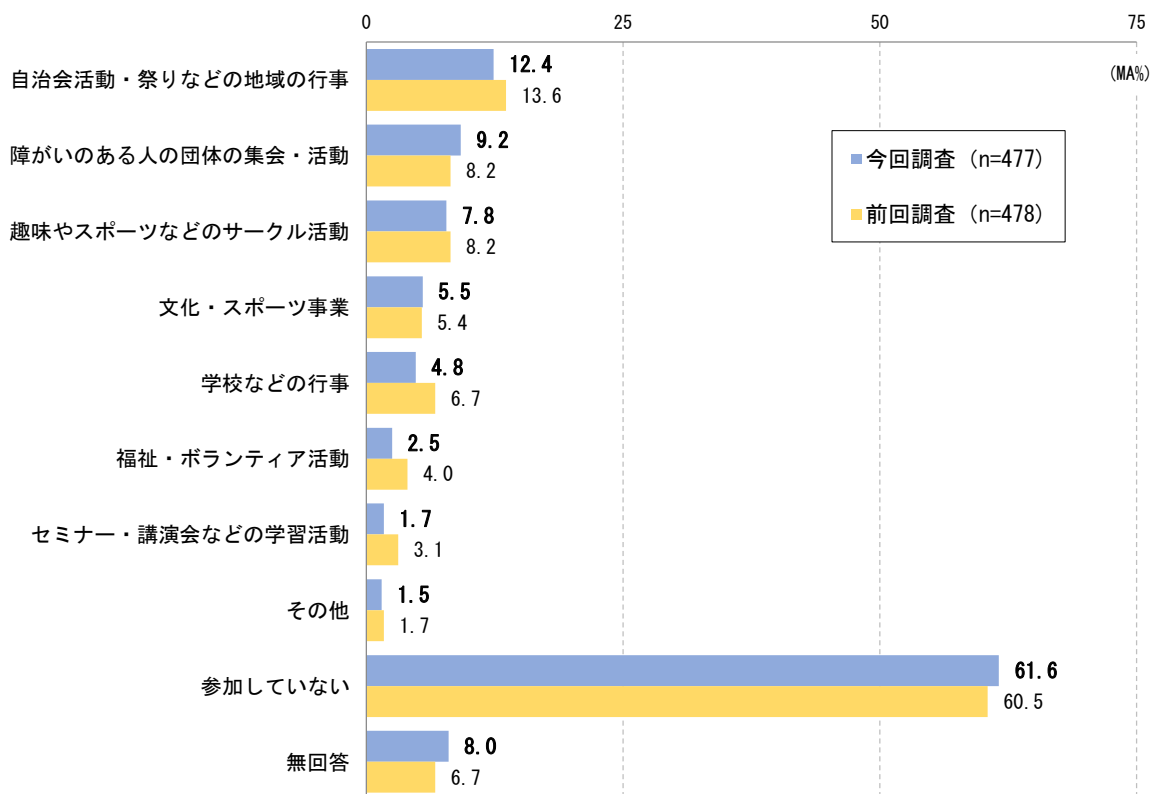


9 地域の活動等について

(1) 地域の行事や活動への参加状況

問 57 最近1年間、あなたは、地域の行事や活動に参加しましたか。(あてはまるものすべてに○)

最近1年間に地域の行事や活動に参加したことがあるという人(「参加していない」「無回答」を除いた人の割合)は、全体の約3割(30.4%)となっており、前回調査(32.8%)から2.4ポイント減っている。具体的に参加した行事・活動としては、「自治会活動・祭りなどの地域の行事」が12.4%、「障がいのある人の団体の集会・活動」が9.2%、「趣味やスポーツなどのサークル活動」が7.8%などとなっている。



【障がい種別 地域の行事や活動への参加状況】

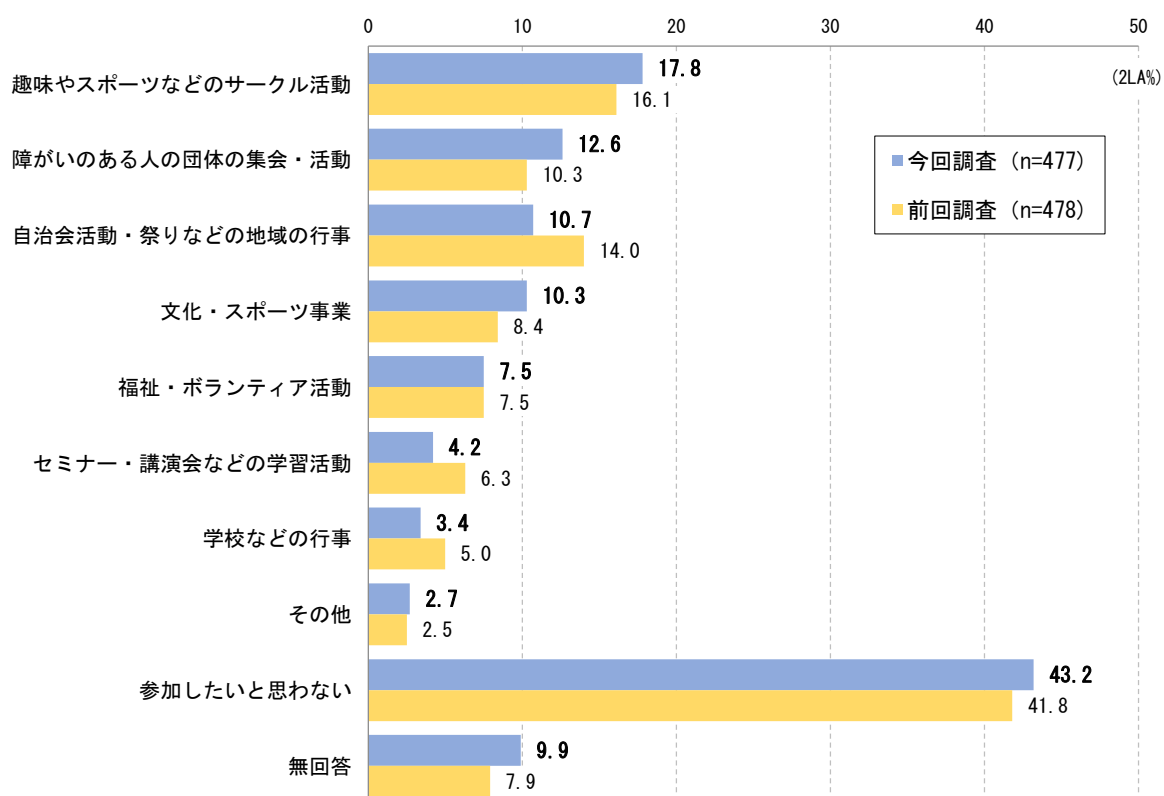
障がい種別にみると、いずれの行事や活動についても療育で最も高い割合となっており、「障がいのある人の団体の集会・活動」で19.2%、「文化・スポーツ事業」で11.3%と、身体・精神に比べて特に高い。

	調査数(人)	(MA%)									
		自治会活動・祭りなどの地域の行事	障がいのある人の団体の集会・活動	趣味やスポーツなどのサークル活動	文化・スポーツ事業	学校などの行事	福祉・ボランティア活動	セミナー・講演会などの学習活動	その他	参加していない	無回答
身体	239	13.8	5.0	7.9	5.0	3.3	1.7	0.8	2.1	62.3	8.4
療育	151	15.9	19.2	9.9	11.3	7.9	2.0	2.0	0.7	48.3	11.3
精神	148	6.8	7.4	4.7	1.4	3.4	2.7	2.7	1.4	70.3	6.1

(2) 今後参加したい地域の行事や活動

問 58 今後、あなたは、どのような行事や活動に参加したいですか。(〇は2つまで)

今後参加したい行事や活動があるという人(「参加したいと思わない」「無回答」を除いた人の割合)は、全体の4割台(46.9%)となっており、前回調査(50.3%)から3.4ポイント減っている。具体的に参加したい行事・活動としては、「趣味やスポーツなどのサークル活動」が17.8%、「障がいのある人の団体の集会・活動」が12.6%などとなっている。

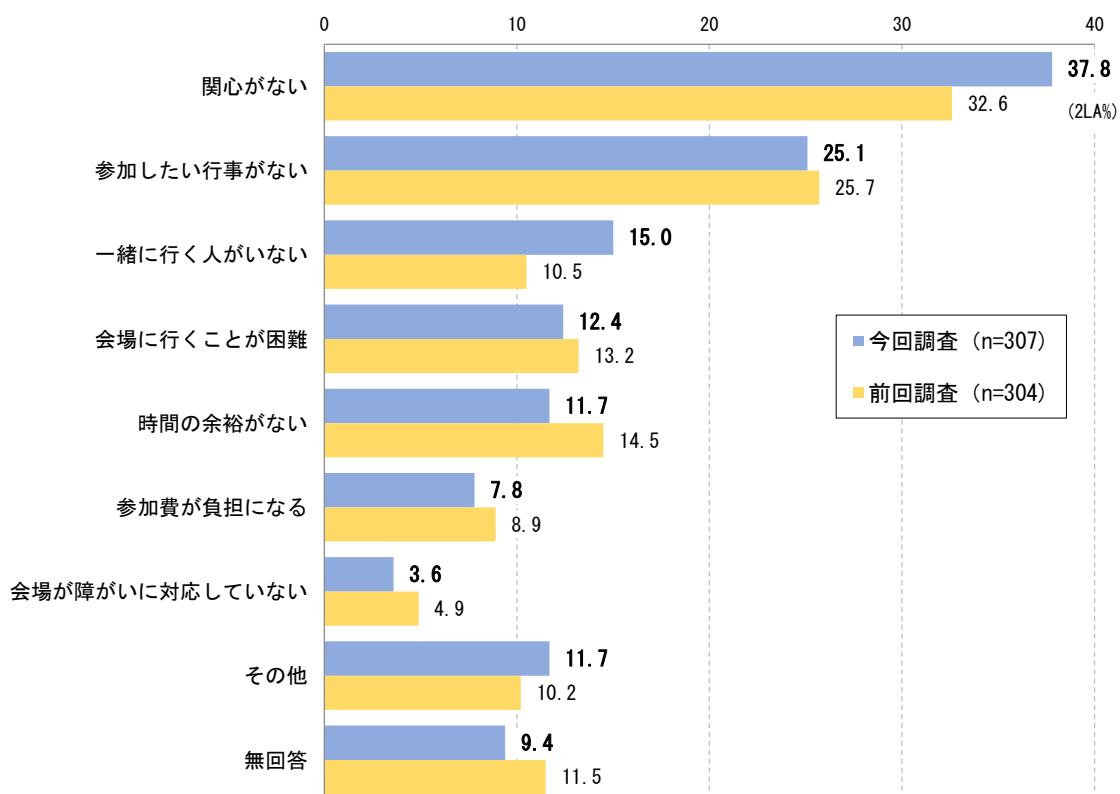


(3) 地域の行事や活動に参加していない（参加したいと思わない）理由

【問 57 で「参加していない」または、問 58 で「参加したいと思わない」と回答の方】

問 59 その理由は何ですか。（○は2つまで）

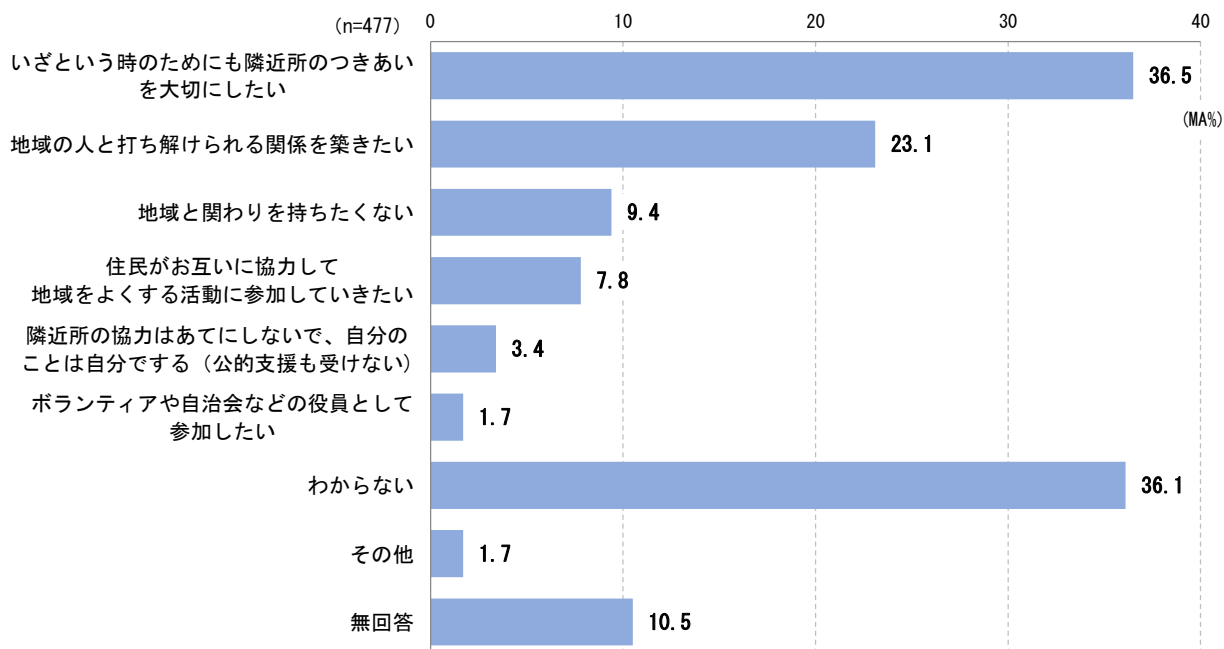
地域の行事や活動に参加していない（今後参加したいと思わない）と回答した人の理由としては、「関心がない」が 37.8%と最も多く、前回調査（32.6%）から 5.2 ポイント増えている。また、「参加したい行事がない」が 25.1%と、次いで多くなっている。



(4) 地域との関わりに対する考え

問 60 あなたは、地域との関わりに対してどのようにお考えですか。(〇は2つまで)

地域との関わりに対する考えとしては、「いざという時のためにも隣近所のつきあいを大切にしたい」が36.5%と最も多く、「地域の人と打ち解けられる関係を築きたい」が23.1%となっている。



【障がい種別 地域との関わりに対する考え】

障がい種別にみると、いずれも「いざという時のためにも隣近所のつきあいを大切にしたい」が多く、身体で40.2%、療育で27.2%、精神で37.8%となっている。また、「地域の人と打ち解けられる関係を築きたい」が精神で29.7%と最も高いものの、「地域と関わりを持ちたくない」についても精神で16.2%と高くなっている。

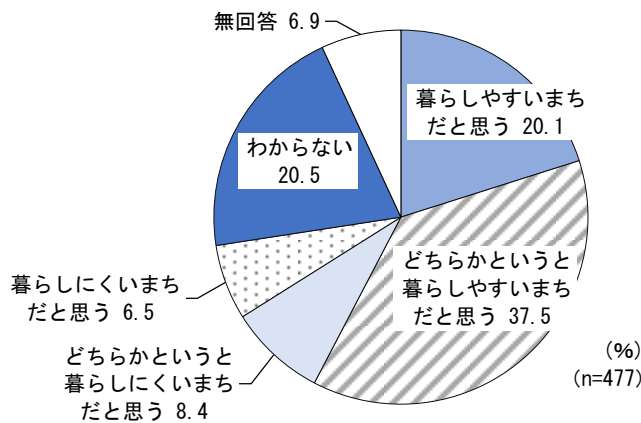
	調査数(人)	いざという時のためにも隣近所のつきあいを大切にしたい	地域の人と打ち解けられる関係を築きたい	地域と関わりを持ちたくない	住民がお互いに協力して地域をよくする活動に参加したい	隣近所の協力はあてにしないで、自分のことは自分でする(公的支援も受けない)	ボランティアや自治会などの役員として参加したい	わからない	その他	無回答
身体	239	40.2	21.8	7.9	10.5	3.8	2.5	31.4	1.7	10.5
療育	151	27.2	19.9	5.3	7.9	0.7	2.0	44.4	1.3	15.9
精神	148	37.8	29.7	16.2	6.1	4.1	2.0	33.1	2.0	6.1

10 福祉全般について

(1) 阪南市の暮らしやすさ

問 61 阪南市は暮らしやすいまちだと思いますか。(○は1つだけ)

阪南市は暮らしやすいまちと思うかたずねたところ、暮らしやすいまちという割合（「暮らしやすいまちだと思う」「どちらかという暮らしやすいまちだと思う」の計）が6割近く（57.7%）を占めており、暮らしにくいという割合（「どちらかという暮らしにくいまちだと思う」「暮らしにくいまちだと思う」の計）は1割台（14.9%）みられる。



【障がい種別 阪南市の暮らしやすさ】

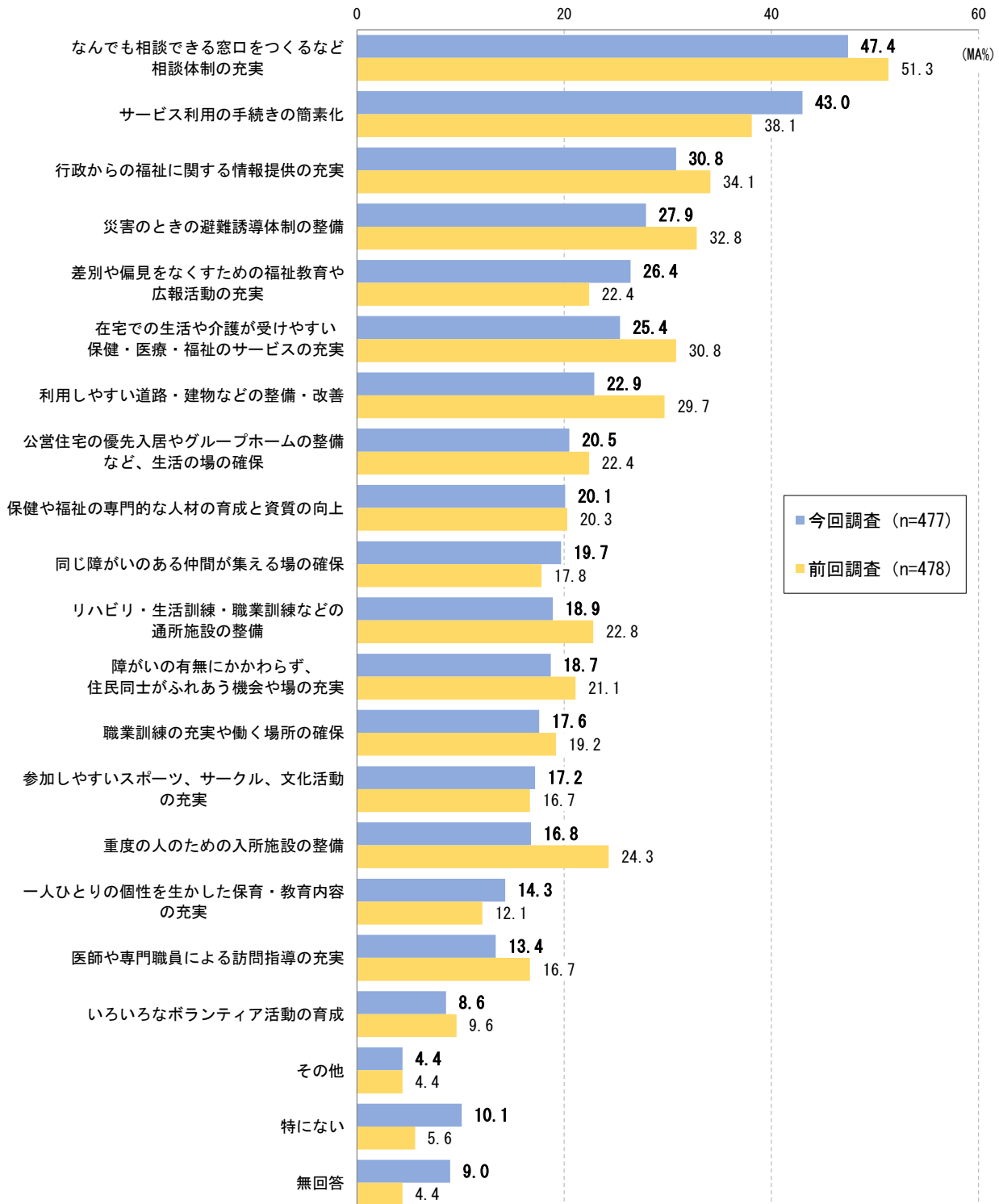
障がい種別にみると、暮らしやすいまちという割合が、精神で62.1%と最も高く、次いで身体で59.8%、療育で57.6%となっている。一方、暮らしにくいという割合についても、精神で15.5%（身体13.8%、療育7.9%）と最も高い。

	調査数 (人)	(%)					
		暮らしやすいまちだと思う	どちらかという暮らしやすいまちだと思う	どちらかという暮らしにくいまちだと思う	暮らしにくいまちだと思う	わからない	無回答
身体	239	19.2	40.6	7.9	5.9	19.2	7.1
療育	151	19.2	38.4	5.3	2.6	25.2	9.3
精神	148	24.3	37.8	7.4	8.1	17.6	4.7

(2) 暮らしやすいまちづくりのために必要なこと

問 62 障がいのある人にとって暮らしやすいまちづくりのために必要なことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

障がいのある人にとって暮らしやすいまちづくりのために必要なこととしては、「なんでも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」が 47.4%と最も多くなっている。また、これに続くのが、「サービス利用の手続きの簡素化」で 43.0%となっており、前回調査 (38.1%) から 4.9 ポイント増えている。



【障がい種別 暮らしやすいまちづくりのために必要なこと】

障がい種別にみると、「なんでも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」が精神で 52.0%、「サービス利用の手続きの簡素化」が身体で 44.4%と、それぞれ最も高くなっている。また、療育において「災害のときの避難誘導體制の整備」が 35.1%、「保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上」が 28.5%、「重度の人のための入所施設の整備」が 27.2%、精神において「職業訓練の充実や働く場所の確保」が 24.3%と、それぞれ他の障がいに比べて特に高い割合となっている。

(MA%)

	調査数（人）	なんでも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実	サービス利用の手続きの簡素化	行政からの福祉に関する情報提供の充実	災害のときの避難誘導體制の整備	差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実	在宅での生活や介護が受けやすい保健医療・福祉の充実	利用しやすい道路・建物などの整備・改善	生活の場の確保	公営住宅の優先入居やグ	保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上	同じ場がある仲間が集まる場の確保
身体	239	43.9	44.4	30.1	26.8	22.2	25.5	27.6	15.1	16.3	16.3	16.3
療育	151	45.0	41.7	28.5	35.1	28.5	28.5	21.2	25.8	28.5	21.2	21.2
精神	148	52.0	38.5	29.1	23.0	27.7	29.1	16.9	27.7	19.6	20.9	20.9

	訓練などの通所施設・職業訓練の整備	障害者の有無にかかわらず、あわら	職業訓練の充実や働く場所の確保	参加しやすい文化活動の充実	重度の人のための入所施設の整備	一人ひとりの個性を生かした保育・教育内容の充実	医師や専門職員による訪問指導の充実	いろいろなボランティア活動	その他	特にな	無回答
身体	17.6	15.1	14.6	15.1	15.9	10.5	12.1	7.5	3.8	10.5	7.1
療育	20.5	19.2	15.9	19.9	27.2	17.2	12.6	7.9	4.6	11.3	13.2
精神	19.6	21.6	24.3	16.9	12.8	14.9	15.5	9.5	6.8	9.5	6.1

11 自由意見

(1) 災害時に大変だったことや困った状況など

■近年の地震や台風、水害の際に、あなたやご家族が大変だったこと、困った状況などがあれば具体的にお聞かせください。

主な意見
1人なので何もできない。助けてもらえる人もいない。
どんなに強い台風でも透析には行かないといけないので、不要不急の外出というのがない。
自分に障がいがあるため、家族の避難に遅れが生じる。
人とのコミュニケーションが難しいので、福祉施設等の障がい者用の避難所の確保をしてほしい。また、一般の避難所の場合は障がい者枠を設けてほしい。
台風で停電になった時、まっ暗でテレビも映らず。こういう状況がいつまで続くのか全く見通しがたたない時などパニックになり自分をコントロールするのが困難で大変だった。
避難所に行く手段がなかった。行っても環境が整っていないと考え、行けなかった。
(台風の時) 停電で8日間電気が止まった。障害のある人を優先して工事に来てほしかった。
グループホームで停電になり、ご飯の用意ができず空腹だった。灯りがなく暗くて不安だった。
足が悪いため、水害があった時は怖い。

(2) 新型コロナウイルス感染症により大変だったことや困った状況など

■新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、あなたやご家族が大変だったこと、困った状況などがあれば具体的にお聞かせください。

主な意見
マスクが無かった。リスクが高いのに出歩けない。優先して配布してほしい。
障がい者が感染した場合、入院等はどのような状況になるのか知りたい。
基礎疾患を持っているので、感染したらすぐに重症患者として診てほしい。
作業所やデイケアが休みになったり、日数削減や時間短縮で不安なうえ、不要不急の移動はできるだけ控えるよう指導があり、少々ストレスを感じている。
新型コロナウイルスの影響で、入所施設から自宅に帰ることになってしまった。
障がい者本人や家族が感染した場合、まず第一に相談する窓口があると安心する。
デイサービスが休みになったことで、家にとじこもるようになり、病状が悪化した。
通所施設が受け入れ時間を制限するようになり、自宅での介助が必要となった。全介助が必要だが、家族がしてあげられることにも限界があり、とにかく大変だった。
コロナウイルス対策で、家族との面会や外泊、外出が制限され、寂しさを感じる。
感染が怖くてグループホームから一歩も外に出なくなった。コンビニさえ行けなくなった。
就労移行支援事業所へ通所できないこと。
ホームヘルプサービスの利用を考えていたが、感染の心配から、現在も受けられていないこと。

(3) 障がい福祉サービスや行政の取組についての意見

■障がい福祉サービスや行政の取組について、何かご意見がありましたらお聞かせください。

主な意見
行政のサービスや取組についてあまり把握できていないというのが現状。どのようなものがあるのか、わかりやすく情報発信していただくと大変ありがたい。
市内にハローワーク出張所のようなものがあれば便利だと思う。(職業訓練の場所としても)
心身障がい両方ある人の総合的な障がい等級制度の整備。入院が必要な時の支援。障がい年金の必要な人について、住環境も含めた判断をしてほしい。
市役所に出向いて行かなければならないので、家まで来てもらえる体制を充実してほしい。
地域への移行先を一緒に探してほしい。
子どもが重度障がい者だが、親も年を取り障がいも少しあるため、行事に参加する事ができず孤立状態となっている。
(精神障害者手帳所持者に対し)市のコミュニティバスの乗車証のみでは、公共交通機関の利用制度としては不十分。他の障害者手帳並みの割引制度がないと生活苦が改善されない。
自分自身がどういった行政サービスを受けられるか(申請方法など)の情報がほしい。
住宅関連をもっと充実させてほしい。例えば、他市ではグループホームのほかに一人暮らし用の福祉サービス付き住宅(賃貸マンション)事業を行っているところもある。
障がい者の集まる機会をもっと設けてほしい。
意思疎通が困難な方へのサービス情報提供手段を更に拡充してほしい。
行政に対して日頃から相談したいことがあるが、仕事もあり時間がとれない。もっと簡単に相談できる方法、または聞き取りなどをしてほしい。
夜間や休日の対応の充実
先日ヘルプマークを市役所に受け取りに行ったが、このマークをつけた人に会ったことがない。なんのためのマークか知らない人だらけだと思う。せっかく作ったのであれば、もっと周知・活用してほしい。
色々な障がいの手続きをするのが毎年だったり、他に行ってくれる人がいなければ自分が市役所まで出向かないと申請できないことが多すぎる。郵送やインターネットでの手続きができるようになれば大分楽になる。
重度の人だけではなく、軽度の人もう少しいろいろなサービスが受けられるような環境をもっと作ってほしい。
半年に1度くらいは行政から状況を聞きに来てほしい。つながりがなくなり相談などしにくくなる気がする。
障害年金を申請しているが、3か月以上かかると通知が来たまま、いつになるのか目途が立っていない。
市役所や行政機関等における、本人や家族が気楽に意見を言える投書箱の設置(増設)

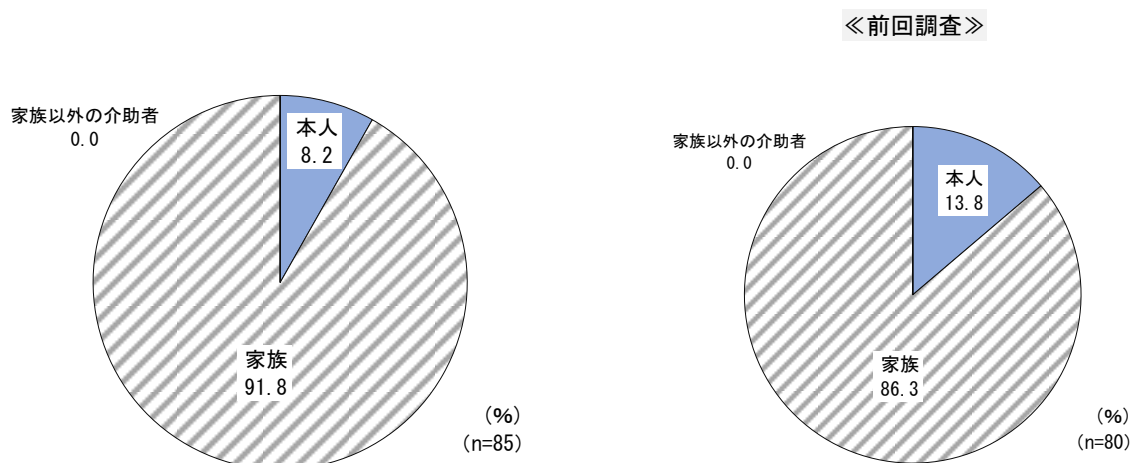
Ⅱ-2 障がい児調査

1 対象者及び家族の状況について

(1) 回答者

問1 お答えいただくのは、どなたですか。(○は1つだけ)

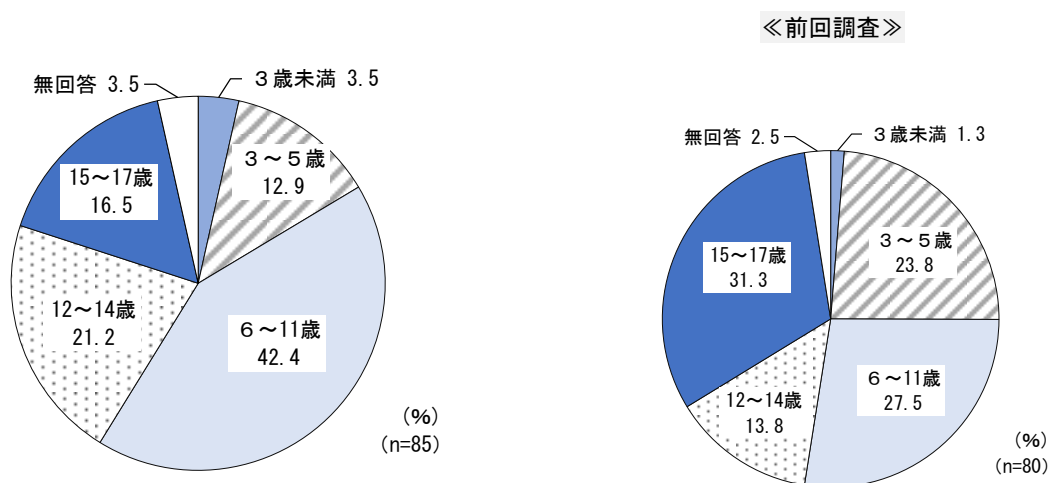
回答者としては、「家族」が9割台(91.8%)を占めている。



(2) 年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。(令和2年7月1日現在)

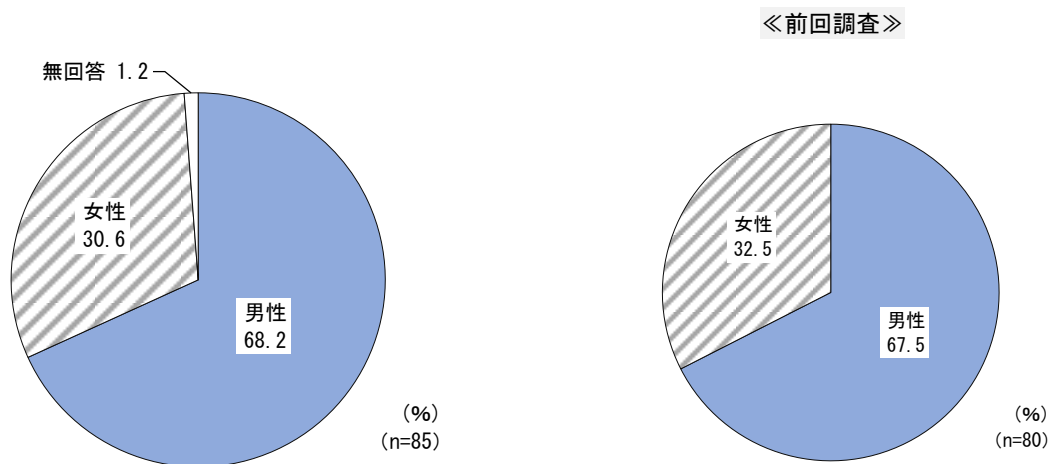
対象者の年齢は、「6～11歳」が4割台(42.4%)を占めており、次いで「12～14歳」が21.2%となっている。



(3) 性別

問3 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

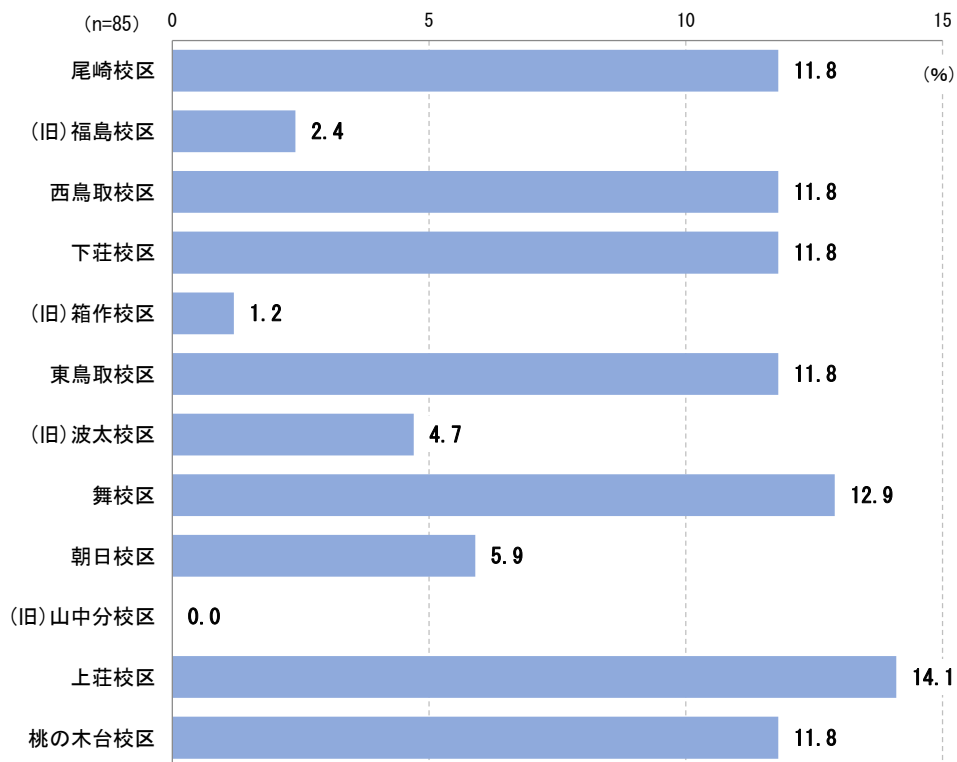
対象者の性別は、「男性」が68.2%に対し、「女性」が30.6%となっている。



(4) 居住地域 (小学校区)

問4 あなたがお住まいの地域 (小学校区) はどこですか。(○は1つだけ)

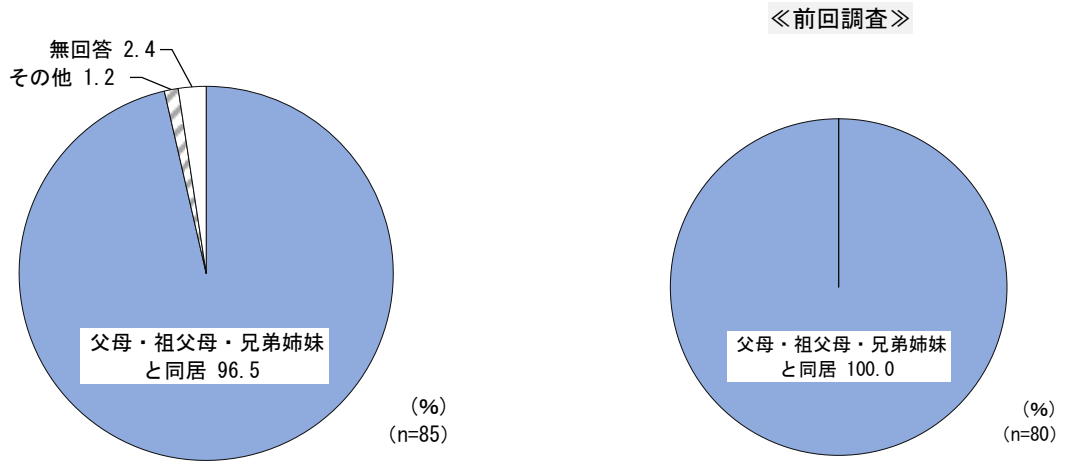
居住地域 (小学校区) としては、「上荘校区」が14.1%と最も多く、次いで「舞校区」が12.9%となっている。



(5) 現在の暮らし方

問5 現在、あなたはどのように暮らしていますか。(○は1つだけ)

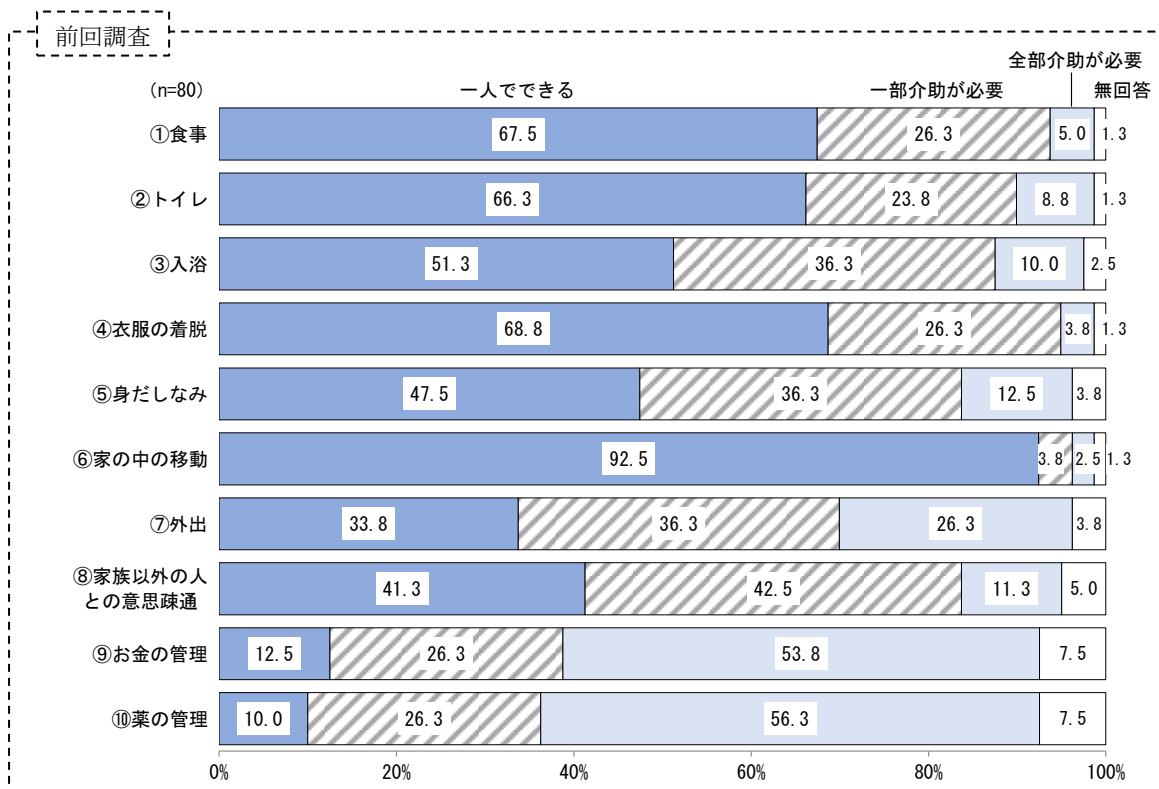
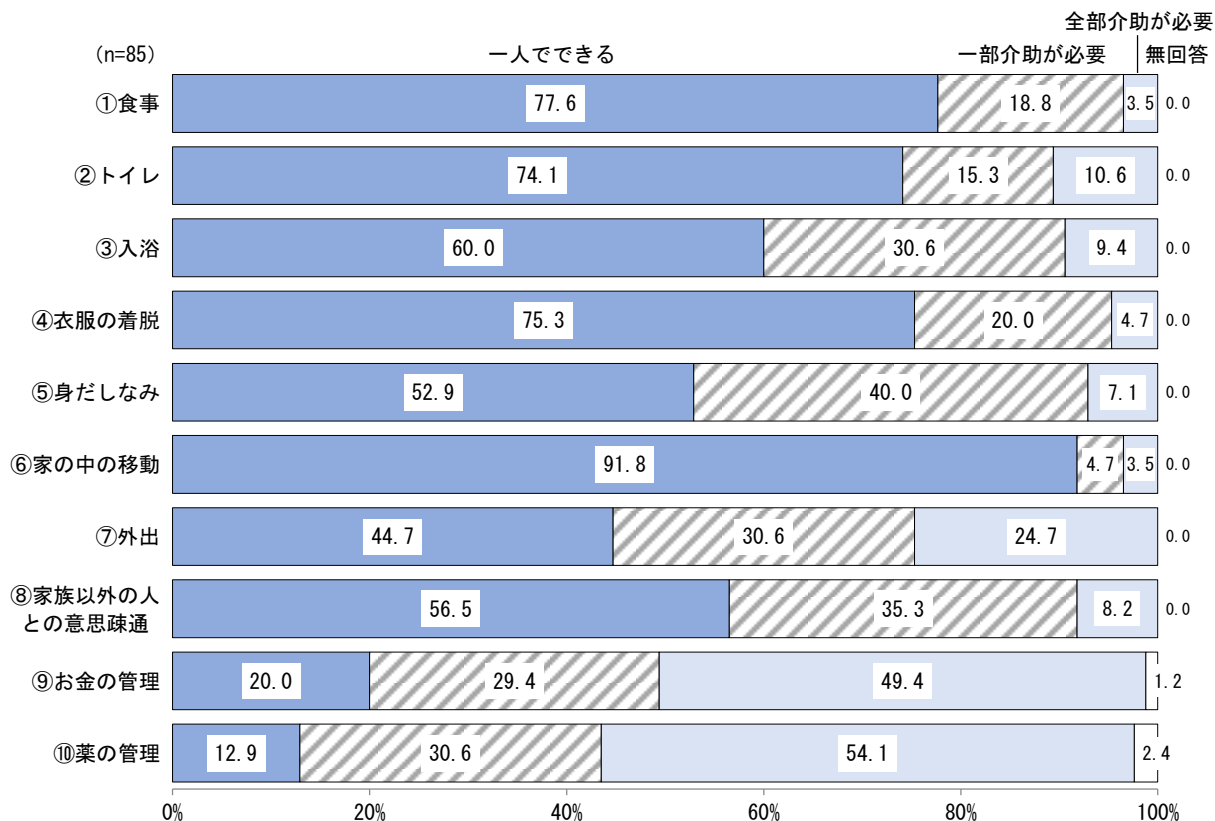
現在の暮らし方としては、「父母・祖父母・兄弟姉妹と同居」が9割台(96.5%)を占めている。



(6) 日常生活における介助の必要性

問6 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。(①から⑩それぞれに○を1つ)

日常生活における介助の必要性について、10項目についてたずねたところ、介助が必要という割合(「一部介助が必要」「全部介助が必要」)が、「⑩薬の管理」で84.7%と最も高く、次いで「⑨お金の管理」で78.8%、「⑦外出」で55.3%となっており、前回調査と同じ傾向である。

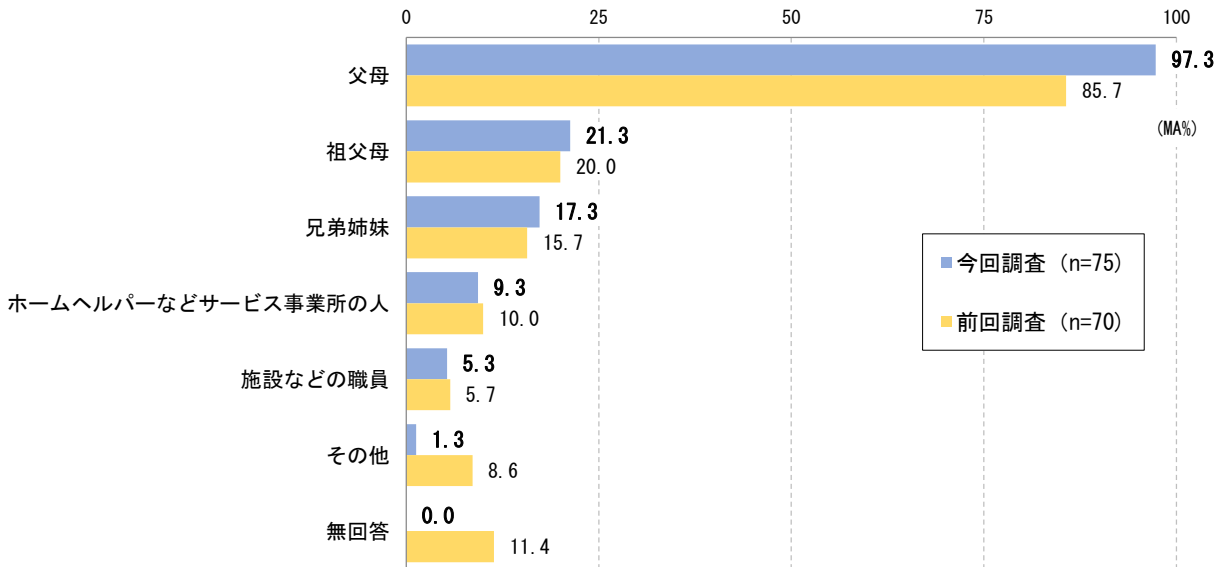


(7) 介助者

【問 6①～⑩のいずれかで「一部介助が必要」又は「全部介助が必要」と回答の方】

問 6-1 あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

日常生活において介助が必要という対象者の具体的な介助者としては、「父母」が 97.3%と最も多く、前回調査 (85.7%) から 11.6 ポイント増えている。



(8) 主な介助者の属性

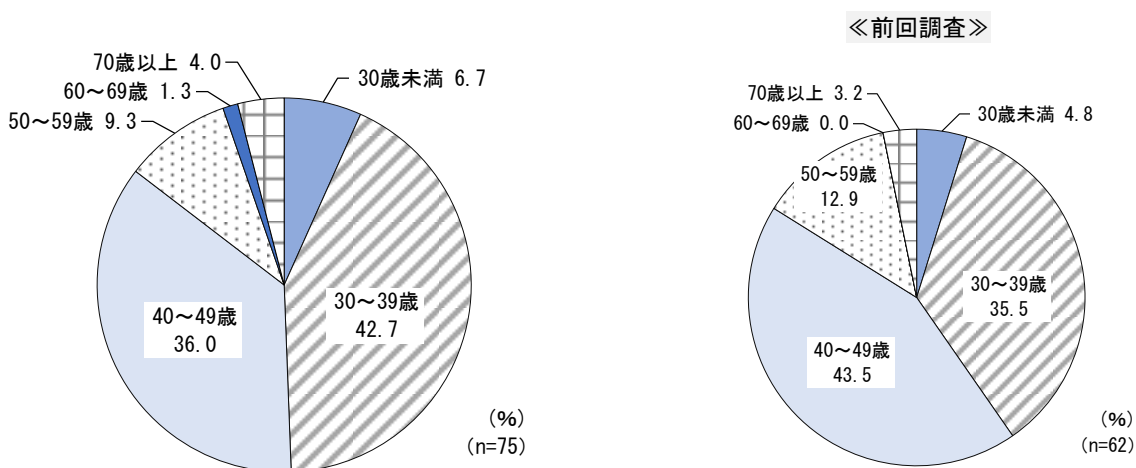
① 主な介助者の年齢

【問 6-1 で「父母」「祖父母」「兄弟姉妹」のいずれかと回答の方】

問 6-2 あなたを介助してくれるご家族で、特に中心となっている方の年齢、性別、健康状態をお答えください。

① 年齢（令和 2 年 7 月 1 日現在）

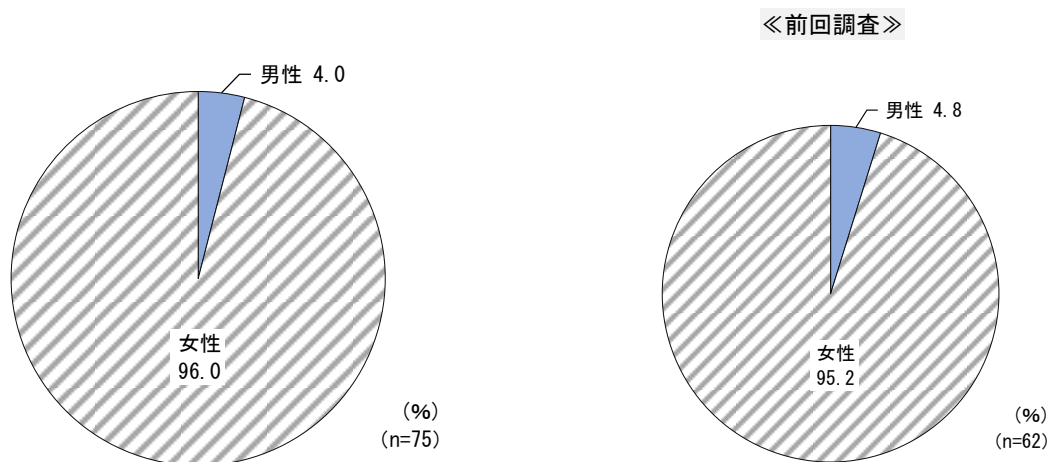
（日常生活において家族からの介助を受けている場合）中心となって介助している家族の年齢としては、30～39 歳が 42.7%と最も多くなっている。また、「30 歳未満」（6.7%）を合わせると、40 歳未満が約半数（49.4%）を占め、前回調査（40.3%）から 9.1 ポイント増えている。



② 主な介助者の性別

② 性別（○は 1 つだけ）

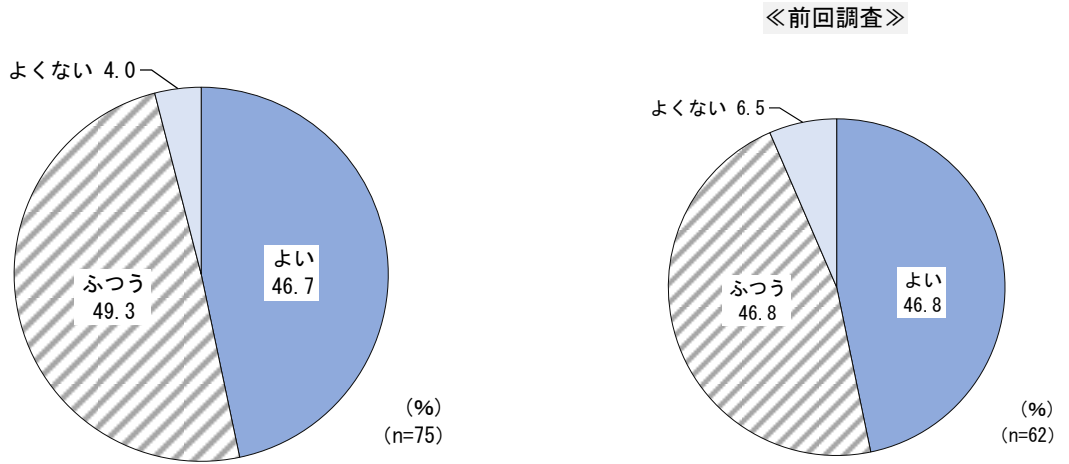
主な介助者（家族）の性別としては、「男性」が 4.0%に対し、「女性」が 96.0%となっており、前回調査と同様に女性がほとんどを占めている。



③主な介助者の健康状態

③健康状態（○は1つだけ）

主な介助者（家族）の健康状態としては、「ふつう」が49.3%、「よい」が46.7%となっている。一方、「よくない」は4.0%となっており、前回調査（6.5%）から2.5ポイント減っている。



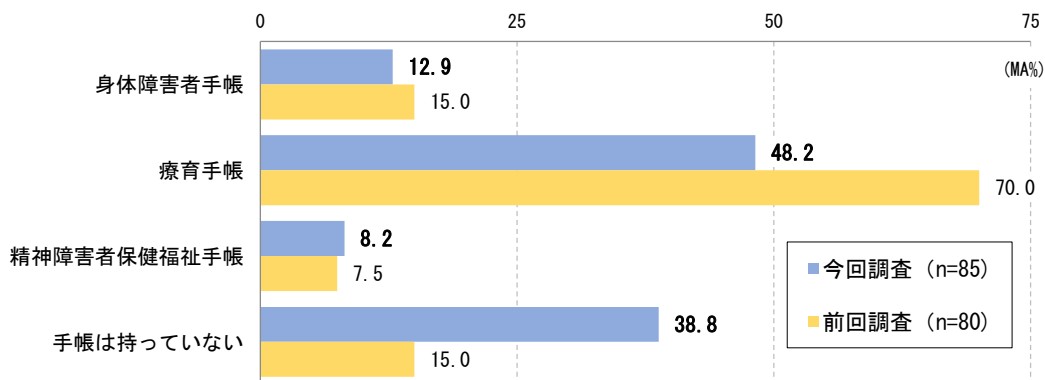
2 障がいの状況について

(1) 障害者手帳の所持状況

①障害者手帳の種類

問7 「あなた」の持っている手帳の種類、等級をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

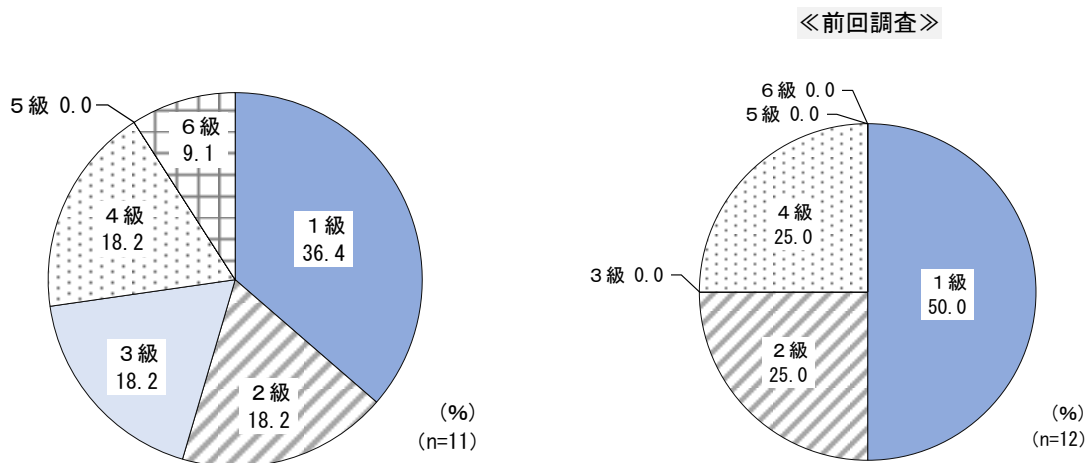
障害者手帳の種類としては、「療育手帳」が48.2%と最も多く、「手帳は持っていない」が38.8%と続いている。



②障害者手帳の等級

<身体障害者手帳>

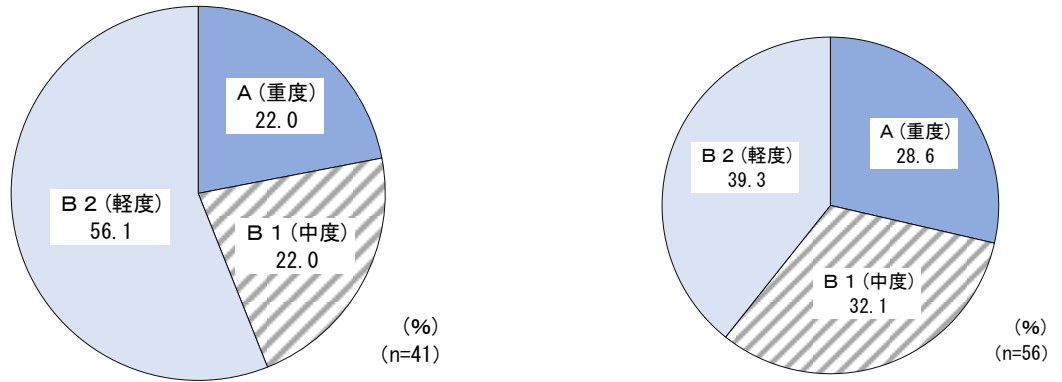
身体障害者手帳を所持している人(11人)では、「1級」が36.4%(4人)などとなっている。



<療育手帳>

療育手帳を所持している人では、「B 2（軽度）」が半数以上（56.1%）を占めている。

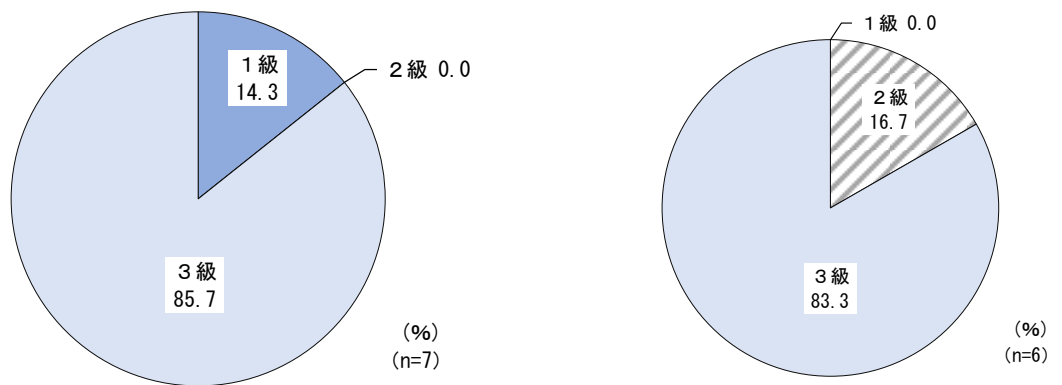
<<前回調査>>



<精神障害者保健福祉手帳>

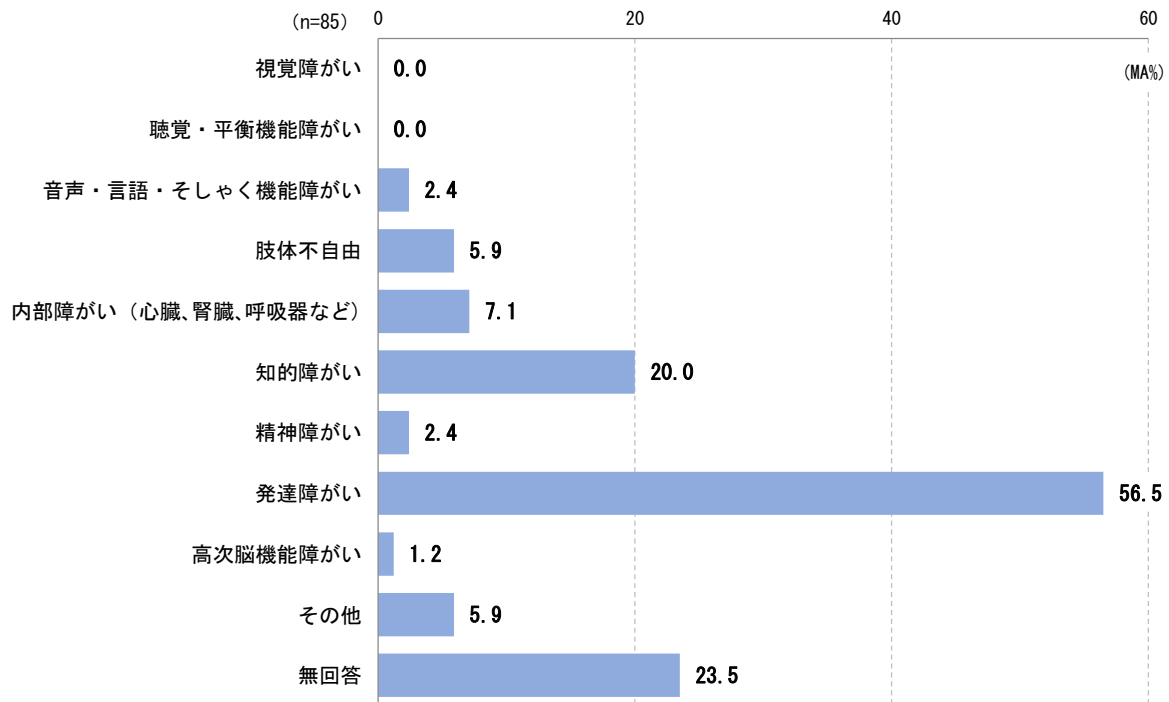
精神障害者保健福祉手帳を所持している人（7人）では、「3級」が85.7%（6人）となっている。

<<前回調査>>



③障がい種別

障がい種別としては、「発達障がい」が56.5%と最も多く、次いで「知的障がい」が20.0%、「内部障がい（心臓、腎臓、呼吸器など）」が7.1%となっている。

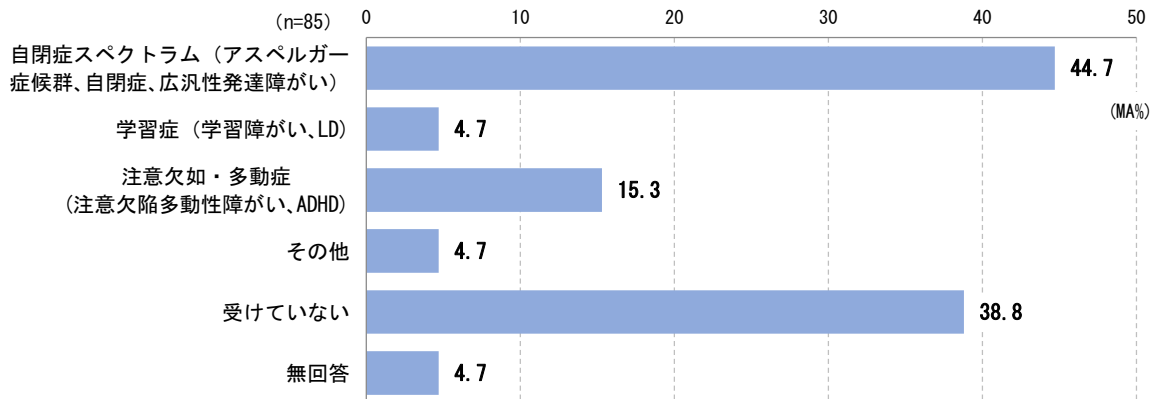


(2) 発達障がいの診断状況

① 発達障がいの診断有無

問8 「発達障がい」の診断を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

発達障がいの診断を受けている人(「受けていない」「無回答」を除いた人の割合)は、全体の5割台(56.5%)となっており、診断分類としては、「自閉症スペクトラム(アスペルガー症候群、自閉症、広汎性発達障がい)」が44.7%と多い。

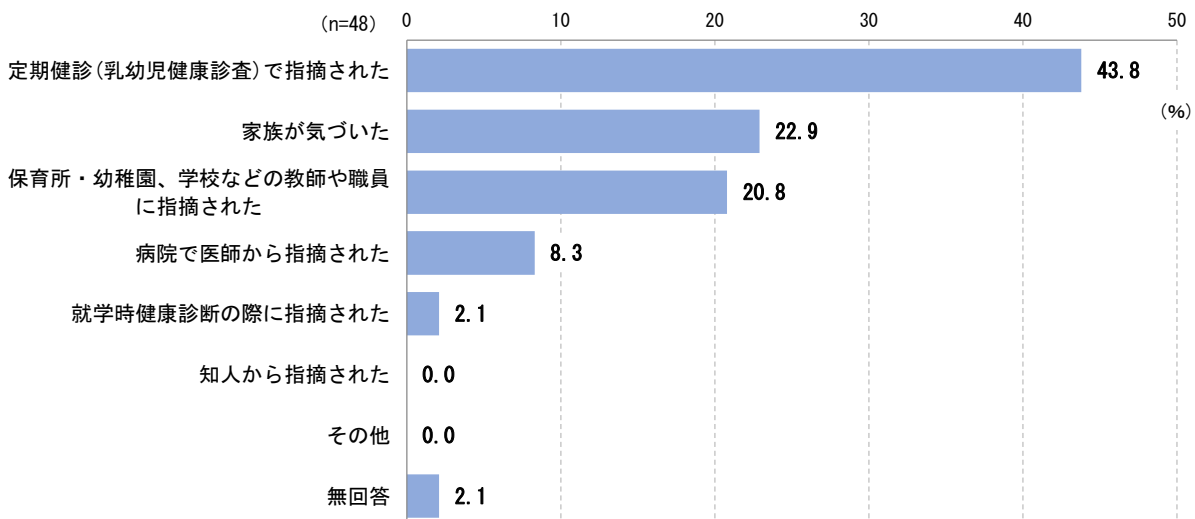


② 発達障がいに気づいたきっかけ

【問8で「自閉症スペクトラム」～「その他」のいずれかと回答の方】

問8-1 発達障がいに気づいたきっかけは何ですか。(○は1つだけ)

診断を受けている人の発達障がいに気づいたきっかけとしては、「定期健診(乳幼児健康診査)で指摘された」が43.8%と最も多くなっている。

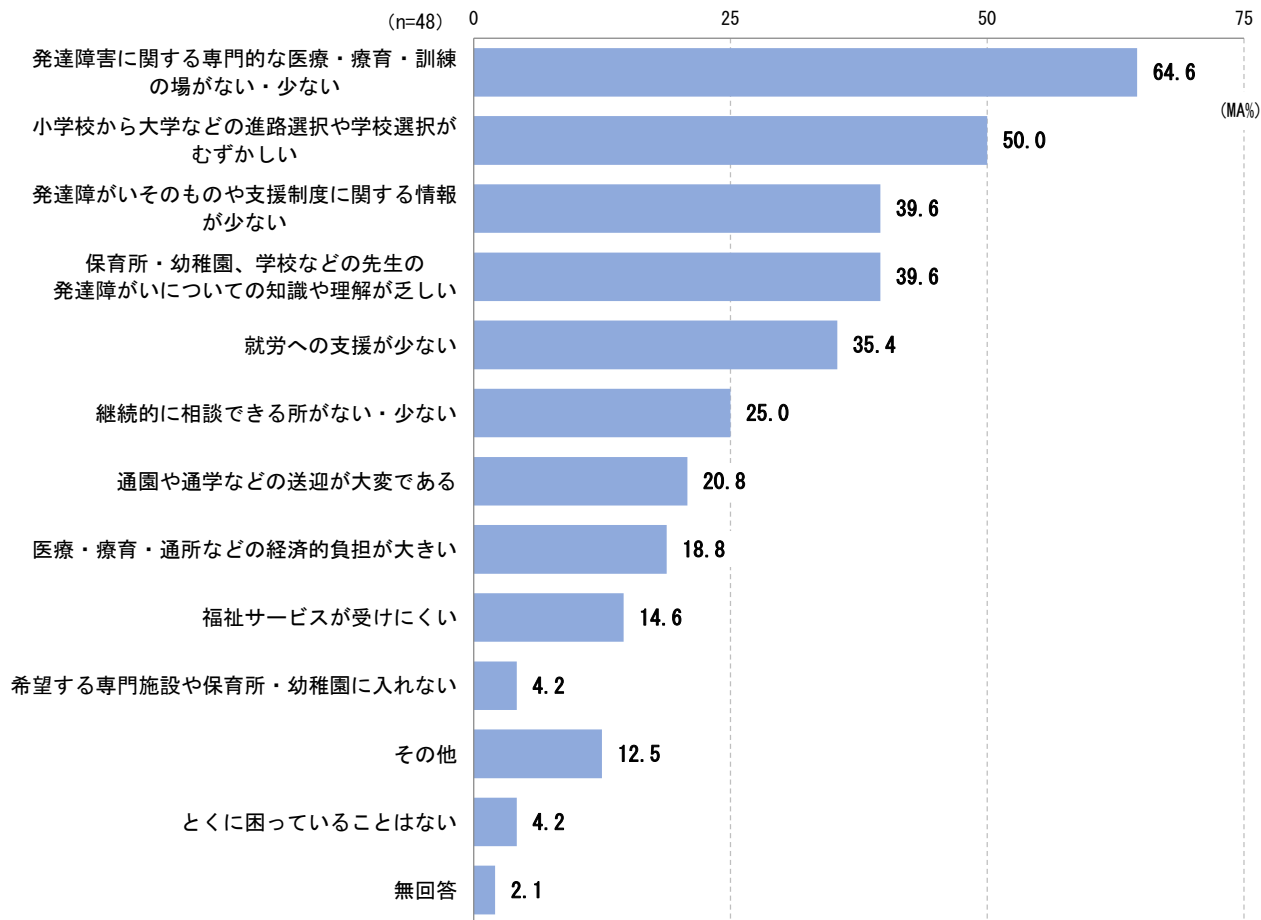


③発達障がいに関する困りごと

【問8で「自閉症スペクトラム」～「その他」のいずれかと回答の方】

問8-2 発達障がいに関して困っていることはありますか(ありましたか)。(あてはまるものすべてに○)

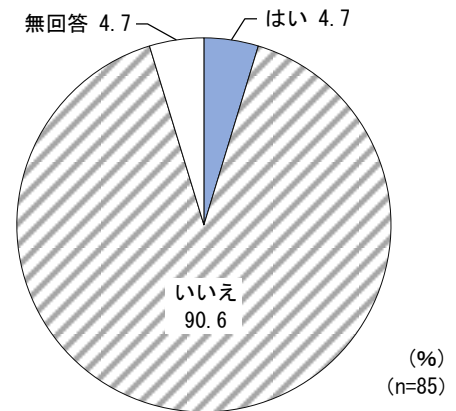
発達障がいの診断を受けている人が困っていることとしては、「発達障害に関する専門的な医療・療育・訓練の場がない・少ない」が64.6%と最も多く、次いで「小学校から大学などの進路選択や学校選択がむずかしい」が50.0%、「発達障がいそのものや支援制度に関する情報が少ない」、「保育所・幼稚園、学校などの先生の発達障がいについての知識や理解が乏しい」がともに39.6%となっている。



(3) 特定疾患医療受給者証の所持有無

問9 「特定疾患医療受給者証」をお持ちですか。(○は1つだけ)

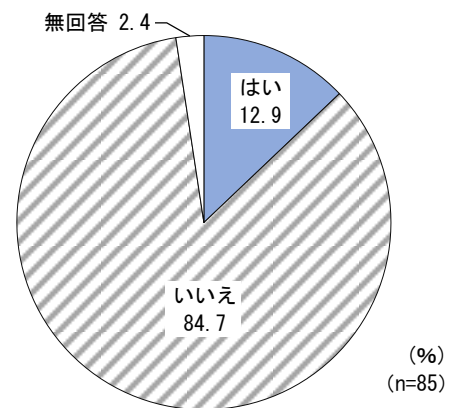
特定疾患医療受給者証を持っている人(「はい」)は、全体の4.7%となっている。



(4) 小児慢性特定疾病医療受給者証の所持有無

問10 「小児慢性特定疾病医療受給者証」をお持ちですか。(○は1つだけ)

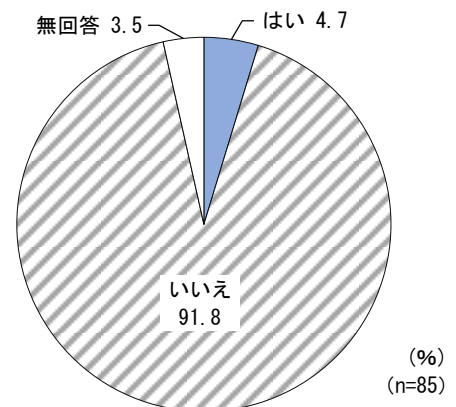
小児慢性特定疾病医療受給者証を持っている人(「はい」)は、全体の1割台(12.9%)となっている。



(5) 自立支援医療(精神通院医療)制度の利用有無

問11 「自立支援医療(精神通院医療)制度」を利用していますか。(○は1つだけ)

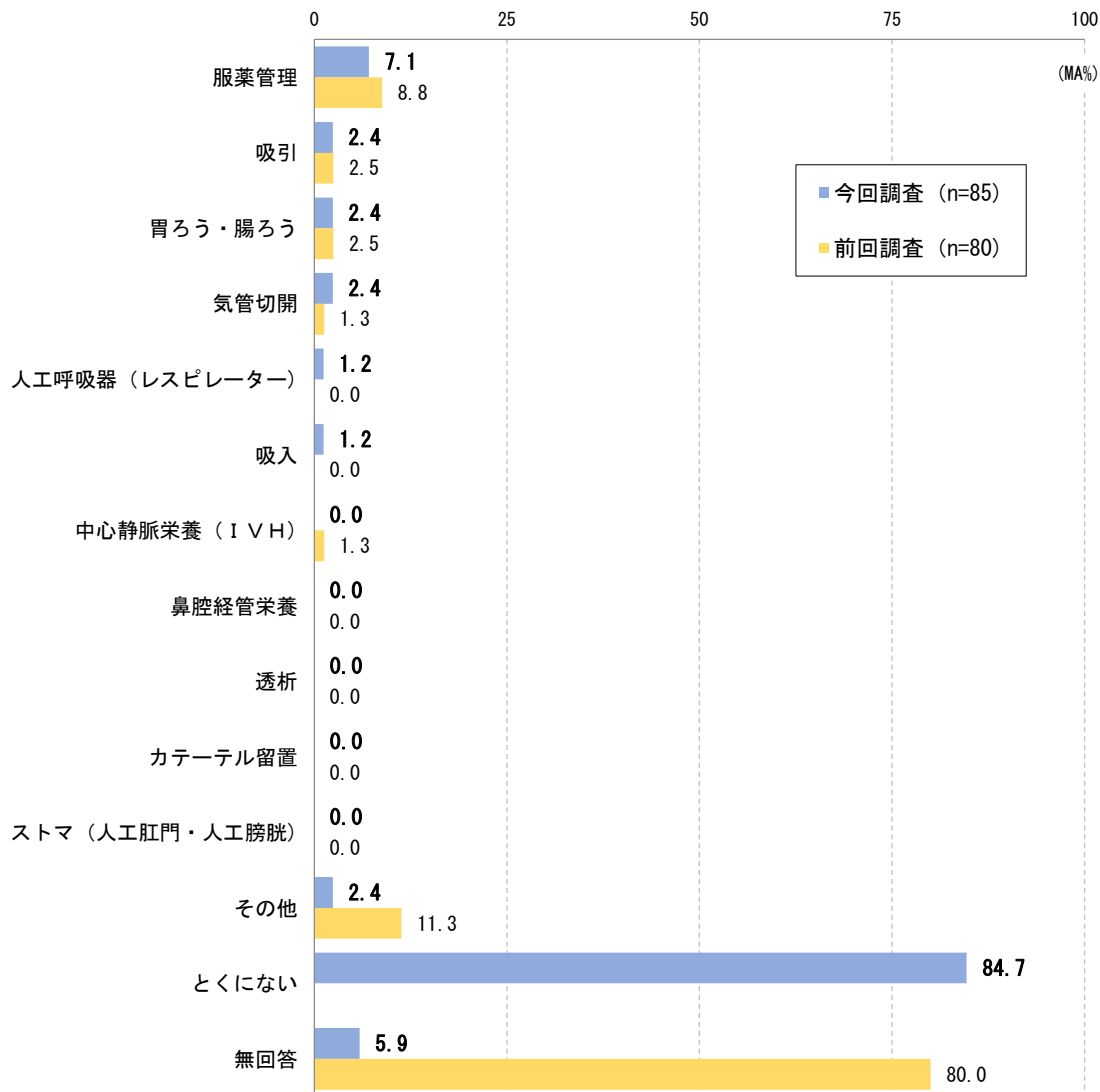
自立支援医療(精神通院医療)制度を持っている人(「はい」)は、全体の4.7%となっている。



(6) 医療的ケアの状況

問 12 あなたが現在受けている医療的ケアをご回答ください。(あてはまるものすべてに○)

いずれかの医療的ケアを受けている人(「とくにない」「無回答」を除いた人の割合)は、全体の1割程度(9.4%)となっており、具体的には、「服薬管理」が7.1%、「吸引」、「胃ろう・腸ろう」、「気管切開」がいずれも2.4%などとなっている。

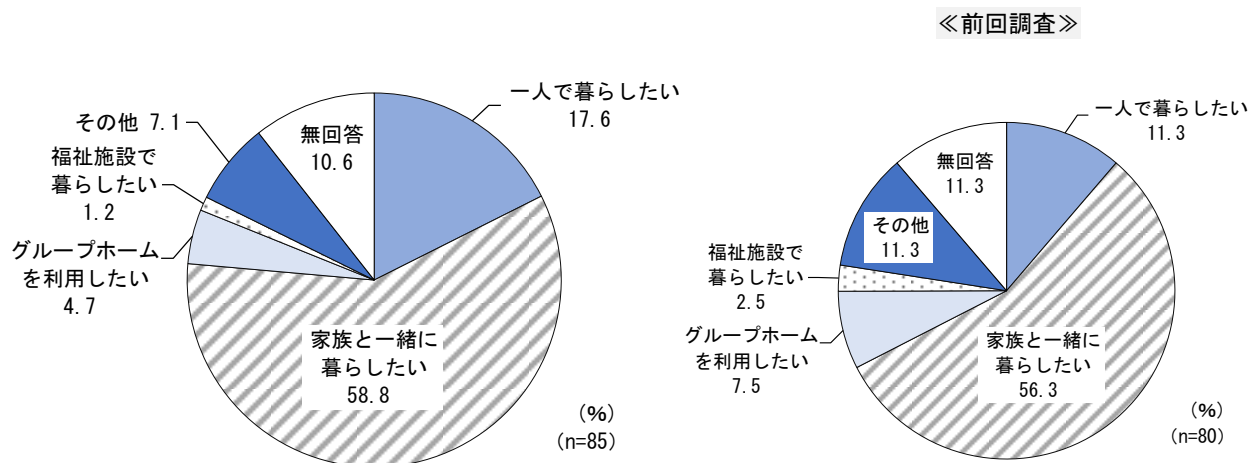


3 住まいや暮らしについて

(1) 将来希望する暮らし方

問 13 あなたは将来どのように暮らしたいと思いますか。(○は1つだけ)

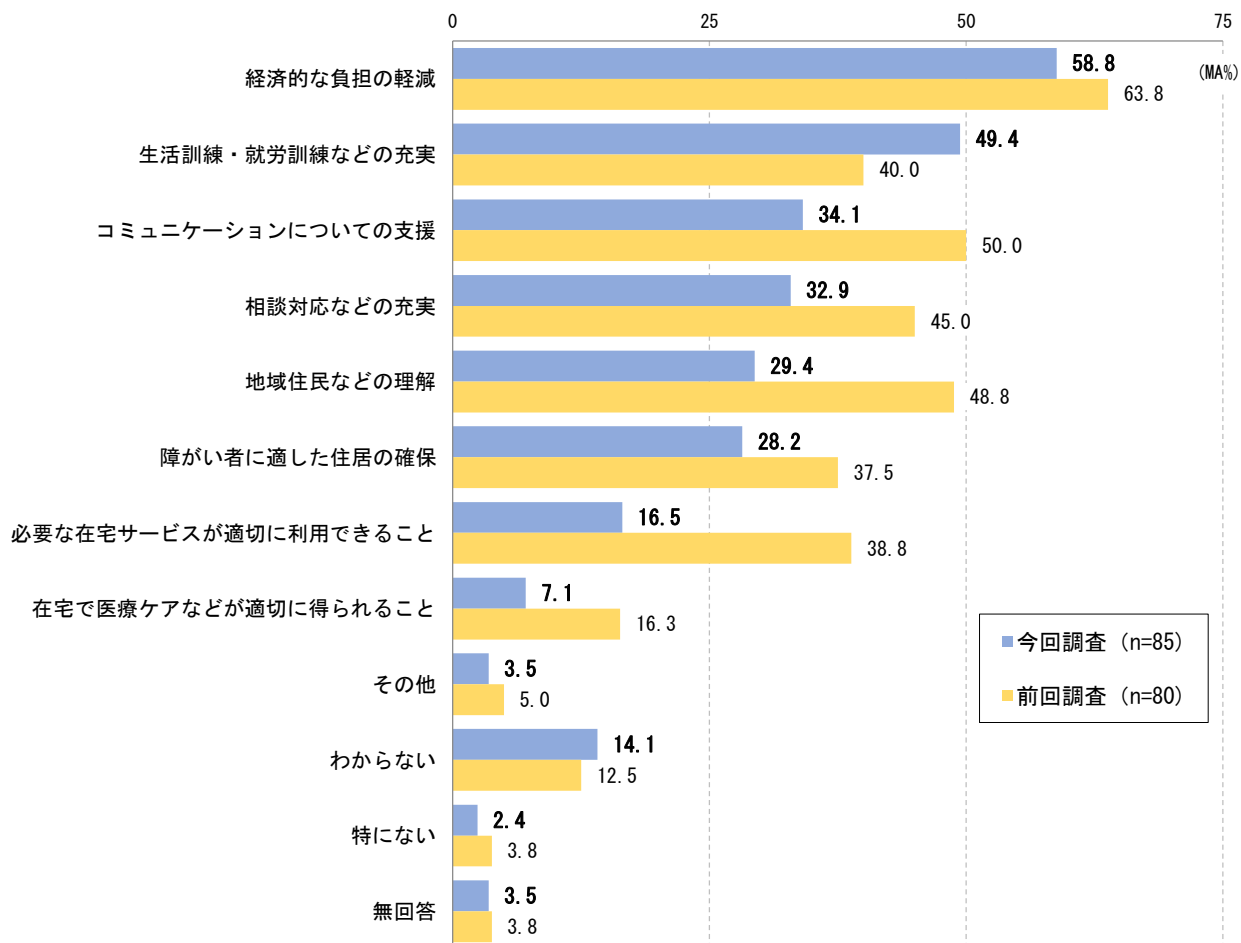
将来どのように暮らしたいと思うかたずねたところ、「家族と一緒に暮らしたい」が約6割(58.8%)を占めている。また、これに続くのが、「一人で暮らしたい」で17.6%となっており、前回調査(11.3%)から6.3ポイント増えている。



(2) 今後の暮らし方の希望

問 14 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

地域で生活するためにどのような支援があればよいと思うかたずねたところ、「経済的な負担の軽減」が58.8%と最も多くなっている。また、これに続くのが、「生活訓練・就労訓練などの充実」で49.4%となっており、前回調査(40.0%)から9.4ポイント増えている。

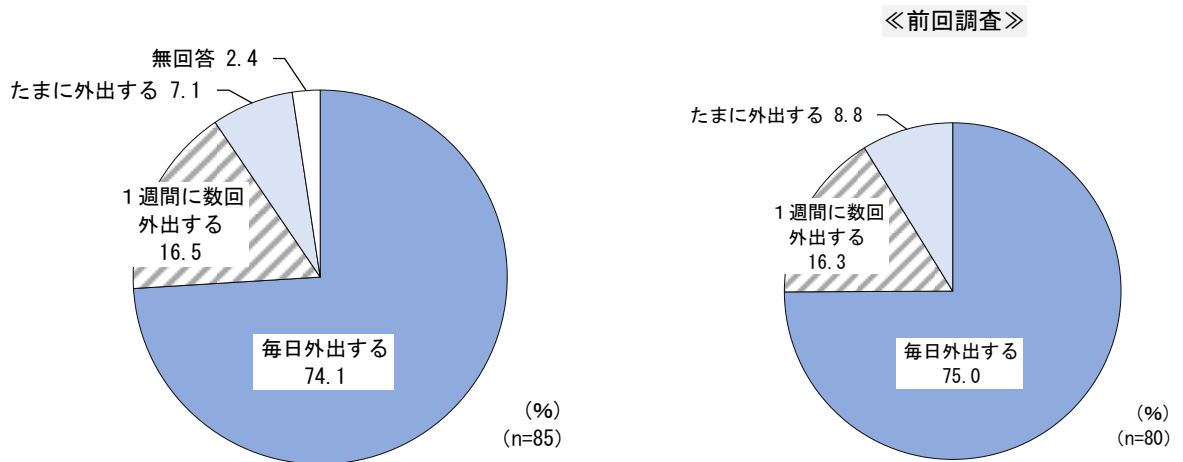


4 日中活動について

(1) 外出頻度

問 15 あなたは、1週間にどの程度外出しますか。(○は1つだけ)

1週間の外出の頻度としては、「毎日外出する」が7割台(74.1%)を占めており、前回調査(75.0%)と同程度となっている。



※「外出したいができない」「まったく外出しない」は0件(0.0%)のため非表示

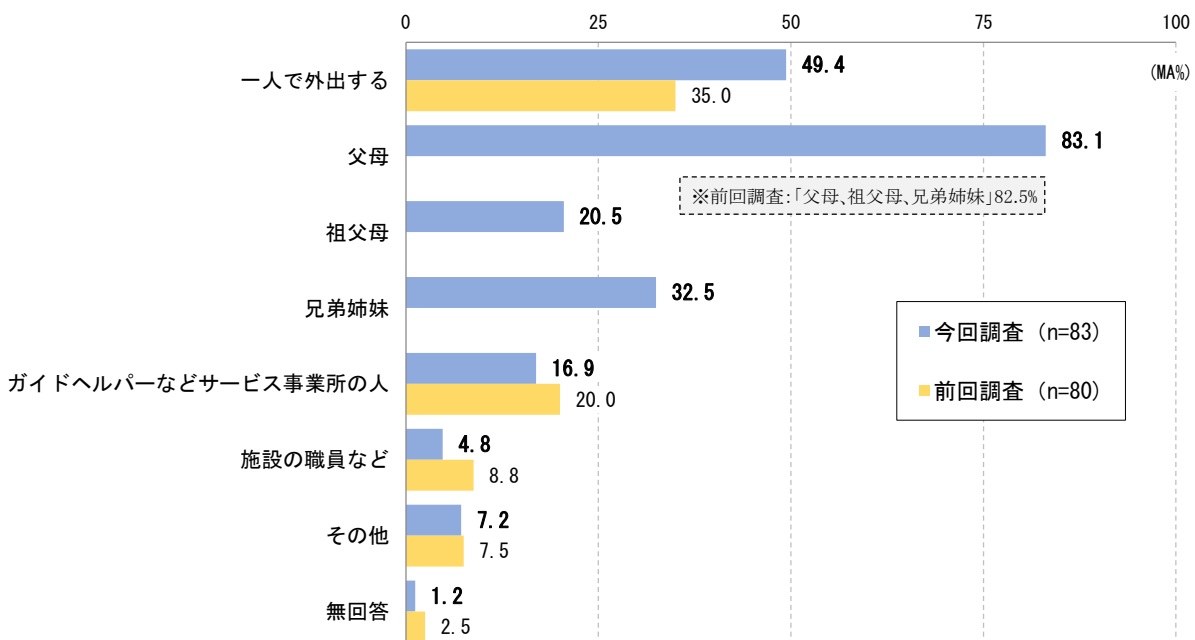
(2) 外出時の状況

① 同行者

【問 15 で「毎日外出する」「1週間に数回外出する」「たまに外出する」のいずれかと回答の方】

問 15-1 あなたは、外出する際に誰と外出しますか。(あてはまるものすべてに○)

外出する際の同行者としては、「父母」が83.1%と最も多くなっている。一方、「一人で外出する」が49.4%と次いで多く、前回調査(35.0%)から14.4ポイント増えている。

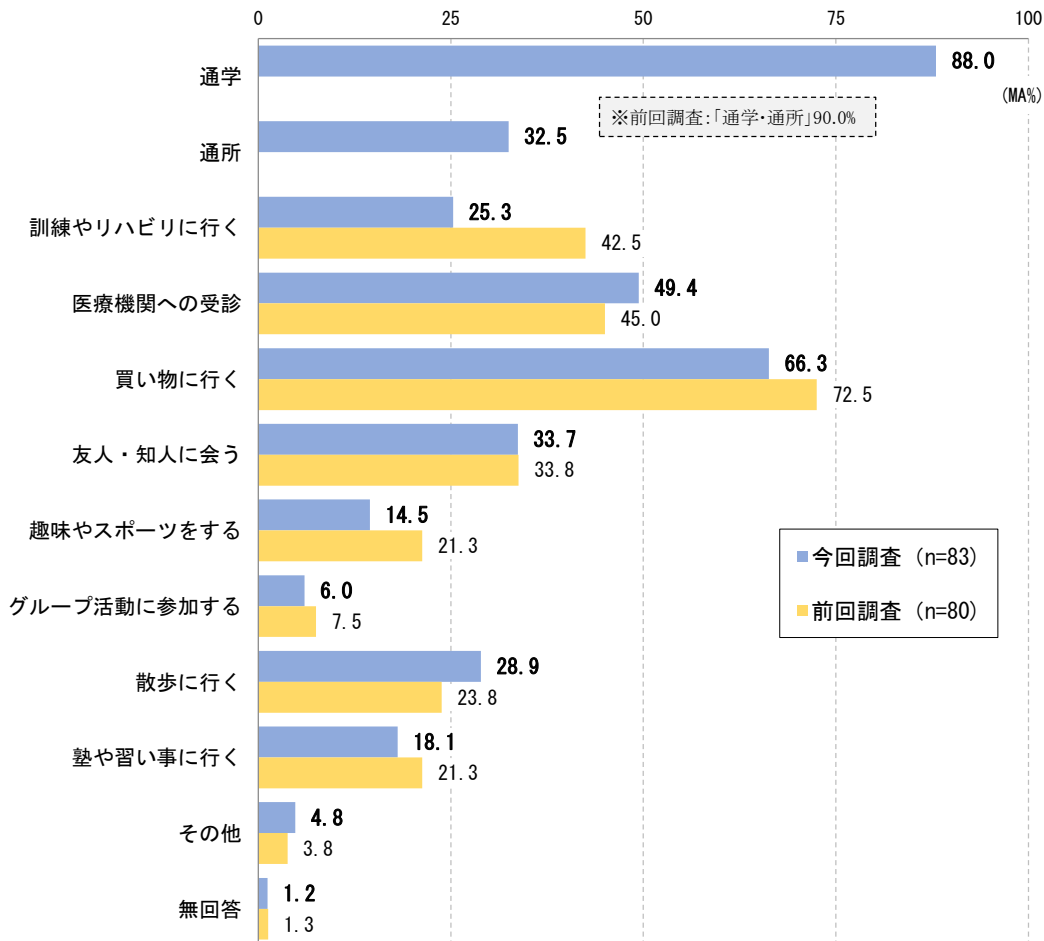


②外出目的

【問 15 で「毎日外出する」「1 週間に数回外出する」「たまに外出する」のいずれかと回答の方】

問 15-2 どのような目的で外出することが多いですか。（あてはまるものすべてに○）

外出する際の目的としては、「通学」が 88.0%と最も多く、次いで「買い物に行く」が 66.3%、「医療機関への受診」が 49.4%となっている。前回調査と比べると、「訓練やリハビリに行く」(今回 25.3%、前回 42.5%) が 17.2 ポイント減っている。

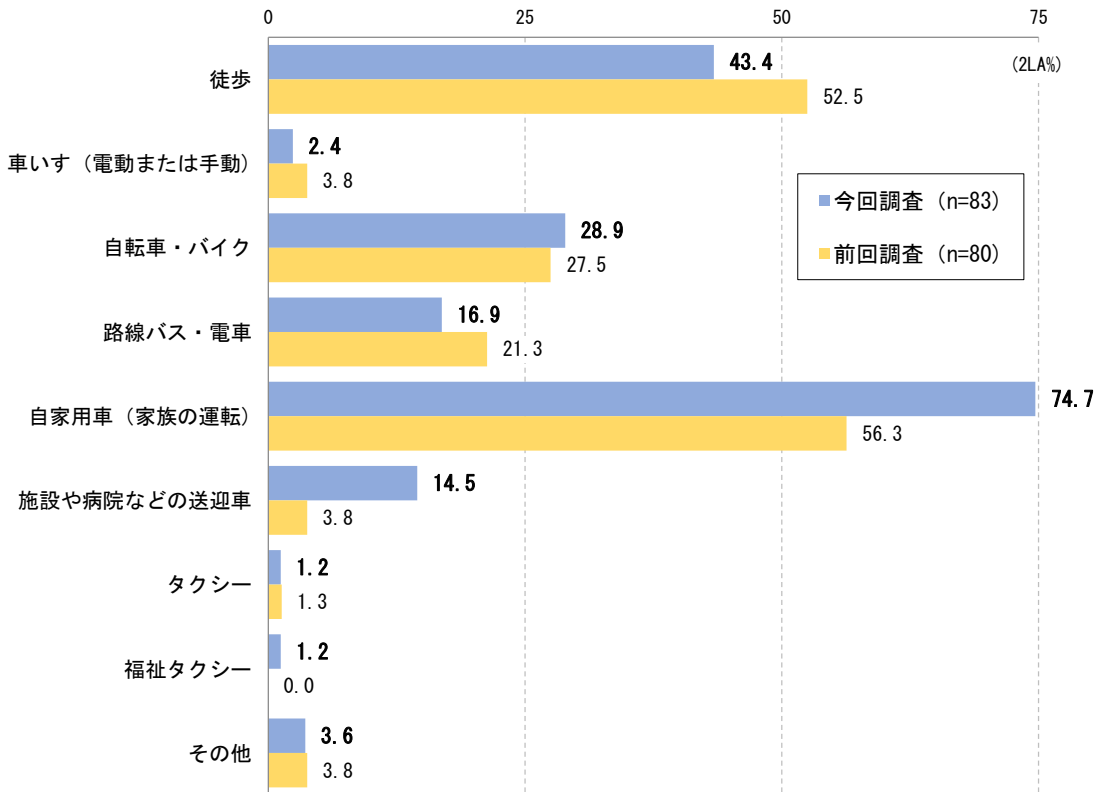


③主な交通手段

【問 15 で「毎日外出する」「1 週間に数回外出する」「たまに外出する」のいずれかと回答の方】

問 15-3 あなたが外出するときの主な交通手段は、何ですか。（〇は2つまで）

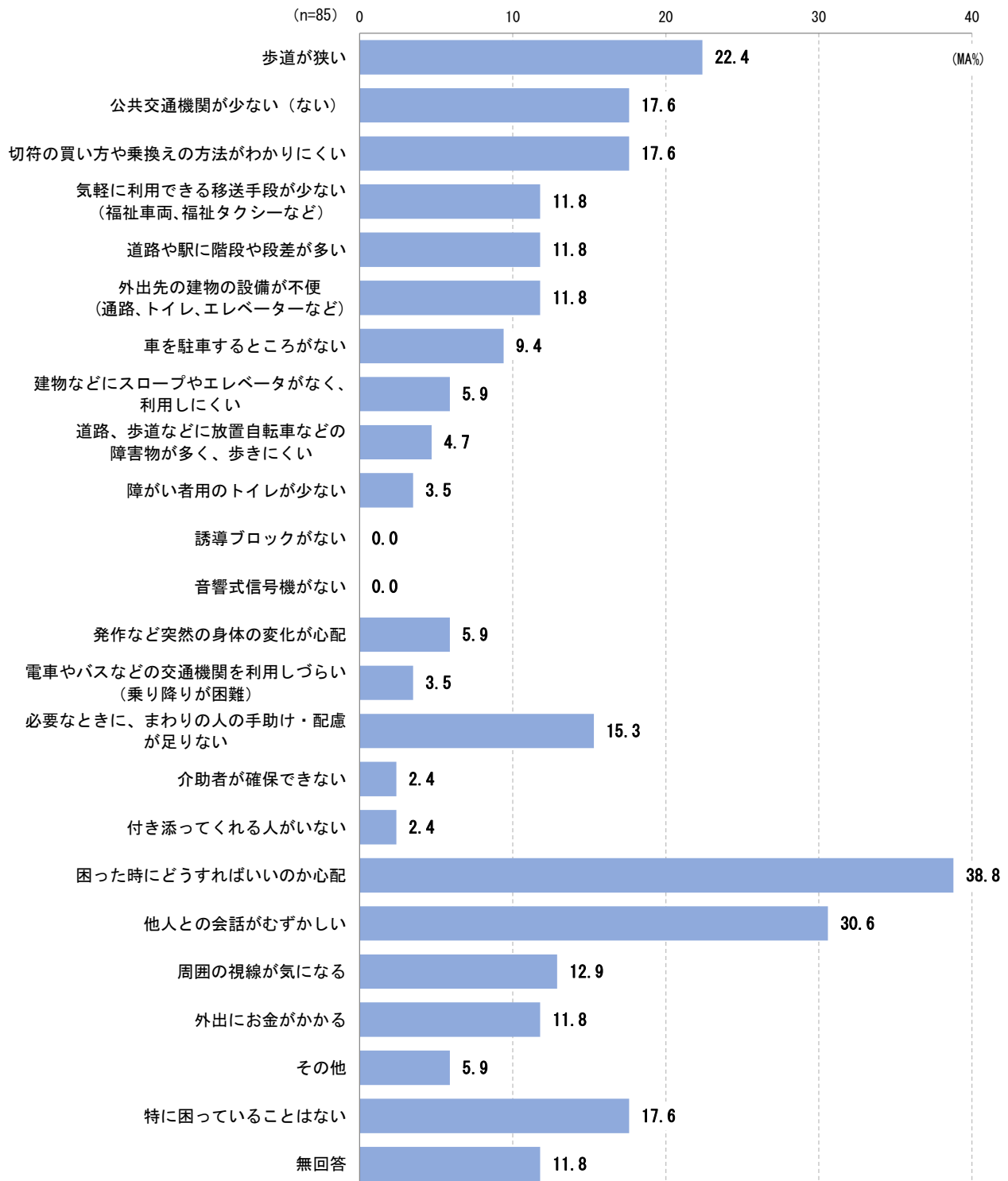
外出するときの主な交通手段としては、「自家用車（本人または家族の運転）」が 74.7%と最も多く、前回調査（56.3%）から 18.4 ポイント増えている。



(3) 外出に関する困りごと

問 15-4 外出について困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

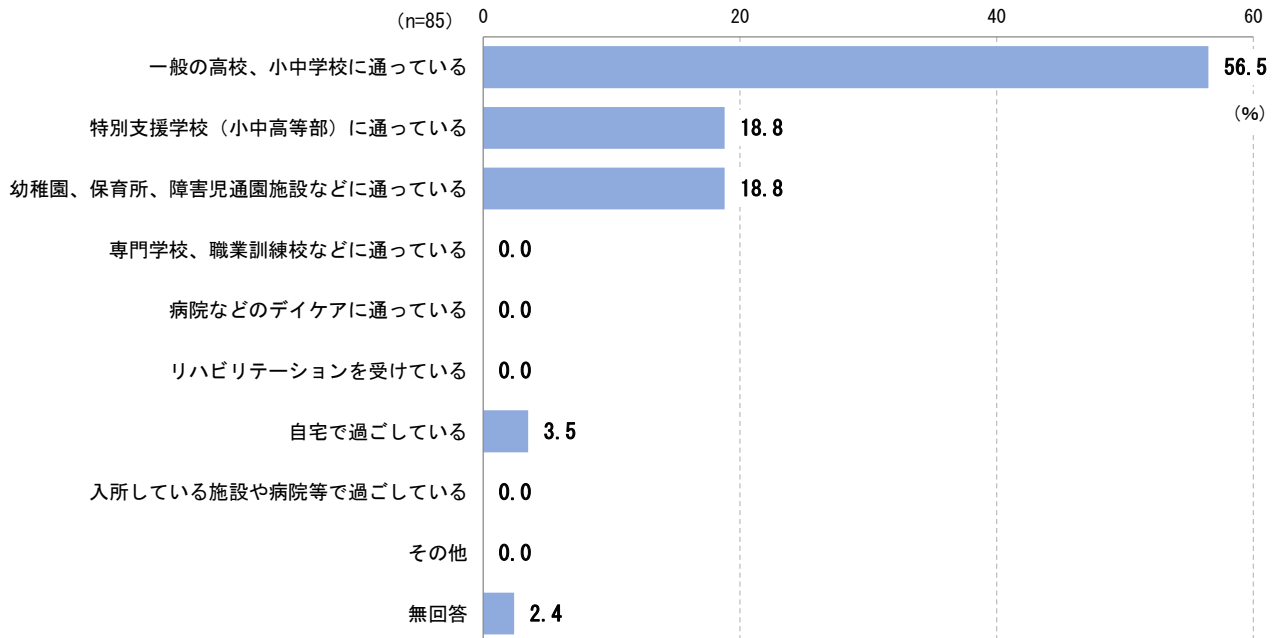
外出について困ることとしては、「困ったときにどうすればいいのか心配」が 38.8%と最も多く、次いで「他人との会話がむずかしい」が 30.6%、「歩道が狭い」が 22.4%となっている。一方、「特に困っていることはない」は 1 割台 (17.6%) みられる。



(4) 平日の日中の主な過ごし方

問 15-5 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つだけ)

平日の日中の主な過ごし方としては、「一般の高校、小中学校に通っている」が半数以上(56.5%)を占めている。

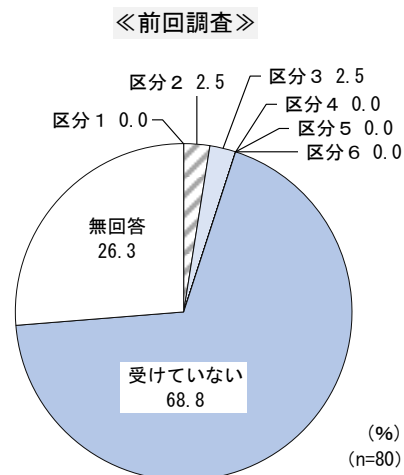
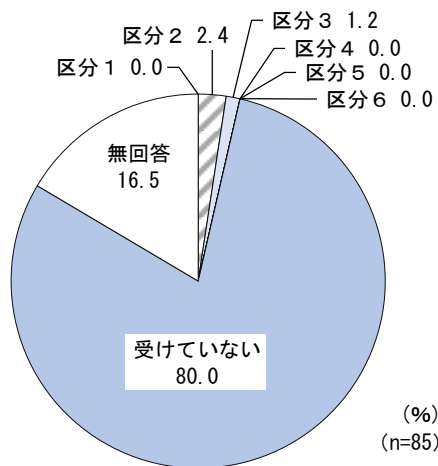


5 障がい福祉サービスなどの利用について

(1) 障害支援区分

問 16 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(○は1つだけ)

障害支援区分の認定を受けている割合は、全体の3.6%となっており、前回調査(5.0%)から1.4ポイント減っている。



(2) 障がい福祉サービスなどの利用状況及び利用意向

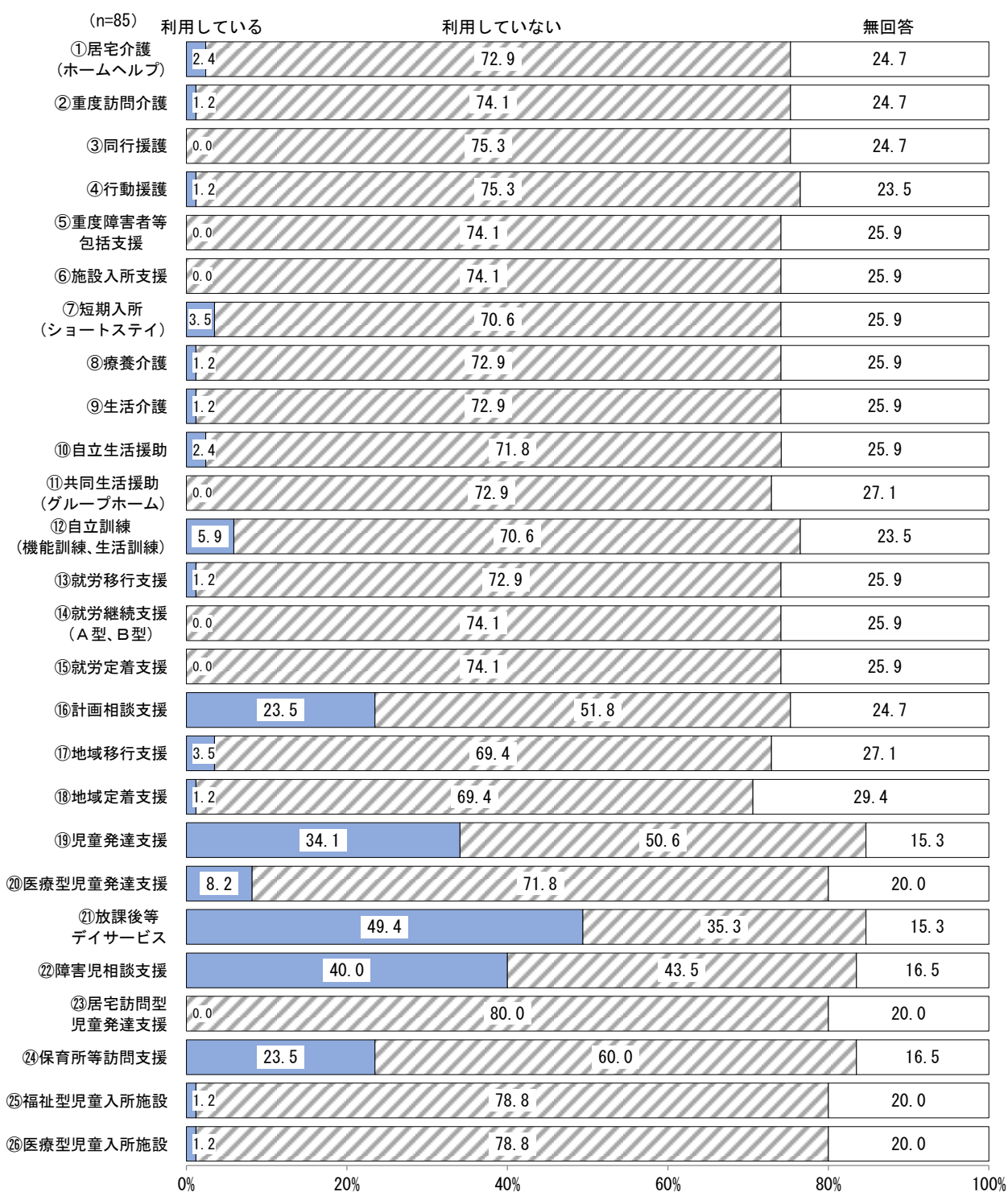
①現在の利用有無

問 17-A あなたは次のサービスを利用していますか。

①から⑳のサービスごとに、現在の利用をお答えください。

また、「利用していない」と答えた場合、その理由をお答えください。

障がい福祉サービスなどについて、現在利用している割合でみると、「㉑放課後等デイサービス」が49.4%と最も多く、次いで「㉒障害児相談支援」が40.0%、「㉓児童発達支援」が34.1%、「㉒計画相談支援」、「㉔保育所等訪問支援」がともに23.5%となっている。



②現在利用していない理由

現在利用していないと回答したサービスなどについて、それぞれ理由をたずねたところ、いずれのサービスも「サービスを受ける必要がないため」が5～7割台と最も多くなっている。また、「サービスの対象者に含まれないため」が『⑭保育所等訪問支援』で17.6%、『⑮放課後等デイサービス』で16.7%と高くなっている。

(MA%)

	調査数 (人)	サービスを受ける必要がないため	サービスの対象者に含まれないため	既に別のサービスの提供を受けているため	サービス利用時間の都合が合わないため	地域にサービス提供場所がないため	利用料金がかかるため	サービスがあることを知らなかったため	その他	無回答
①居宅介護（ホームヘルプ）	62	72.6	9.7	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	3.2	12.9
②重度訪問介護	63	73.0	9.5	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	12.7
③同行援護	64	70.3	10.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	3.1	14.1
④行動援護	64	65.6	9.4	0.0	0.0	1.6	1.6	4.7	3.1	14.1
⑤重度障害者等包括支援	63	69.8	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	3.2	14.3
⑥施設入所支援	63	76.2	7.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	1.6	12.7
⑦短期入所（ショートステイ）	60	68.3	6.7	1.7	0.0	1.7	0.0	5.0	3.3	13.3
⑧療養介護	62	75.8	8.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	1.6	11.3
⑨生活介護	62	77.4	8.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	1.6	11.3
⑩自立生活援助	61	75.4	6.6	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9	0.0	13.1
⑪共同生活援助（グループホーム）	62	75.8	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	1.6	14.5
⑫自立訓練（機能訓練、生活訓練）	60	63.3	13.3	0.0	1.7	1.7	0.0	3.3	3.3	13.3
⑬就労移行支援	62	61.3	14.5	0.0	0.0	0.0	1.6	1.6	3.2	17.7
⑭就労継続支援（A型、B型）	63	61.9	12.7	0.0	0.0	0.0	1.6	1.6	3.2	19.0
⑮就労定着支援	63	61.9	12.7	0.0	0.0	0.0	1.6	4.8	0.0	19.0
⑯計画相談支援	44	72.7	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	4.5	15.9
⑰地域移行支援	59	66.1	10.2	0.0	0.0	0.0	1.7	5.1	0.0	16.9
⑱地域定着支援	59	67.8	8.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	3.4	16.9
⑲児童発達支援	43	51.2	9.3	2.3	7.0	0.0	0.0	7.0	4.7	18.6
⑳医療型児童発達支援	61	60.7	11.5	1.6	0.0	0.0	0.0	9.8	3.3	14.8
㉑放課後等デイサービス	30	63.3	16.7	0.0	3.3	0.0	6.7	0.0	0.0	13.3
㉒障害児相談支援	37	67.6	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.1	18.9
㉓居宅訪問型児童発達支援	68	69.1	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	16.2
㉔保育所等訪問支援	51	58.8	17.6	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	19.6
㉕福祉型児童入所施設	67	65.7	11.9	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5	0.0	19.4
㉖医療型児童入所施設	67	65.7	11.9	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5	0.0	19.4

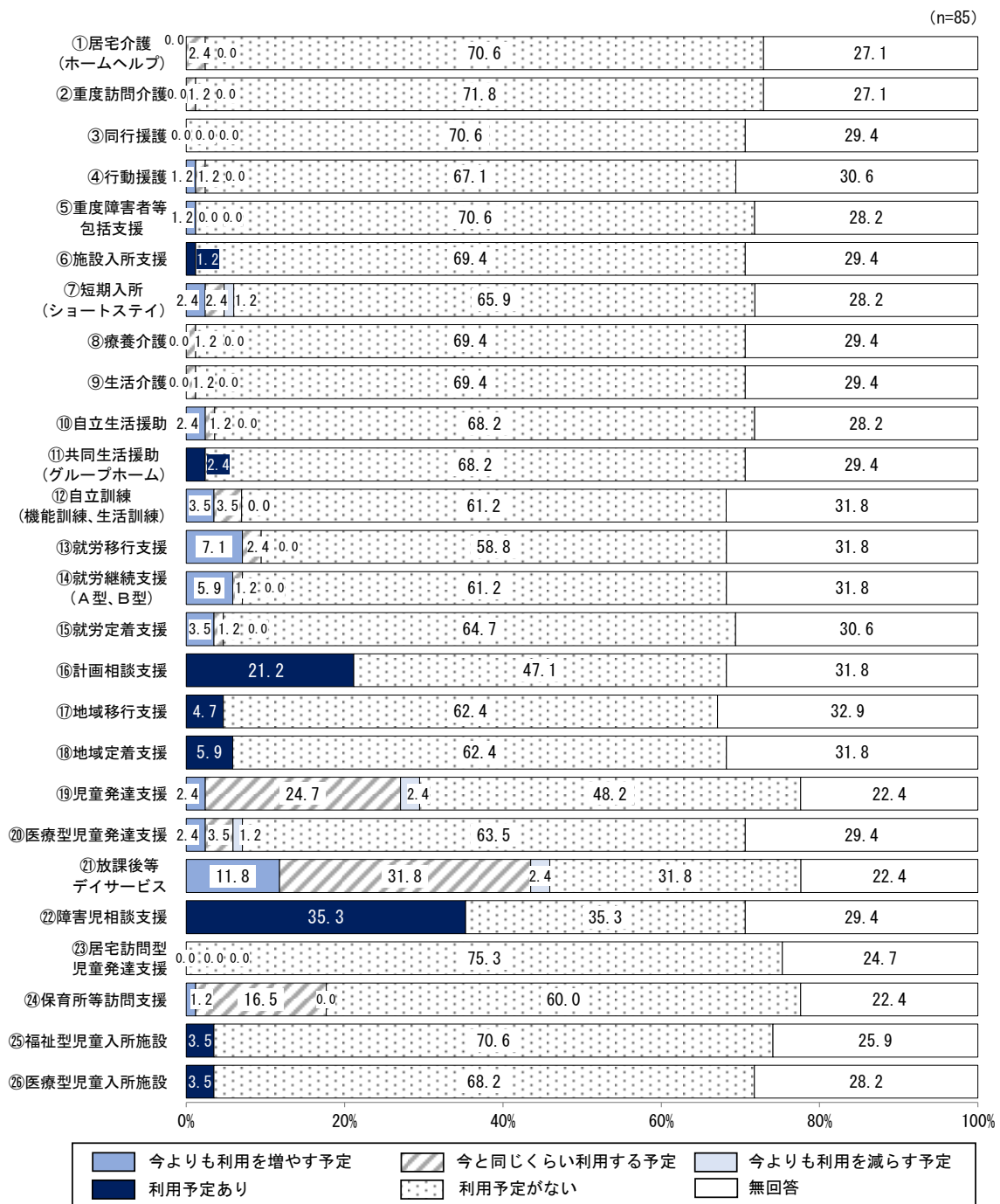
③今後3年以内の利用予定

問 17-B あなたは次のサービスをこれから利用する予定はありますか。

①から⑳のサービスごとに、今後3年以内の利用をお答えください。

また、「利用予定がない」と答えた場合、その理由をお答えください。

今後3年以内のサービスなどの利用予定についてたずねたところ、「今よりも利用を増やす予定」が『㉑放課後等デイサービス』で11.8%、『㉓就労移行支援』で7.1%と高くなっている。また、利用予定がある割合（「今よりも利用を増やす予定」「今と同じくらい利用する予定」「今よりも利用を減らす予定」の計、または「利用予定あり」）でみると、『㉑放課後等デイサービス』で46.0%と最も高く、次いで『㉓児童発達支援』で29.5%、『㉒保育所等訪問支援』で17.7%となっている。



※⑥施設入所支援、⑪共同生活援助(グループホーム)、⑯計画相談支援、⑰地域移行支援、⑱地域定着支援、
⑳障害児相談支援、㉕福祉型児童入所施設、㉖医療型児童入所施設の白抜きは「利用予定あり」の割合

④利用予定がない理由

今後3年以内の利用予定がないと回答したサービスなどについて、それぞれ理由をたずねたところ、いずれのサービスも「サービスを受ける必要がないため」が5～8割台と最も多くなっている。また、「サービスの対象者に含まれないため」が『⑭保育所等訪問支援』で15.7%、『⑮放課後等デイサービス』で14.8%、『⑯障害児相談支援』で13.3%と高い。

(MA%)

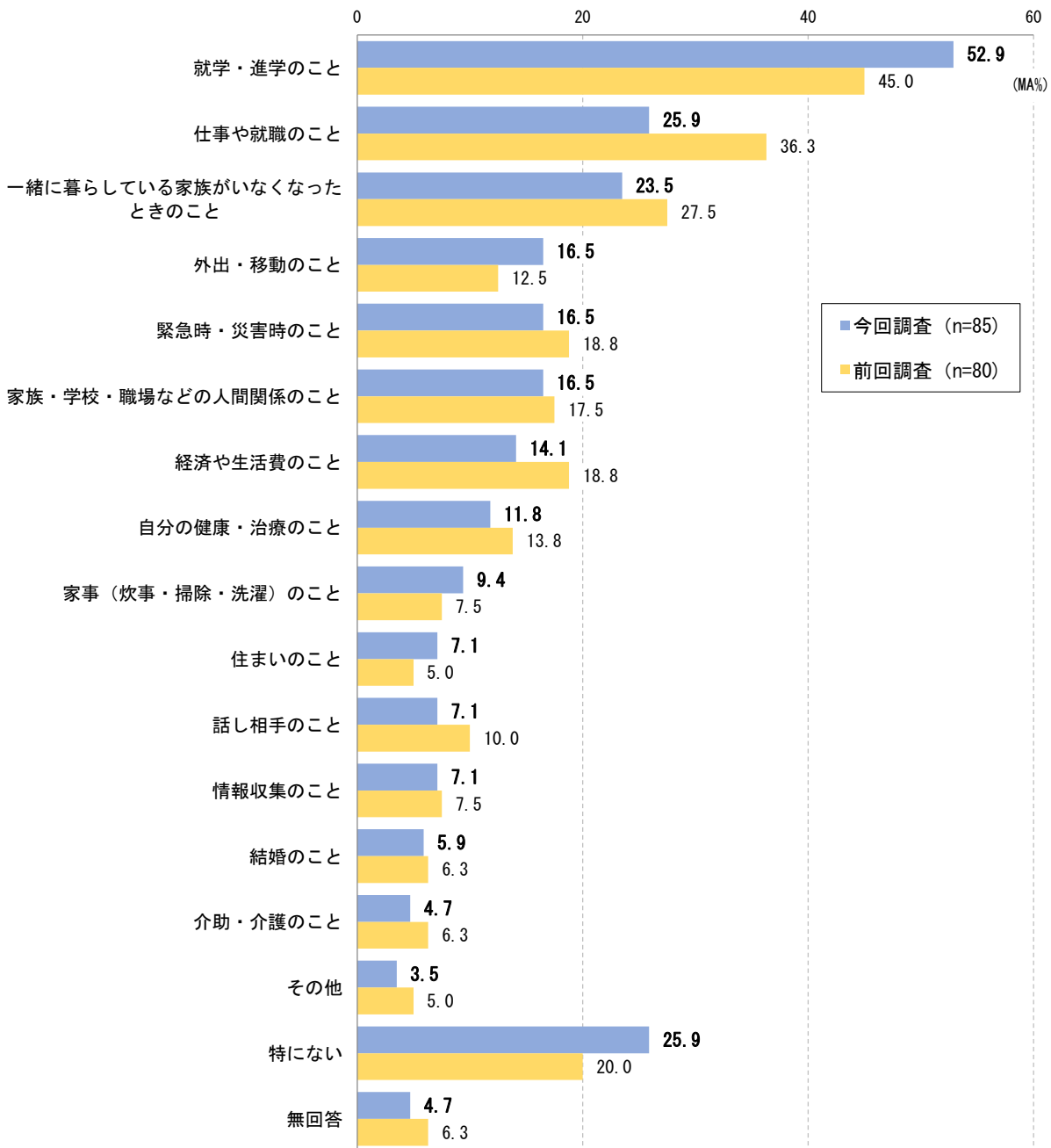
	調査数 (人)	サービスを受ける必要がないため	サービスの対象者に含まれないため	既に別のサービスの提供を受けているため	サービス利用時間の都合が合わないため	地域にサービス提供場所がないため	利用料金がかかるため	サービスがあることを知らなかったため	その他	無回答
①居宅介護（ホームヘルプ）	60	83.3	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	10.0
②重度訪問介護	61	82.0	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	11.5
③同行援護	60	83.3	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	10.0
④行動援護	57	82.5	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	10.5
⑤重度障害者等包括支援	60	81.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	10.0
⑥施設入所支援	59	84.7	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	8.5
⑦短期入所（ショートステイ）	56	80.4	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	3.6	8.9
⑧療養介護	59	84.7	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	8.5
⑨生活介護	59	83.1	3.4	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	3.4	8.5
⑩自立生活援助	58	82.8	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	12.1
⑪共同生活援助（グループホーム）	58	81.0	3.4	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	3.4	10.3
⑫自立訓練（機能訓練、生活訓練）	52	73.1	7.7	0.0	1.9	0.0	0.0	1.9	0.0	15.4
⑬就労移行支援	50	76.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0
⑭就労継続支援（A型、B型）	52	75.0	5.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	17.3
⑮就労定着支援	55	69.1	7.3	0.0	0.0	0.0	1.8	3.6	1.8	16.4
⑯計画相談支援	40	77.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	2.5	15.0
⑰地域移行支援	53	75.5	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	3.8	11.3
⑱地域定着支援	53	75.5	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	3.8	11.3
⑲児童発達支援	41	61.0	7.3	0.0	7.3	0.0	0.0	2.4	9.8	12.2
⑳医療型児童発達支援	54	70.4	9.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6	9.3
㉑放課後等デイサービス	27	59.3	14.8	0.0	3.7	0.0	7.4	0.0	3.7	14.8
㉒障害児相談支援	30	63.3	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	16.7
㉓居宅訪問型児童発達支援	64	73.4	9.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	14.1
㉔保育所等訪問支援	51	62.7	15.7	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	3.9	15.7
㉕福祉型児童入所施設	60	71.7	10.0	0.0	0.0	0.0	1.7	1.7	1.7	13.3
㉖医療型児童入所施設	58	70.7	10.3	0.0	0.0	0.0	1.7	1.7	1.7	13.8

6 相談や情報入手などについて

(1) 悩みごとや相談したいこと

問 18 現在、あなたは、悩んでいることや、誰かに相談したいことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

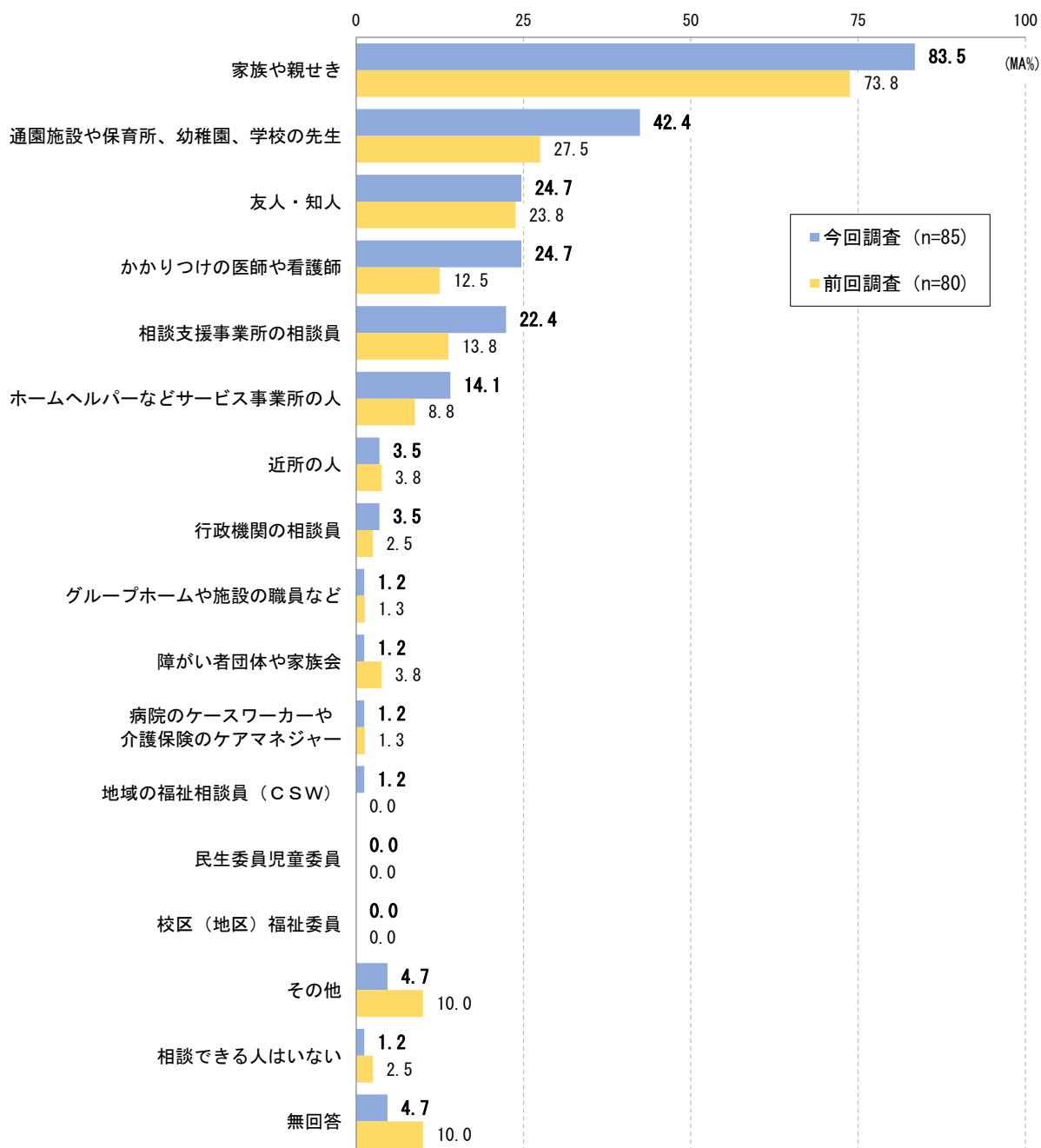
現在の悩みごとや誰かに相談したいこととしては、「就学・進学のこと」が52.9%と最も多く、前回調査(45.0%)から7.9ポイント増えている。また、「仕事や就職のこと」が25.9%、「一緒に暮らしている家族がいなくなったときのこと」が23.5%と、次いで多くなっている。



(2) 悩みごとなどの相談先

問 19 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

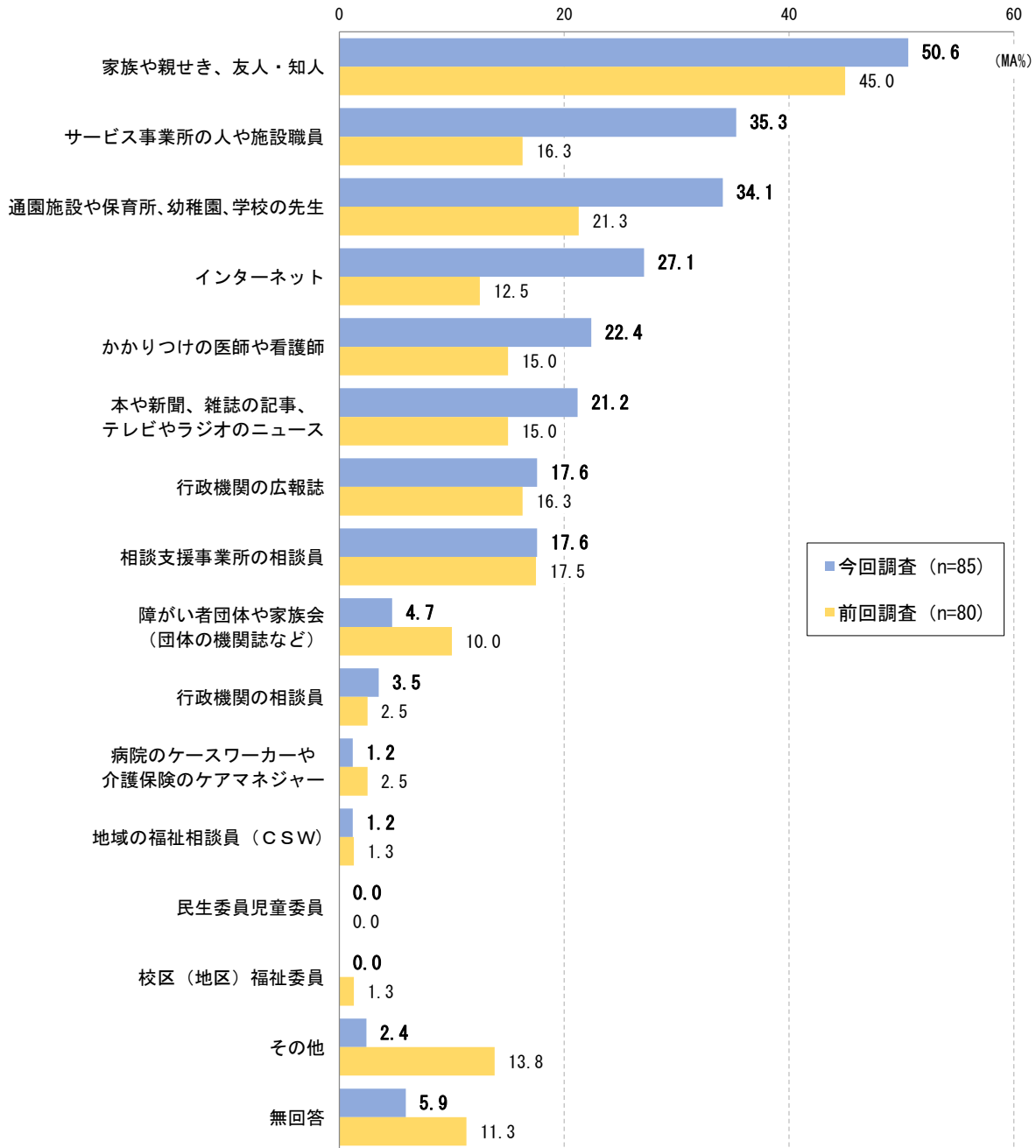
悩みや困ったことの相談先としては、「家族や親せき」が 83.5%と最も多くなっている。これに続くのが、「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」で 42.4%となっており、前回調査 (27.5%) から 14.9 ポイント増えている。一方、「相談できる人はいない」は 1.2%となっている。



(3) 福祉サービスなどに関する情報の入手先

問 20 あなたは障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

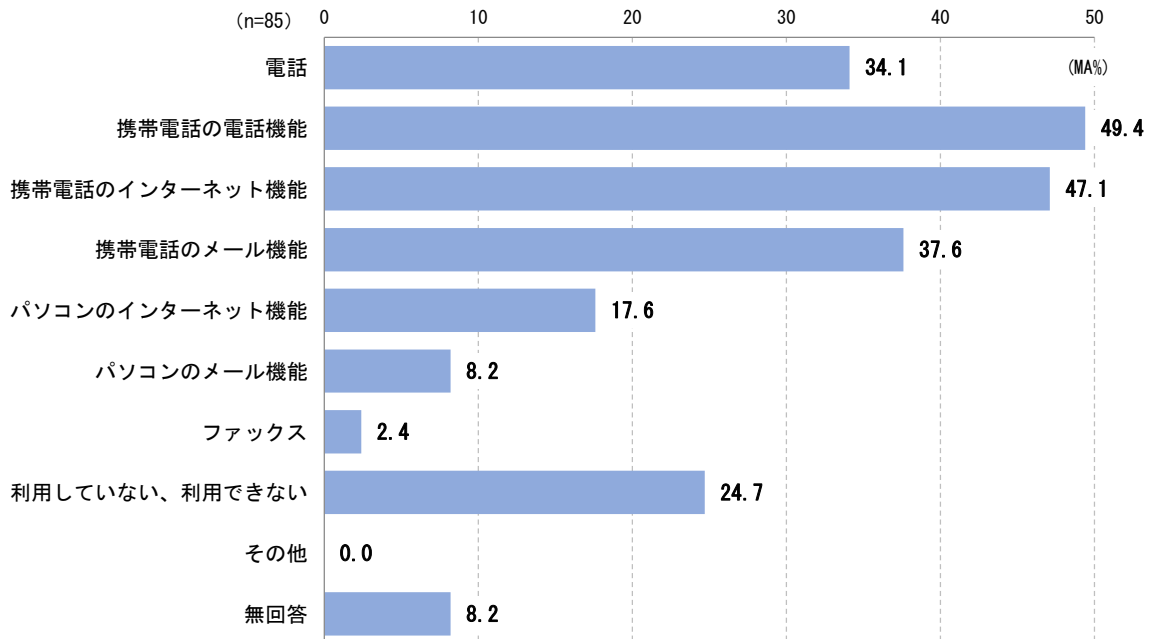
障がいのことや福祉サービスなどに関する情報をどこから知ることが多いかたずねたところ、「家族や親せき、友人・知人」が50.6%と最も多くなっている。これに続くのが、「サービス事業所の人や施設職員」で35.3%、「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」で34.1%、「インターネット」で27.1%となっており、いずれも前回調査から増えている。



(4) 利用している通信機器

問 21 あなたはどのような通信機器を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

利用している通信機器としては、「携帯電話の電話機能」が 49.4%と最も多く、次いで「携帯電話のインターネット機能」が 47.1%、「携帯電話のメール機能」が 37.6%となっている。一方、「利用していない、利用できない」は2割台 (24.7%) みられる。

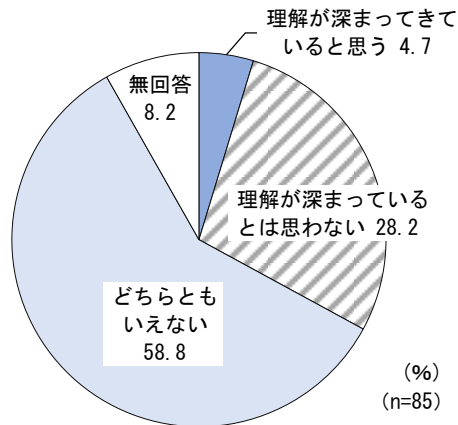


7 人権擁護について

(1) 障がいのある人の地域活動や社会参加に対する理解深度

問 22 あなたは、障がいのある人の地域活動や就職などの社会参加について、一般の理解が深まってきていると思いますか。(○は1つだけ)

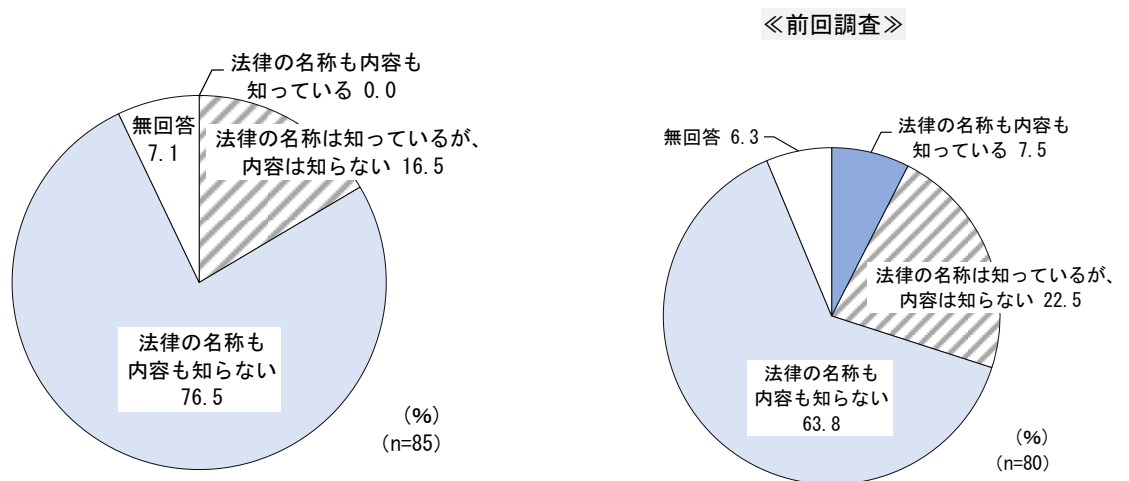
障がいのある人の地域活動や就職などの社会参加について、「理解が深まってきていると思う」が4.7%に対し、「理解が深まっているとは思わない」が28.2%となっている。



(2) 障害者差別解消法の認知度

問 23 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(○は1つだけ)

障害者差別解消法について、「法律の名称も内容も知っている」が、前回調査では7.5%みられたものの、今回調査では0.0% (0人) となっている。

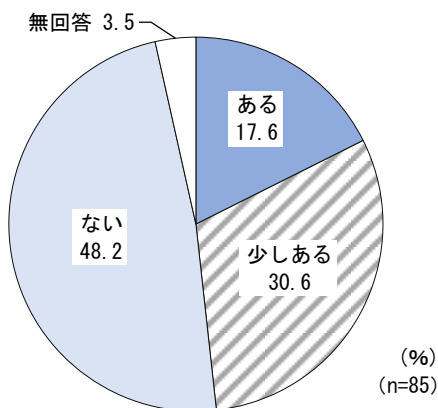


(3) 障がいを理由に差別や嫌な思いをした状況

①差別や嫌な思いをした経験

問 24 あなたは障がいがあることで差別や嫌な思いをする(した)ことがありますか。(○は1つだけ)

障がいがあることで差別や嫌な思いをしたことがあるという割合(「ある」「少しある」の計)は、全体の半数程度(48.2%)となっている。

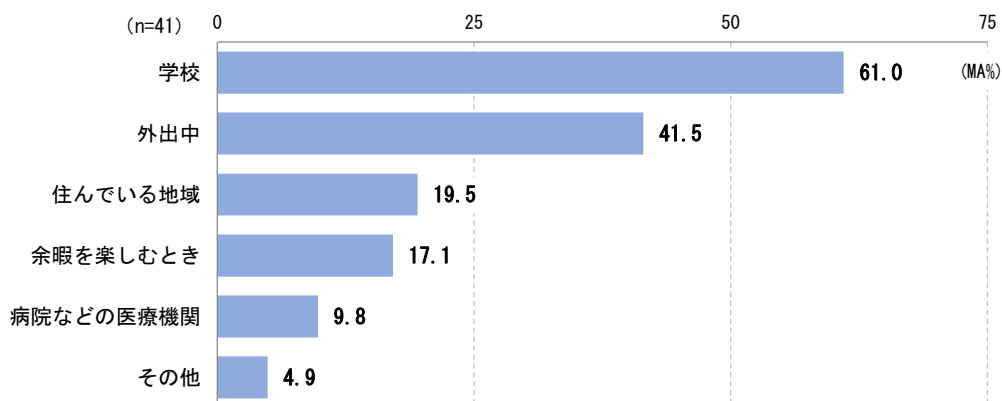


②差別や嫌な思いをした場所

【問 24 で「ある」または「少しある」と回答の方にお聞きします】

問 24-1 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

障がいがあることで差別や嫌な思いをしたことがあると回答した人に、具体的なその場所(場面)についてたずねたところ、「学校」が61.0%と最も多く、次いで「外出中」が41.5%となっている。



③差別や嫌な思いをした際の状況

【問 24 で「ある」または「少しある」と回答の方にお聞きます】

問 24-2 それはどのような状況だったか、具体的にご記入ください。

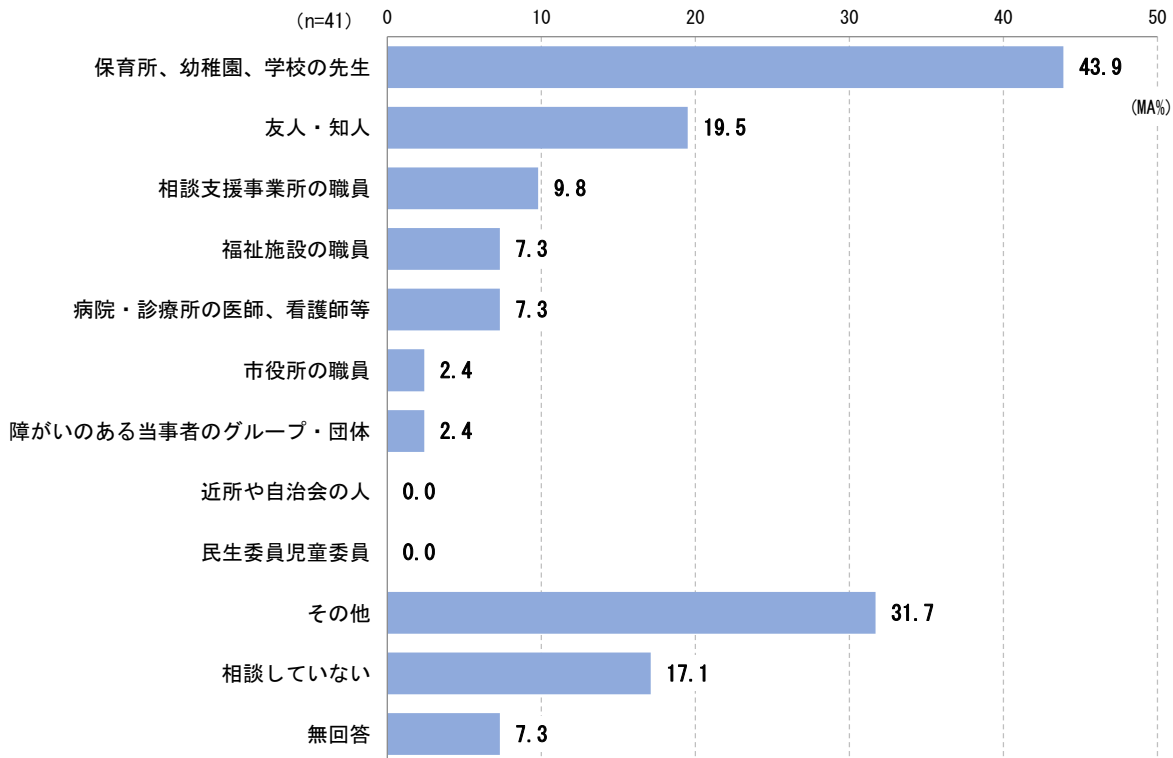
主な意見
買物中にじろじろ見られる。
遊んでいる時に仲間外れ
障がいがある子は、地域の小学校ではなく支援学校へ行け、迷惑だと言われた。
奇声を発したりして、嫌そうな表情でじろっと見られたこと。
コミュニケーションが上手ではなく、言葉をうまく使えないため、分かってもらえなかったことはたくさんある。
陰口を言われたことがある。(車イスの事や足の事)
じっとしてられないことを言われて嫌だった。
本人はうまく言葉で伝える事が難しいので、物がなくなった時、泥棒扱いされた事がある。

④差別や嫌な思いをした際の相談先

【問 24 で「ある」または「少しある」と回答の方にお聞きます】

問 24-3 あなたは、差別や嫌な思いをした際にどなたに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

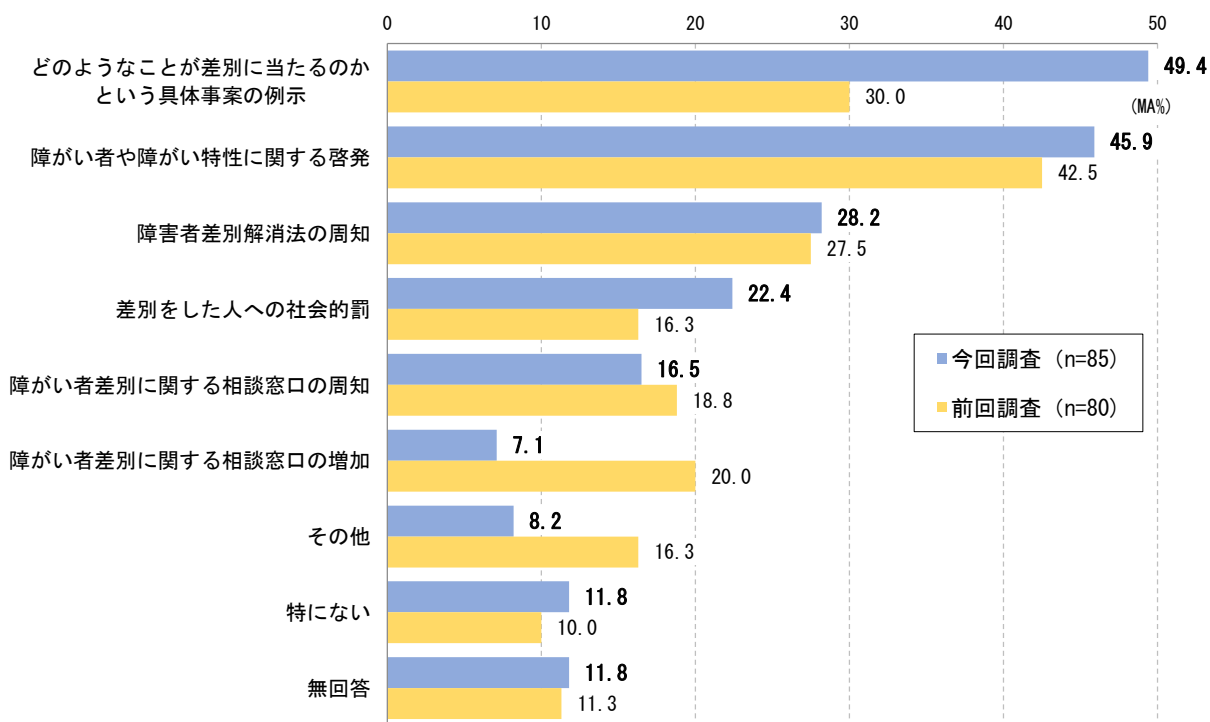
差別や嫌な思いをした際の相談先としては、「保育所、幼稚園、学校の先生」が 43.9%と最も多くなっている。一方、「相談していない」は 17.1%みられる。



(4) 差別がなくなるために必要と思う配慮や取組

問 25 あなたは、差別がなくなるために、どういった配慮や取組が必要だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)

差別がなくなるためにどういった配慮や取組が必要と思うかたずねたところ、「どのようなことが差別に当たるのかという具体事案の例示」が 49.4%と最も多く、前回調査 (30.0%) から 19.4 ポイント増えている。また、「障がい者や障がい特性に関する啓発」についても 45.9%と多くなっている。

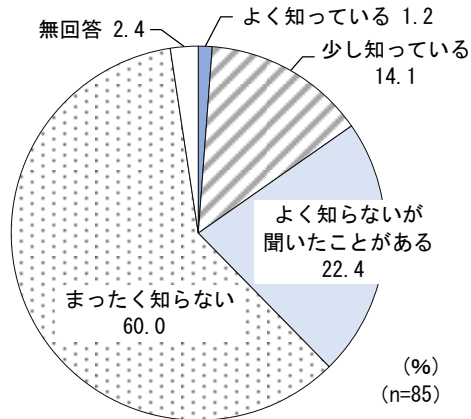


(5) 成年後見制度の認知状況

①成年後見制度の認知度

問 26 あなたは、『成年後見制度』を知っていますか。(○は1つだけ)

成年後見制度について知っているという割合(「よく知っている」「少し知っている」の計)は、全体の1割台(15.3%)となっている。

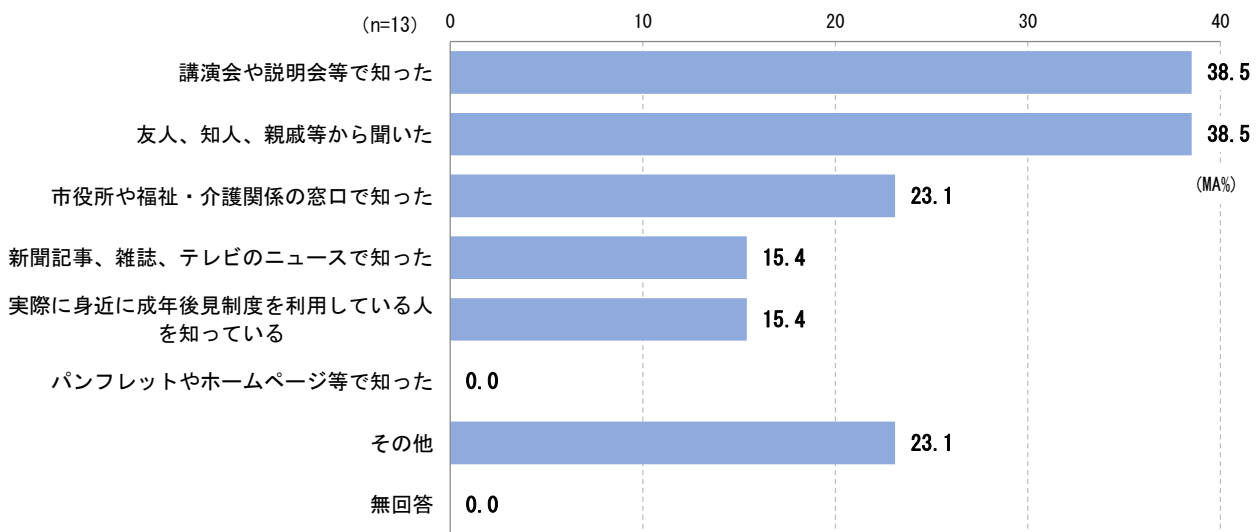


②成年後見制度について知ったきっかけ

【問 26 で「よく知っている」または「少し知っている」と回答の方にお聞きします】

問 26-1 どこで『成年後見制度』を知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

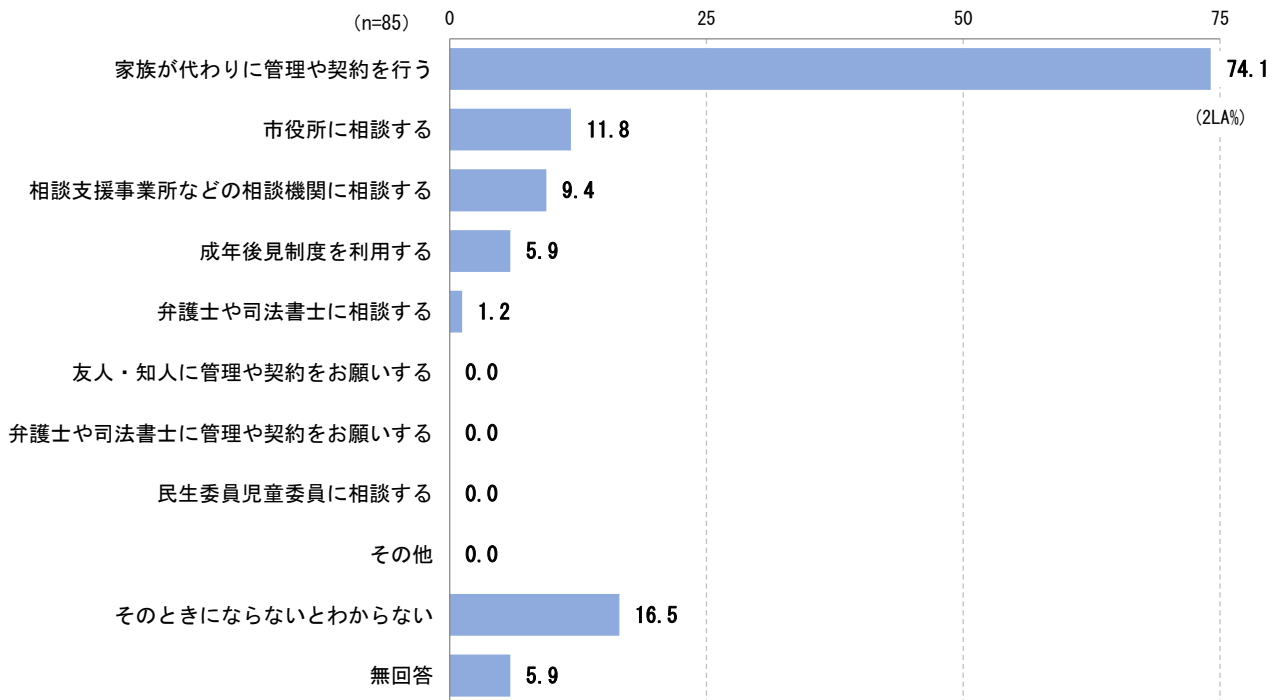
成年後見制度を知っていると回答した人(13人)に、制度を知ったきっかけをたずねたところ、「講演会や説明会等で知った」、「友人、知人、親戚等から聞いた」がともに38.5%(5人)などとなっている。



(6) お金の管理や契約が難しい場合の対処

問 27 あなたは、お金の管理や契約が難しい場合、どのようにしたいとお考えですか。(〇は2つまで)

お金の管理や契約が難しい場合の対処方法としては、「家族が代わりに管理や契約を行う」が74.1%と最も多く、次いで「市役所に相談する」が11.8%となっている。

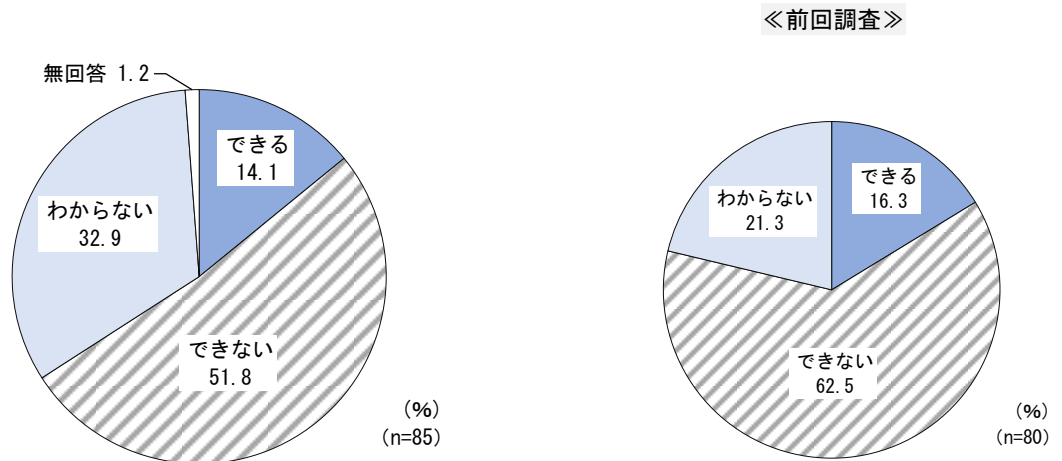


8 災害時の避難などについて

(1) 災害時の避難の可否

問 28 あなたは、火事や地震などの災害時に一人で避難できますか。(○は1つだけ)

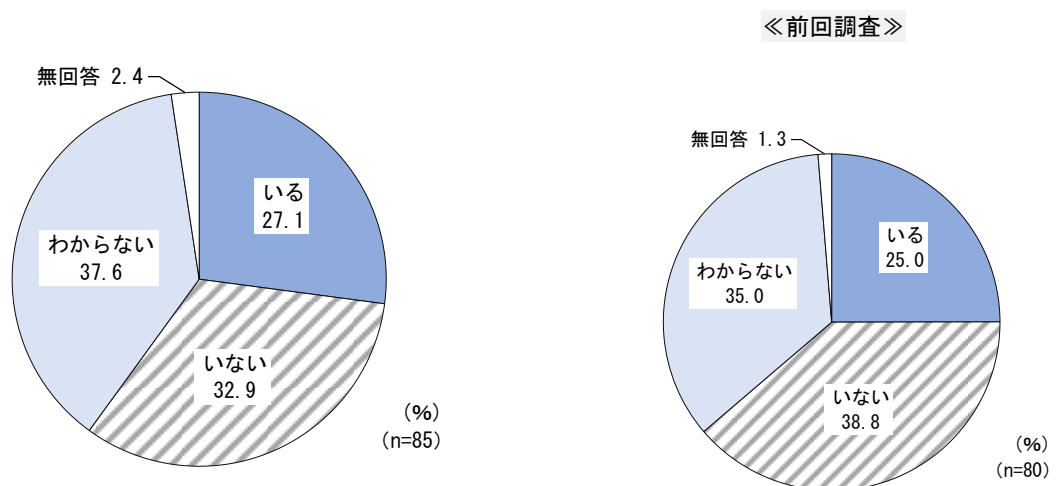
火事や地震などの災害時に一人で避難が「できる」が14.1%となっており、前回調査(16.3%)から2.2ポイント減っている。一方、「できない」は半数以上(51.8%)を占めている。



(2) 災害時に助けを頼める人の有無

問 29 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(○は1つだけ)

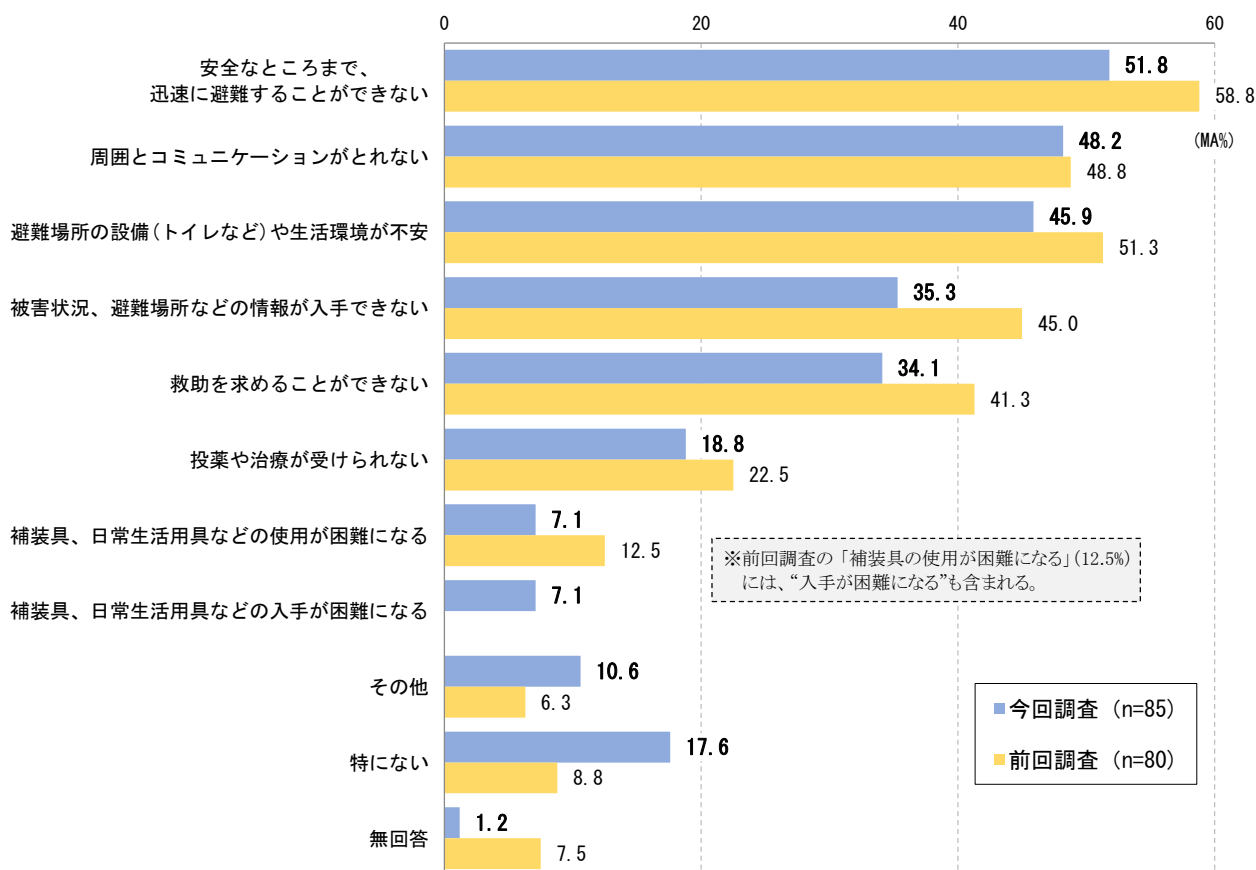
災害時に近所に助けを頼める人が「いる」が27.1%となっており、前回調査(25.0%)から2.1ポイント増えている。一方、「いない」は3割台(32.9%)みられる。



(3) 災害時に関する困りごと

問 30 火事や地震などの災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

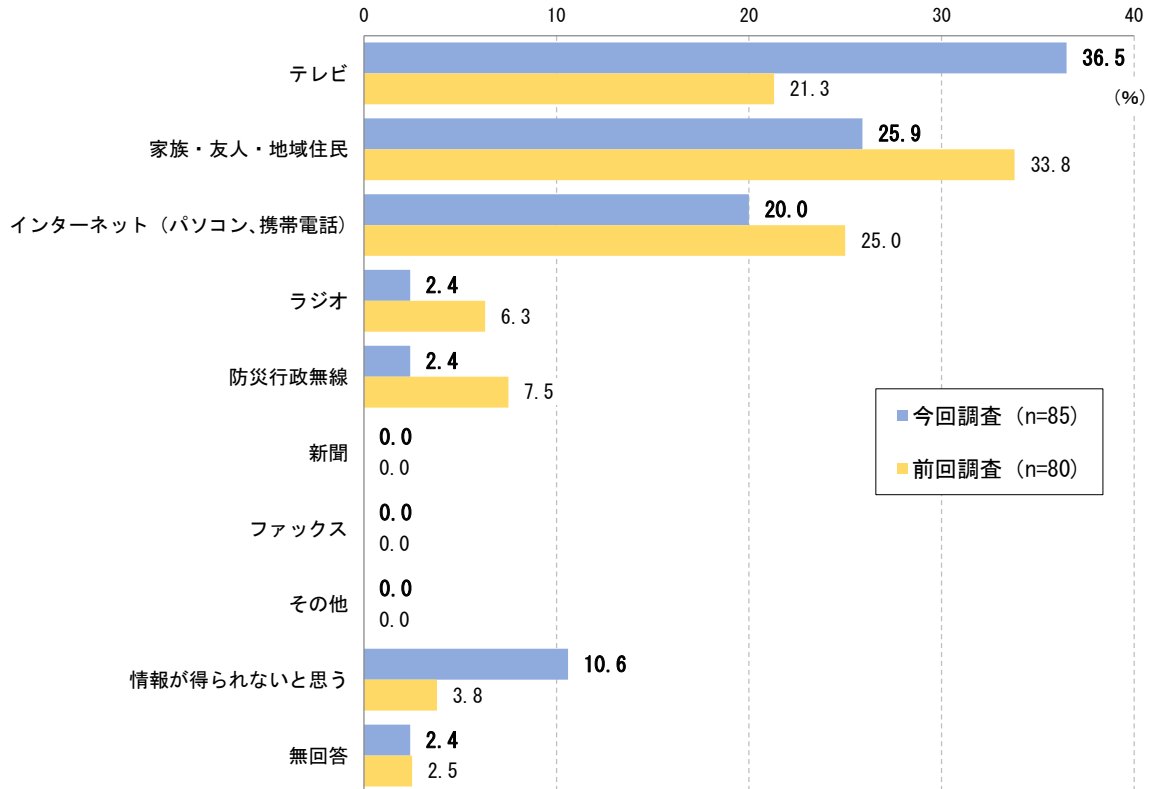
災害時に困ることとしては、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が51.8%と最も多く、次いで「周囲とコミュニケーションがとれない」が48.2%、「避難場所の設備(トイレなど)や生活環境が不安」が45.9となっている。一方、「特にない」は17.6%みられ、前回調査(8.8%)から8.8ポイント増えている。



(4) 災害に関する情報の入手先

問 31 災害が発生したとき、災害の情報は何かから知るとお思いますか。(○は1つだけ)

災害が発生したときに何かから情報を知るかたずねたところ、「テレビ」が36.5%と最も多く、前回調査(21.3%)から15.2ポイント増えている。一方、「情報が得られないと思う」が約1割(10.6%)みられ、前回調査(3.8%)から6.8ポイント増えている。

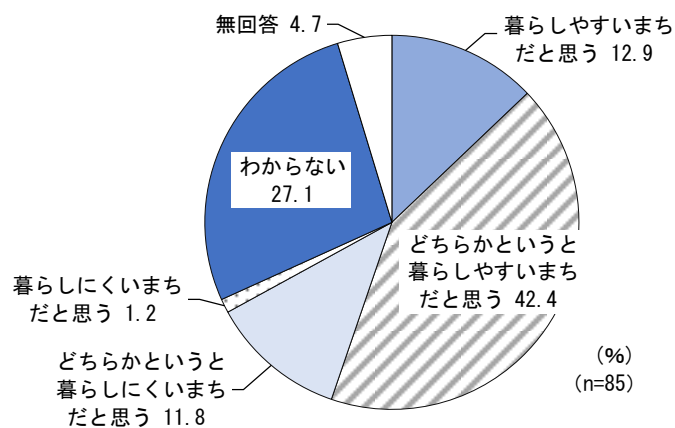


9 福祉全般について

(1) 阪南市の暮らしやすさ

問 32 阪南市は暮らしやすいまちだと思いますか。(○は1つだけ)

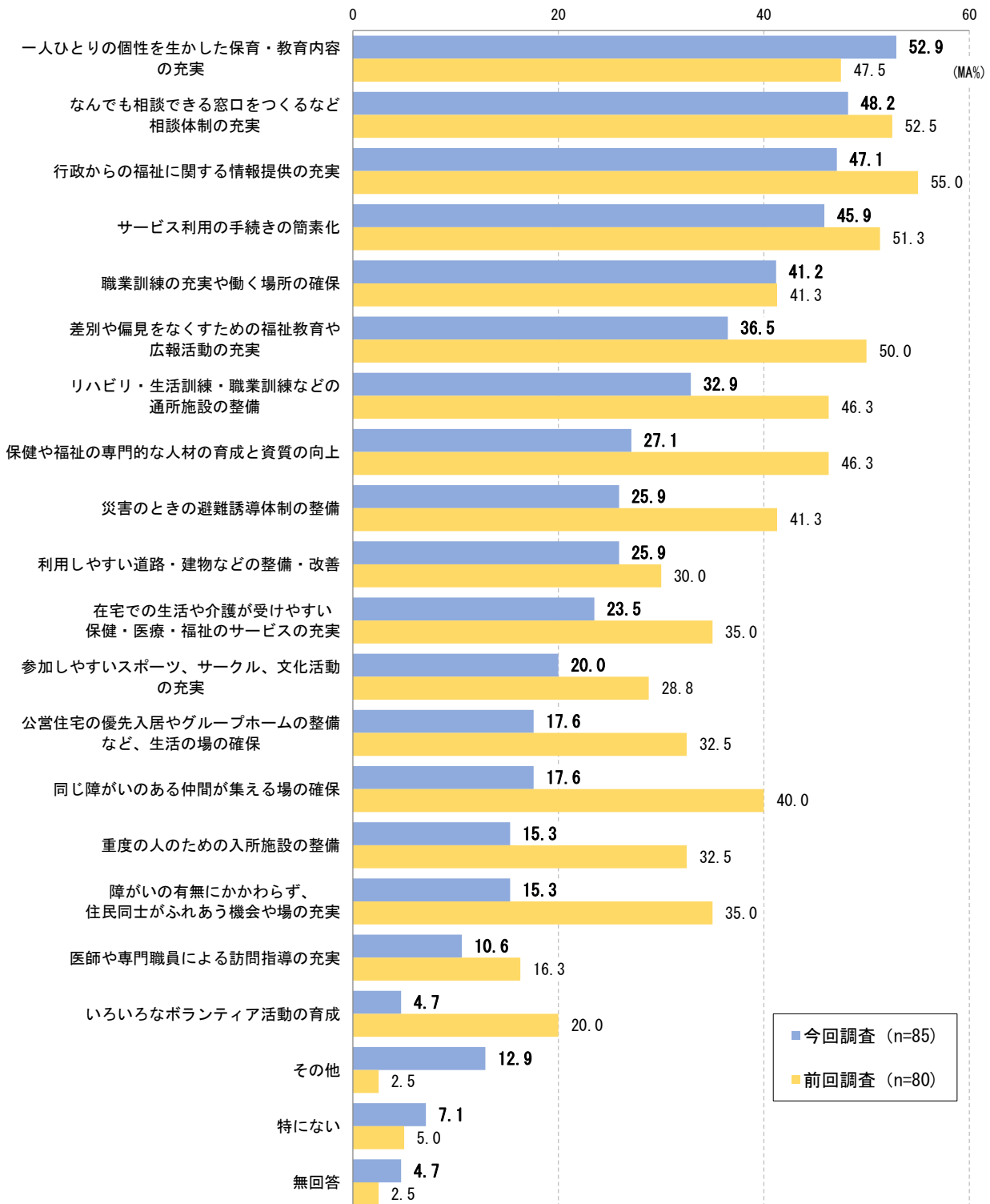
阪南市は暮らしやすいまちと思うかたずねたところ、暮らしやすいまちという割合（「暮らしやすいまちだと思う」「どちらかという暮らしやすいまちだと思う」の計）が半数以上（55.3%）を占めており、暮らしにくいという割合（「どちらかという暮らしにくいまちだと思う」「暮らしにくいまちだと思う」の計）は1割台（13.0%）みられる。



(2) 暮らしやすいまちづくりのために必要なこと

問 33 障がいのある人にとって暮らしやすいまちづくりのために必要なことはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)

障がいのある人にとって暮らしやすいまちづくりのために必要なこととしては、「一人ひとりの個性を生かした保育・教育内容の充実」が52.9%と最も多く、前回調査(47.5%)から5.4ポイント増えている。また、「なんでも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」が48.2%、「行政からの福祉に関する情報提供の充実」が47.1%、「サービス利用の手続きの簡素化」が45.9%と、次いで多くなっている。



10 自由意見

(1) 災害時に大変だったことや困った状況など

■近年の地震や台風、水害の際に、あなたやご家族が大変だったこと、困った状況などがあれば具体的にお聞かせください。

主な意見
地震が起きても何があったのかわからずパニックになる。避難所での共同生活ができない。
まだ幼いので、災害時どこかに行くのもためらってしまう。(静かにできない、じっとできない)
重度のアレルギーで食事ができず(作れず)困った。
薬の副作用で熱がこもるため、停電した時の体温調節が大変だった。

(2) 新型コロナウイルス感染症により大変だったことや困った状況など

■新型コロナウイルス感染症(COVID-19)により、あなたやご家族が大変だったこと、困った状況などがあれば具体的にお聞かせください。

主な意見
感染すると重度化するので心配
持病があり、他の子と違ってリスクがあるため、同じように遊ばせてあげられなかった。
感染を気にして放課後等デイサービスをほとんど利用せず、ずっと家にいてストレスがたまっている状態だった。
日常的に吸引が必要なためアルコール手消毒が必要だが、買い占めなどにより売っておらず困った。医療的ケアが必要な人は優先的に購入できるようになれば少しは助かる。
幼稚園も休園となり、預ける場所がなかった。子どもを同伴での仕事となってしまった。

(3) 障がい福祉サービスや行政の取組についての意見

■障がい福祉サービスや行政の取組について、何かご意見がありましたらお聞かせください。

主な意見
療育のことも自ら調べて受けたので、受けられるサービスのことをもっと色々と知りたい。
障がいのある人が住みやすい環境を今よりも一層整えてほしい。働く場、憩える場、悩みを相談できる場をどんどん提供してほしい。
障がい者の進学、就職の情報をどこで入手できるのかわからない。
重度の子どもを預けられるところが少ないため、利用者が集中し、預けられる日が限られる。
講演会なども実施されていると思うが、働いていると平日の参加は難しい。小学校、中学校での授業や保護者向けの啓発講演会など、啓発には工夫してもらいたい。
障がい者にはあてはまらないグレーゾーンの人たちでも医療や福祉に手厚いサービスが受けられるようにしてもらいたい。

Ⅱ-3 事業所アンケート

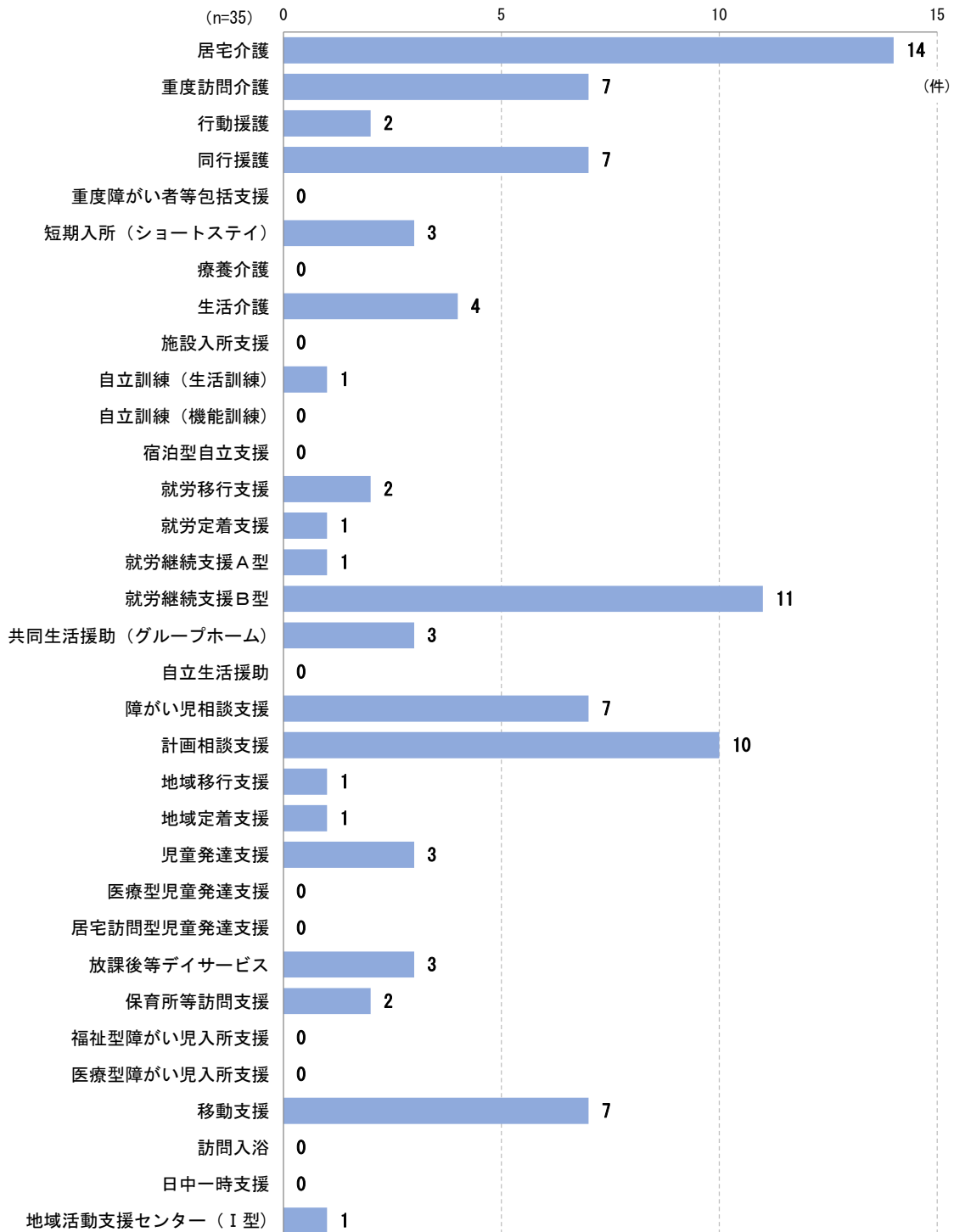
(1) 障がい福祉サービス等の提供状況及び今後の新規参入予定など

①現在の提供状況

問1 現在実施しているサービスの番号に○をつけ、「現在の提供状況」を記入してください。
(令和2年(2020年)7月1日現在の状況)

<現在実施しているサービス>

各事業所が実施しているサービスとしては、「居宅介護」が14件、「就労継続支援B型」が11件、「計画相談支援」が10件などとなっている。



<定員>

(件)

	調査数	1 0 人 未 満	1 0 人 未 満 1 9 人	2 0 人 未 満 2 9 人	3 0 人 未 満 3 9 人	4 0 人 未 満 4 9 人	5 0 人 未 満 5 9 人	6 0 人 未 満 6 9 人	7 0 人 未 満 7 9 人	無 回 答	(平均 人数 除く)
⑥短期入所（ショートステイ）	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	9.3
⑧生活介護	4	1	0	2	0	1	0	0	0	0	22.8
⑩自立訓練（生活訓練）	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	16.0
⑬就労移行支援	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	15.0
⑭就労定着支援	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—
⑮就労継続支援A型	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—
⑯就労継続支援B型	11	1	5	5	0	0	0	0	0	0	16.8
⑰共同生活援助（グループホーム）	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	12.7
⑲障がい児相談支援	7	1	1	1	0	0	0	0	0	4	13.3
⑳計画相談支援（障がい者）	10	0	0	1	0	1	0	0	2	6	56.5
㉑児童発達支援	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	11.0
㉒放課後等デイサービス	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	9.3
㉓保育所等訪問支援	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	—

※いずれの事業所も実施していないサービス及び利用定員に該当しないサービスは省略

<事業所を利用した人数（1日あたりの平均利用者数）>

(件)

	調査数	1 0 人 未 満	1 0 人 未 満 2 0 人 未 満	2 0 人 未 満 3 0 人 未 満	3 0 人 未 満 4 0 人 未 満	4 0 人 未 満 5 0 人 未 満	5 0 人 未 満 6 0 人 未 満	6 0 人 未 満 7 0 人 未 満	7 0 人 未 満 8 0 人 未 満	無 回 答	(平均 人数 除く)
①居宅介護	14	10	1	0	0	0	0	0	0	3	5.2
②重度訪問介護	7	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0.5
③行動援護	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	—
④同行援護	7	5	1	0	0	0	0	0	0	1	2.5
⑥短期入所（ショートステイ）	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2.0
⑧生活介護	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	9.1
⑩自立訓練（生活訓練）	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	13.8
⑬就労移行支援	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	15.3
⑭就労定着支援	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8.0
⑮就労継続支援A型	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	32.0
⑯就労継続支援B型	11	5	3	2	1	0	0	0	0	0	14.8
⑰共同生活援助（グループホーム）	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	8.5
⑲障がい児相談支援	7	3	0	0	0	0	1	0	0	3	13.1
⑳計画相談支援（障がい者）	10	3	0	1	0	0	2	0	0	4	22.1
㉑地域移行支援	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—
㉒地域定着支援	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—
㉓児童発達支援	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0	14.5
㉔放課後等デイサービス	3	1	1	0	0	0	0	0	1	0	33.9
㉕保育所等訪問支援	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	20.0
㉖移動支援	7	4	1	0	0	0	0	0	0	2	3.4
㉗地域活動支援センター（I型）	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9.9

※いずれの事業所も実施していないサービスは省略

< 阪南市の利用者数（1日あたりの平均利用者数） >

(件)

	調査数	1 0 人 未 満	1 0 人 未 満 2 0 人 未 満	2 0 人 未 満 3 0 人 未 満	3 0 人 未 満 4 0 人 未 満	4 0 人 未 満 5 0 人 未 満	5 0 人 未 満 6 0 人 未 満	6 0 人 未 満 7 0 人 未 満	7 0 人 未 満 8 0 人 未 満	無 回 答	(平均 無 回 答 除 く)
① 居宅介護	14	10	1	0	0	0	0	0	0	3	5.0
② 重度訪問介護	7	3	0	0	0	0	0	0	0	4	0.7
③ 行動援護	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	—
④ 同行援護	7	6	0	0	0	0	0	0	0	1	1.9
⑥ 短期入所（ショートステイ）	3	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2.8
⑧ 生活介護	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	5.6
⑩ 自立訓練（生活訓練）	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10.0
⑬ 就労移行支援	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	7.0
⑭ 就労定着支援	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4.0
⑮ 就労継続支援A型	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	14.0
⑯ 就労継続支援B型	11	2	4	2	0	0	0	0	0	3	13.5
⑰ 共同生活援助（グループホーム）	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	6.0
⑲ 障がい児相談支援	7	3	1	1	0	0	0	0	0	2	7.7
⑳ 計画相談支援（障がい者）	10	3	0	1	1	2	0	0	0	3	21.2
㉑ 地域移行支援	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—
㉒ 地域定着支援	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—
㉓ 児童発達支援	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	8.6
㉔ 放課後等デイサービス	3	1	1	0	0	1	0	0	0	0	21.1
㉕ 保育所等訪問支援	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	12.5
㉖ 移動支援	7	3	1	0	0	0	0	0	0	3	4.2
㉗ 地域活動支援センター（I型）	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9.2

※いずれの事業所も実施していないサービスは省略

②今後の定員・新規参入予定

今後定員に増減、新規参入予定がある場合、「予定定員」を記入、「予定時期」に○をつけてください。

< 予定定員（増減の予定または新規参入予定） >

	調査数	(件)									平均人数 (※無回答除く)
		10人未満	10人	20人	30人	40人	50人	60人	70人以上	無回答	
⑥短期入所（ショートステイ）	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	—
⑦療養介護	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	—
⑧生活介護	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	—
⑨施設入所支援	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	—
⑩自立訓練（生活訓練）	35	0	1	0	0	0	0	0	0	34	10.0
⑪自立訓練（機能訓練）	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	—
⑫宿泊型自立訓練	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	—
⑬就労移行支援	35	0	2	0	0	0	0	0	0	33	13.5
⑭就労定着支援	35	1	0	0	0	0	0	0	0	34	8.0
⑮就労継続支援A型	35	0	0	0	1	0	0	0	0	34	31.0
⑯就労継続支援B型	35	1	2	0	1	1	0	0	0	30	19.6
⑰共同生活援助（グループホーム）	35	0	1	0	0	0	0	0	0	34	18.0
⑱障がい児相談支援	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	—
⑲計画相談支援（障がい者）	35	0	0	0	1	0	0	0	0	34	30.0
⑳児童発達支援	35	1	0	0	0	0	0	0	0	34	5.0
㉑医療型児童発達支援	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	—
㉒居宅訪問型児童発達支援	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	—
㉓放課後等デイサービス	35	1	0	0	0	0	0	0	0	34	5.0
㉔保育所等訪問支援	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	—
㉕福祉型障がい児入所支援	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	—
㉖医療型障がい児入所支援	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	—
㉗日中一時支援	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0.0

※利用定員に該当しないサービスは省略

※「無回答」には、増減予定なし、新規参入予定なしの事業所が含まれる

＜予定時期（年度）＞

(件)

	調査数	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	無回答
①居宅介護	35	1	1	0	0	33
②重度訪問介護	35	0	1	0	0	34
③行動援護	35	0	0	0	0	35
④同行援護	35	0	0	0	0	35
⑤重度障がい者等包括支援	35	0	0	0	0	35
⑥短期入所（ショートステイ）	35	0	0	0	0	35
⑦療養介護	35	0	0	0	0	35
⑧生活介護	35	0	0	0	0	35
⑨施設入所支援	35	0	0	0	0	35
⑩自立訓練（生活訓練）	35	0	1	0	0	34
⑪自立訓練（機能訓練）	35	0	0	0	0	35
⑫宿泊型自立訓練	35	0	0	0	0	35
⑬就労移行支援	35	1	0	1	0	33
⑭就労定着支援	35	1	0	0	0	34
⑮就労継続支援A型	35	1	0	0	0	34
⑯就労継続支援B型	35	2	1	1	0	31
⑰共同生活援助（グループホーム）	35	0	1	0	0	34
⑱自立生活援助	35	0	0	0	0	35
⑲障がい児相談支援	35	0	0	0	0	35
⑳計画相談支援（障がい者）	35	1	1	0	0	33
㉑地域移行支援	35	0	0	0	0	35
㉒地域定着支援	35	0	0	0	0	35
㉓児童発達支援	35	0	0	1	0	34
㉔医療型児童発達支援	35	0	0	0	0	35
㉕居宅訪問型児童発達支援	35	0	0	0	0	35
㉖放課後等デイサービス	35	0	0	1	0	34
㉗保育所等訪問支援	35	0	0	0	0	35
㉘福祉型障がい児入所支援	35	0	0	0	0	35
㉙医療型障がい児入所支援	35	0	0	0	0	35
㉚移動支援	35	0	0	0	0	35
㉛訪問入浴	35	0	0	0	0	35
㉜日中一時支援	35	0	0	0	0	35
㉝地域活動支援センター（I型）	35	0	0	0	0	35

※「無回答」には、増減予定なし、新規参入予定なしの事業所が含まれる

(2) 今後のサービス利用者数の見込み

問2 貴事業所では、今後サービス利用を希望する人数がどのように変化すると見込んでいますか。
問1で回答されたサービスごとに、該当する番号に○をつけてください。(それぞれ1つに○)

各事業所で実施しているサービスについて、今後利用を希望する人数の変化の見込みとして、「増加すると見込んでいる」が、『⑩就労継続支援B型』で6件、「①居宅介護」、「⑱障がい児相談支援」、「⑳計画相談支援(障がい者)」でいずれも3件などとなっている。一方、「減少すると見込んでいる」は、『②重度訪問介護』、『④同行援護』で2件などとなっている。

(件)

	調査数	増加すると見込んでいる	横ばいであると見込んでいる	減少すると見込んでいる	わからない	無回答
①居宅介護	14	3	6	1	2	2
②重度訪問介護	7	0	2	2	2	1
③行動援護	2	0	2	0	0	0
④同行援護	7	1	4	2	0	0
⑥短期入所(ショートステイ)	3	1	2	0	0	0
⑧生活介護	4	1	2	1	0	0
⑩自立訓練(生活訓練)	1	0	0	1	0	0
⑬就労移行支援	2	1	0	1	0	0
⑭就労定着支援	1	1	0	0	0	0
⑮就労継続支援A型	1	1	0	0	0	0
⑯就労継続支援B型	11	6	2	1	0	2
⑰共同生活援助(グループホーム)	3	1	1	0	0	1
⑱障がい児相談支援	7	3	1	0	2	1
⑳計画相談支援(障がい者)	10	3	2	0	3	2
㉑地域移行支援	1	0	0	0	0	1
㉒地域定着支援	1	0	0	0	0	1
㉓児童発達支援	3	1	2	0	0	0
㉔放課後等デイサービス	3	1	2	0	0	0
㉕保育所等訪問支援	2	2	0	0	0	0
⑳移動支援	7	1	4	1	0	1
㉗地域活動支援センター(I型)	1	0	0	0	0	1

※いずれの事業所も実施していないサービスは省略しているため連番ではありません。

(3) 今後のサービス利用動向を受けての対応方針

問3 貴事業所では、今後のサービス利用動向を受けて、どのように対応する方針を持っていますか。
問1で回答されたサービスごとに、該当する番号に○をつけてください。(それぞれ1つに○)

各事業所で実施しているサービスについて、今後のサービス利用動向への対応方針をたずねたところ、「事業を拡大する」が、『⑩就労継続支援B型』で3件などとなっている。一方、「事業を短縮する」は、『⑩自立訓練（生活訓練）』、『⑬就労移行支援』でともに1件となっている。

(件)

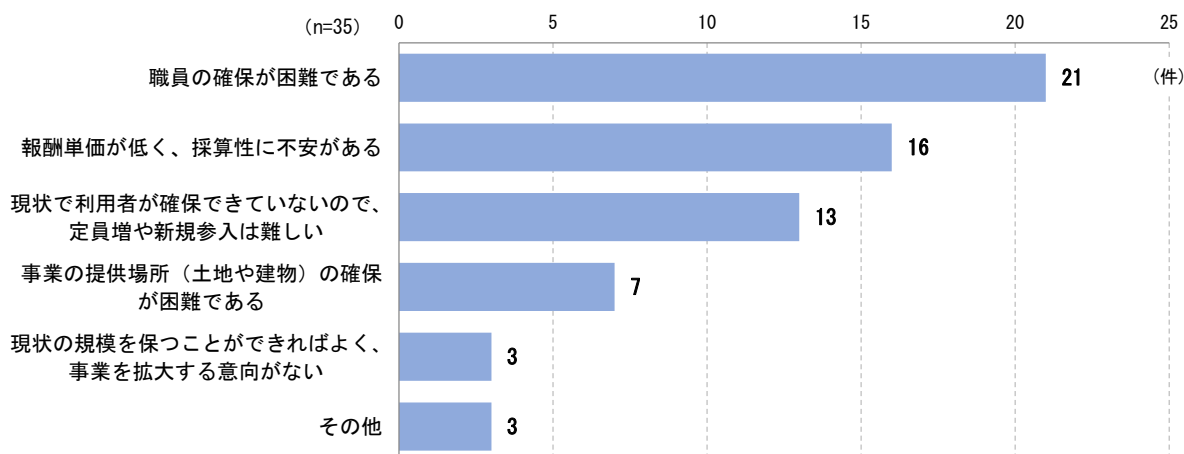
	調査数	事業を拡大する	事業を維持する	事業を短縮する	わからない	無回答
①居宅介護	14	1	10	0	1	2
②重度訪問介護	7	0	4	0	1	2
③行動援護	2	0	2	0	0	0
④同行援護	7	1	6	0	0	0
⑥短期入所（ショートステイ）	3	0	3	0	0	0
⑧生活介護	4	1	3	0	0	0
⑩自立訓練（生活訓練）	1	0	0	1	0	0
⑬就労移行支援	2	0	1	1	0	0
⑭就労定着支援	1	0	1	0	0	0
⑮就労継続支援A型	1	1	0	0	0	0
⑯就労継続支援B型	11	3	5	0	0	3
⑰共同生活援助（グループホーム）	3	1	1	0	0	1
⑲障がい児相談支援	7	0	6	0	0	1
⑳計画相談支援（障がい者）	10	0	7	0	1	2
㉑地域移行支援	1	0	0	0	0	1
㉒地域定着支援	1	0	0	0	0	1
㉓児童発達支援	3	0	3	0	0	0
㉔放課後等デイサービス	3	0	3	0	0	0
㉗保育所等訪問支援	2	0	2	0	0	0
㉘移動支援	7	0	6	0	0	1
㉚地域活動支援センター（I型）	1	0	0	0	0	1

※いずれの事業所も実施していないサービスは省略しているため連番ではありません。

(4) サービスの定員増員や新規参入が進まない理由

問4 各サービスについて、今後の定員・新規参入予定についての意向をおうかがいしましたが、多くのサービスでは、あまり定員の増加が進んでいないのが現状です。それらの定員増員や新規参入が進まない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

サービスの定員の増加や新規参入が進まない理由としては、「職員の確保が困難である」が 21 件と最も多く、次いで「報酬単価が低く、採算性に不安がある」が 16 件となっている。

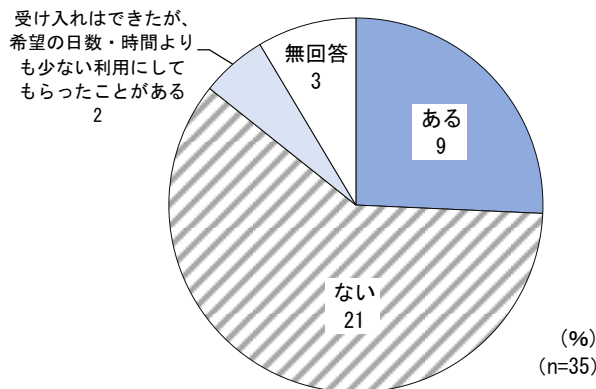


(5) 利用者の受け入れができなかった事業の状況

①受け入れができなかった事業の有無

問5 貴事業所では、平成31年(2019年)4月から現在まで、利用者からの依頼に対して、受け入れ(事業提供)できなかったことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

利用者からの依頼に対して、受け入れ(事業提供)できなかったことが「ある」が9件に対し、「ない」が21件、「受け入れはできたが、希望の日数・時間よりも少ない利用にしまったことがある」が2件となっている。



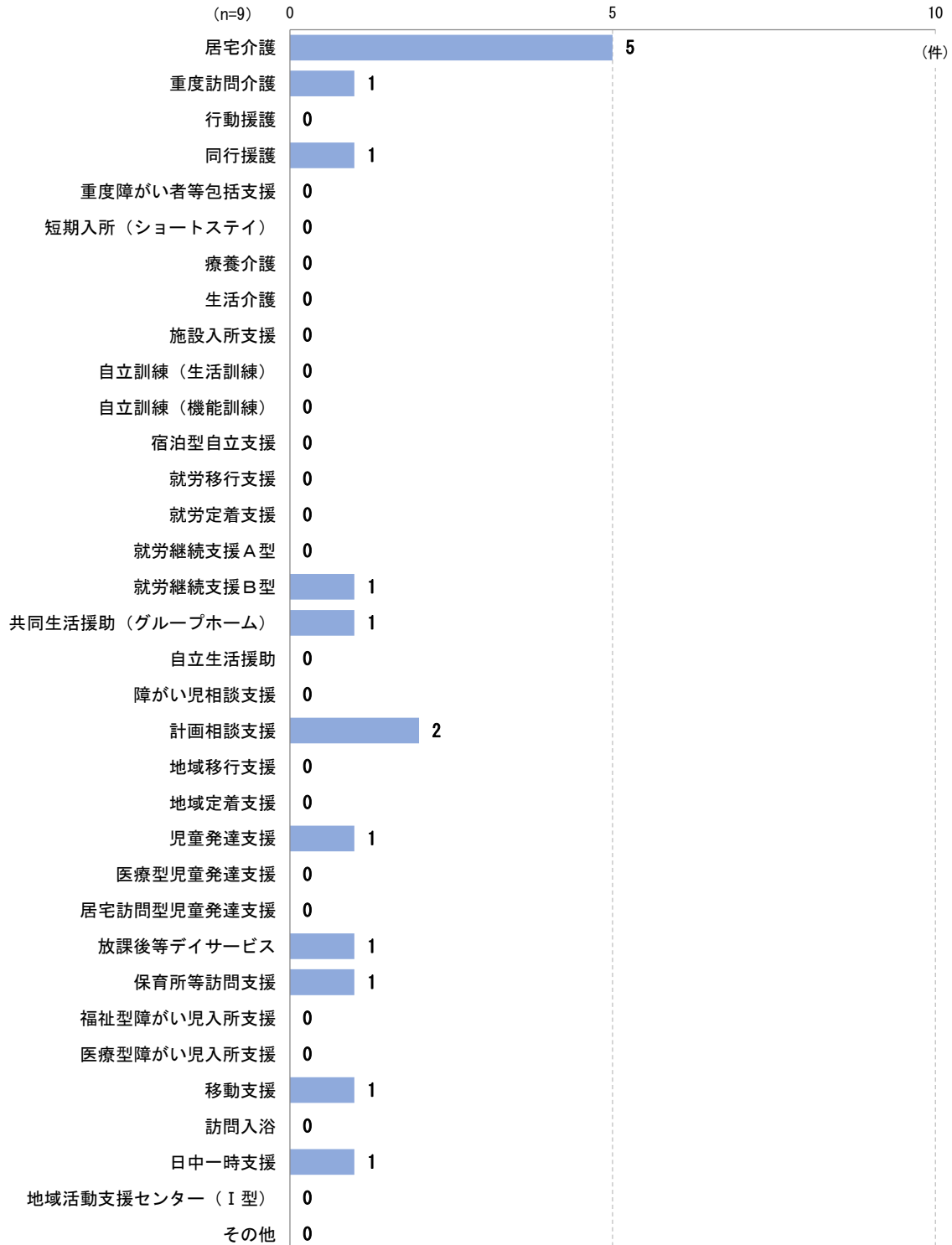
②受け入れできなかった事業及び理由

【問5で「ある」と回答の事業所にお聞きします】

問6 受け入れ（事業提供）できなかった事業は何ですか。下記の事業番号から選び、受け入れできなかった理由を①～⑤の選択肢から選び、回答欄にご記入ください。

<受け入れできなかった事業>

具体的に受け入れできなかった事業としては、「居宅介護」が5件、「計画相談支援」が2件などとなっている。



<受け入れできなかった理由>

(件)

	調査数	希望される時間帯に利用が集中している	希望される時間帯に、事業者として業務提供していかない(夜間、休日など)	希望される時間帯に、事業者として業務提供していかない(夜間、休日など)	障がい程度などによる種別、事業所では対応できない困難	新規契約者を受け入れる余裕がなかった(職員体制など)	その他	無回答
①居宅介護	5	4	2	0	4	0	0	
②重度訪問介護	1	0	0	0	1	0	0	
④同行援護	1	1	0	0	0	0	0	
⑩就労継続支援B型	1	0	0	1	0	0	0	
⑪共同生活援助(グループホーム)	1	0	1	0	0	0	0	
⑳計画相談支援(障がい者)	2	0	0	0	1	0	1	
㉓児童発達支援	1	1	0	0	1	0	0	
㉔放課後等デイサービス	1	1	0	0	1	0	0	
㉕保育所等訪問支援	1	0	0	0	1	0	0	
㉖移動支援	1	0	0	0	1	0	0	
㉗日中一時支援	1	0	1	0	0	0	0	

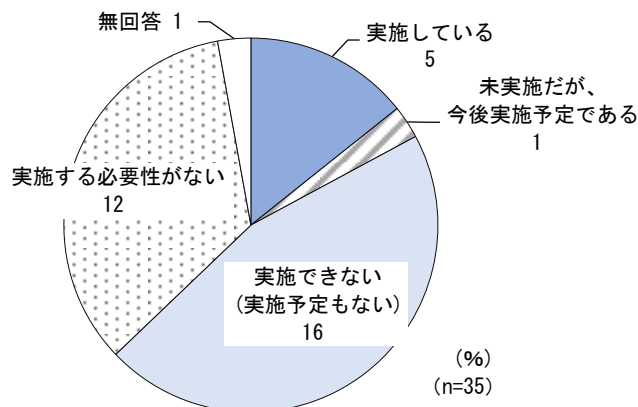
※受け入れできなかった事業が0件の場合は省略

(6) 医療的ケアの状況

①医療的ケアの実施状況

問7 医療的ケアを実施していますか。(1つに○)

医療的ケアの実施状況としては、「実施している」が5件に対し、「未実施だが、今後実施予定である」が1件、「実施できない(実施予定もない)」が16件となっている。また、「実施する必要がない」が12件みられる。

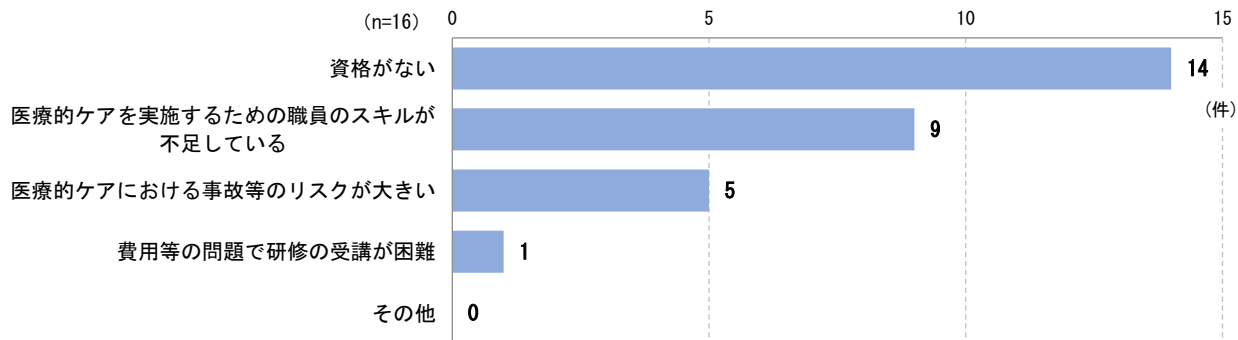


②医療的ケアが実施できない理由

【問7で「実施できない（実施予定もない）」と回答の事業所にお聞きします】

問7-1 医療的ケアを実施できない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

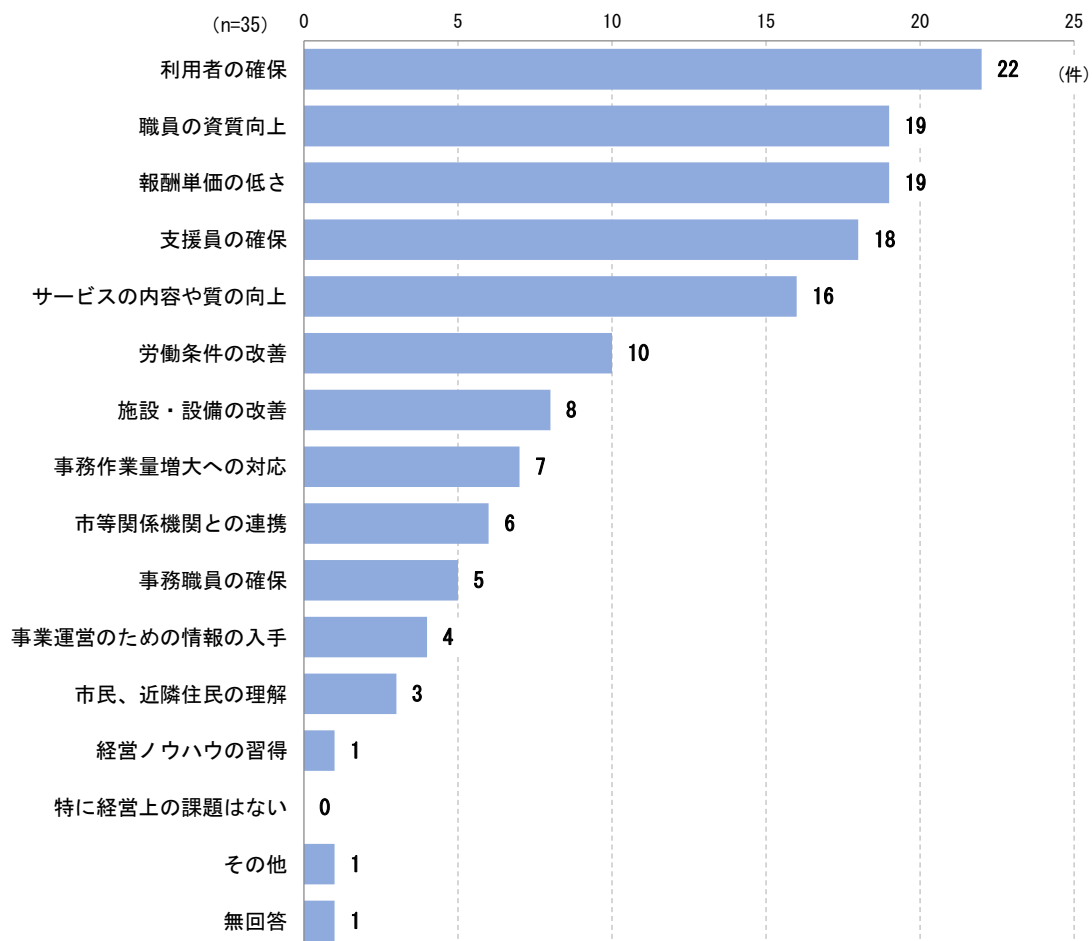
医療的ケアを実施できないと回答した事業所の理由としては、「資格がない」が14件と最も多く、次いで「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」が9件となっている。



(7) 改善したい経営上の課題

問8 円滑な事業運営のために、改善したい経営上の課題は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

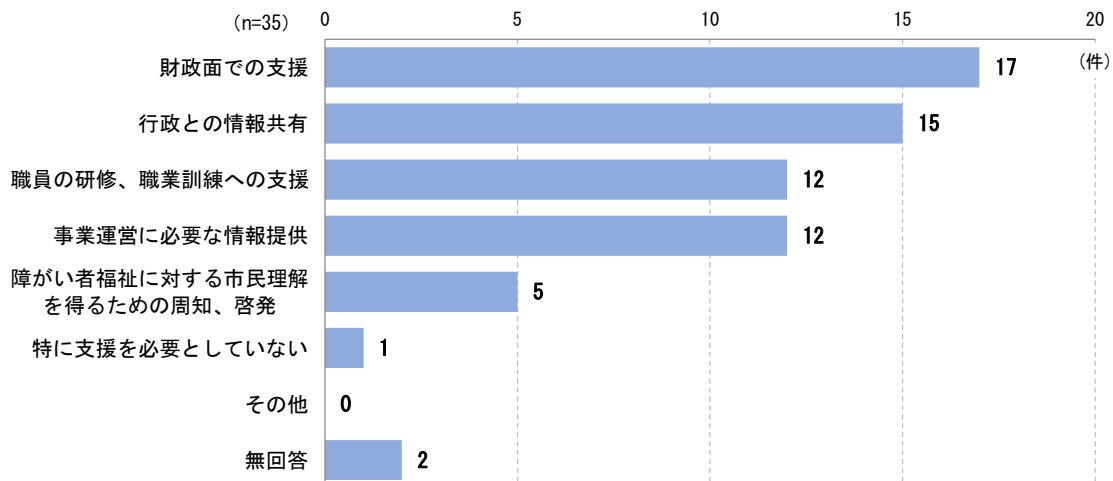
円滑な事業運営のために改善したい経営上の課題としては、「利用者の確保」が22件と最も多く、次いで「職員の資質向上」、「報酬単価の低さ」がともに19件、「支援員の確保」が18件、「サービスの内容や質の向上」が16件となっている。



(8) 行政等の関係機関からの必要な支援

問9 今後の事業運営にあたって、行政等の関係機関のどのような支援が必要でしょうか。
(あてはまるものすべてに○)

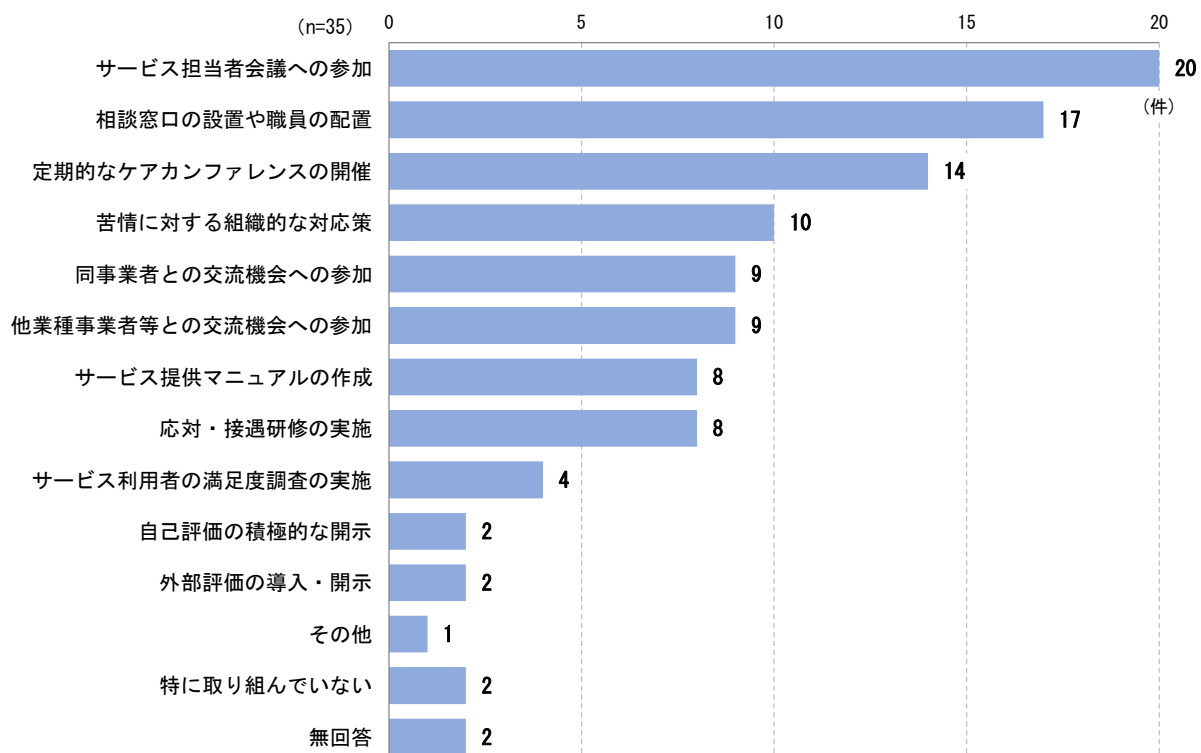
今後の事業運営にあたり、行政等の関係機関からの必要な支援としては、「財政面での支援」が17件と最も多く、次いで「行政との情報共有」が15件となっている。



(9) サービスの質向上のための取組

問10 貴事業所では、サービスの質の向上のため、現在重点的に取り組まれていることはありますか。
(おもなもの3つまで○)

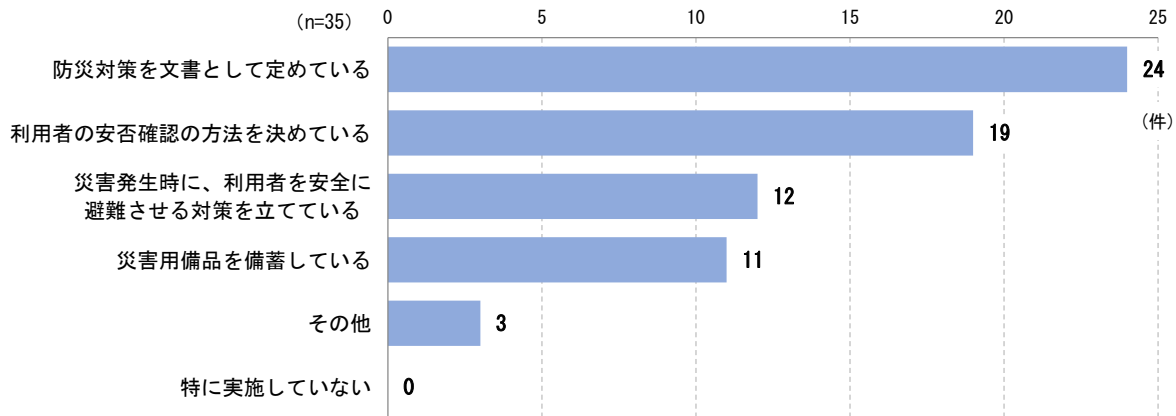
サービスの質の向上のために重点的に取り組んでいることとしては、「サービス担当者会議への参加」が20件と最も多く、次いで「相談窓口の設置や職員の配置」で17件、「定期的なケアカンファレンスの開催」で14件となっている。



(10) 防災対策の実施状況

問 11 事業所の防災対策を実施していますか。(あてはまるものすべてに○)

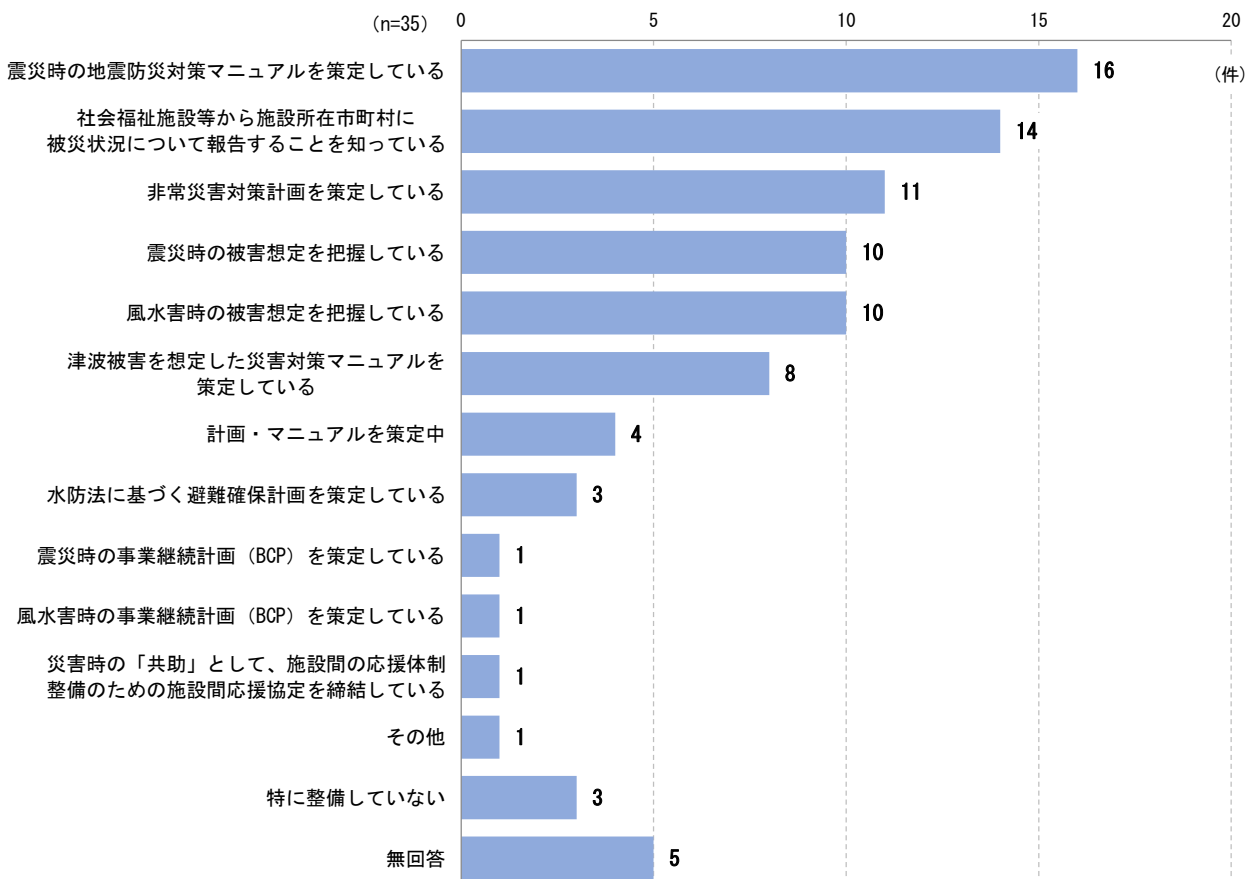
事業所内の防災対策の実施状況としては、「防災対策を文書として定めている」が 24 件と最も多く、次いで「利用者の安否確認の方法を決めている」が 19 件となっている。



(11) 災害発生時の対策の実施状況

問 12 災害発生時から業務復旧までの計画等災害時の対策をされていますか。(あてはまるものすべてに○)

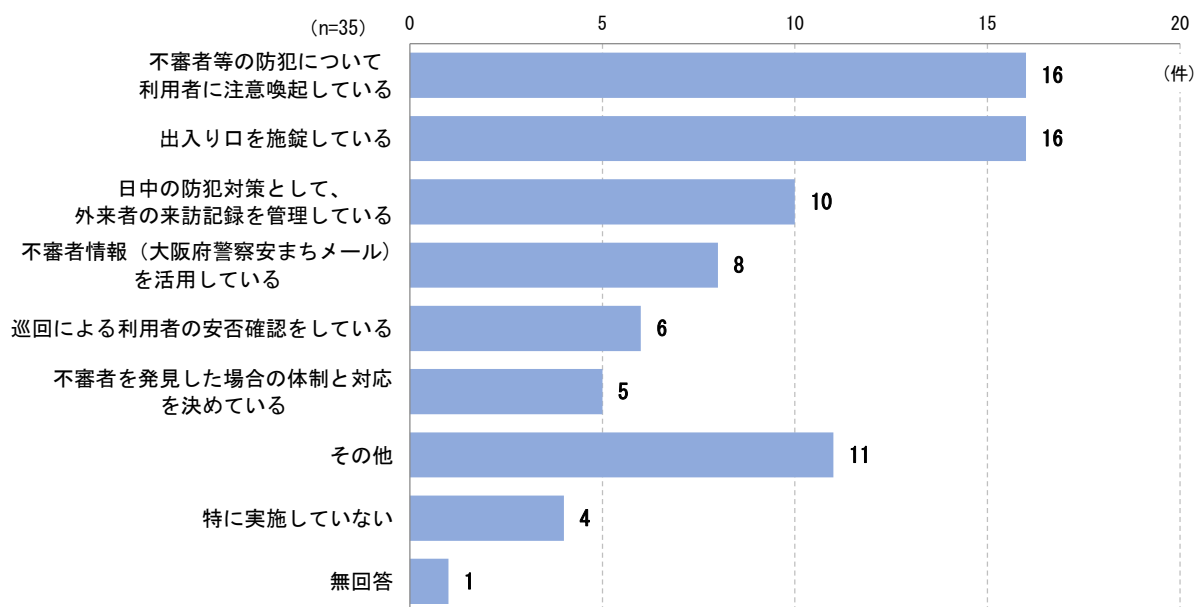
災害発生時から業務復旧までの計画等の対策の実施状況としては、「震災時の地震防災対策マニュアルを策定している」が 16 件と最も多く、次いで「社会福祉施設等から施設所在市町村に被災状況について報告することを知っている」が 14 件、「非常災害対策計画を策定している」が 11 件などとなっている。



(12) 防犯対策の実施状況

問 13 事業所の防犯対策を実施していますか。(あてはまるものすべてに○)

事業所内の防犯対策の実施状況としては、「不審者等の防犯について利用者に注意喚起している」、「出入口を施錠している」がともに 16 件と最も多くなっている。



(13) 新型コロナウイルス感染症による影響

問 14 貴事業所では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による影響はありましたか。ご苦労されたこと、また今後の対策等ありましたらお聞かせください。

主な意見
新規利用者の受け入れがなかった。
請負作業の量が減り（収入減となり）、利用者への工賃が確保できない。
外出の自粛の影響で移動支援がなくなり、売上が大幅減。また、マスクや消毒液の値が上がり、経費がかさんできている。
自粛により利用者数が減ることで、職員配置数とのアンバランスが生じ、経営上の負担が大きくなっている。
マスク、アルコール、手袋等の備品確保が心配される。
訪問を拒否され、面談ができない利用者への対応
現状では、これまで通りの同行援護・移動支援のサービスの実施は難しいと考えている。
新型コロナウイルス感染症により、在宅支援を実施している。
スタッフの中で子どもの休校に伴う欠勤や勤務自粛があり、サービス量の確保が制限された。
通院介助で病院に行かないといけないので、ヘルパーも感染しないかとても不安だった。
3密回避のため、分散通所してもらっているが、より支援の必要性の高い人には通常通所してもらっている。ソーシャルディスタンスの取れる建物・設備の確保が今後の課題

福祉に関するアンケート調査
報告書

阪南市福祉部市民福祉課

阪南市こども未来部こども家庭課

〒599-0292

大阪府阪南市尾崎町 35 番地の 1

電話 072-471-5678

FAX 072-473-3504

令和3年1月